ふじのくに

伊豆地域11邑　東部地域11邑　中部地域 9邑　西部地域14邑掲載

美しく品格のある邑（むら）

ガイドブック

ふじのくにはこんなにも美しい



ふじのくに美しく品格のある邑

ガイドブック

2013

ふじのくに美しく品格のある邑

気候が温暖で、風光明媚な静岡県。
日本一高い富士山から日本一深い駿河湾まで、東は「日本ジオパーク」に認定されている伊豆半島、西は「汽水湖」の浜名湖。

静岡県には、豊かな自然と風土に恵まれ、人々の暮らしの営みの中で守られてきた美しい風景や脈々と受け継がれてきた伝統芸能など、個性豊かで魅力溢れる地域が多くあります。

また、219品目にも及ぶ日本一の品目数を誇る多彩で高品質な芸術品と呼べる農林水産物を生産する「食材の王国」でもあります。

県内の魅力溢れる地域やそこで採れる多彩な農林水産物には、まだまだ、皆さんが知らない逸品が多くあり、これらの地域や農林水産物が、新東名高速道路の開通により、皆さんと近いものになりました。

このガイドブックを手に美しく品格のある邑を訪れ、人々や文化に触れ、農の芸術品を味わい、素晴らしい景観を満喫し、満足していただけたら幸いです。









季節の風を感じる



ふじのくにの美しい景観を愛でる













ふじのくにの

多彩な食材を

食べる









生き生きとした

人たち

に出会う







ふじのくに
美しく品格のある邑

- 平成24年度登録邑
- 平成25年度登録邑



多様性を生む源泉「邑」

～邑（むら）とは?～

「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」では、少し変わった「むら」という字を使用しています。

一般に「むら」と言えば市町村の「村」を使いますが、行政的な区分ではなく、「明るい展望を持って農業に勤しむ農業者と、地域内外から集まった人たちが、農業・農山漁村のためにともに考え、ともに行動し、ともに笑い幸福感を分かち合う様な目的を共有する人々のコミュニティ」を形成したいとの思いから、人が多く集まるところという意味を持つ「邑（ゆう）」の字を用いています。

地縁型ではない「目的型の新しいコミュニティを農山漁村に作りたい」という強い思いがここにあります。

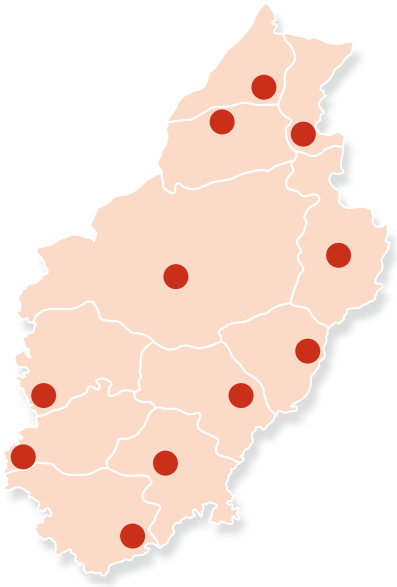






伊豆地域

Izu





01 下田市

下大沢

しもおおさわ

天空のみかん畑が広がる緑豊かな山里

遠くに寝姿山や伊豆七島を望む。下大沢地区では、過疎が進む集落の活性化を図るため集落に通じる道路沿いにユニークな看板を設置するなど集落を元気にする活動を行っています。



みかん畑の向こうに見える伊豆七島

下田の奥座敷と言われている蓮台寺温泉のさらに北西方向に位置する奥深い緑の山里。集落は中山間地域特有の傾斜がきつい山中にあり、地域外からは、殆ど立ち寄られることはありませんが、古くは近隣の松崎や河津を結ぶ街道の中継点となる要衝で、「下田市景観まちづくり条例」に規定される「下田市認定まち遺産」の中に、古道に祀られる「庚申塔」や、道祖神と火の神様秋葉さんのある「辻の段」が認定されています。

昭和40年代に整備された甘夏みかん畑は集落よりも高い峠の付近にあり、ここからの眺望は、オレンジの水玉が一面に広がるみかん畑の向こうに、下田富士や寝姿山などの山々と、その先に太平洋、伊豆七島を望むことができる知られざる絶景です。



交通標語が微笑ましい邑

集落の過疎化が進み、人口約120人と少ない邑では、数十年前から地域活性化グループ「山里会」が組織され、盆踊り、秋祭、どんど焼、花見会、海水浴等の行事の他、地域の防災訓練やボランティア活動も行い、地域の親睦を深め、連帯感を強めています。

昭和45年からは手製の交通標識看板を製作し、つづら折の生活道路沿いに数十メートル間隔で設置しています。この看板には、交通安全喚起だけでなくユーモアを交えた集落内が和むような標語が手書きされていて、これらの活動が評価されて静岡県交通安全協会などから表彰を受けています。



やぶきた茶葉から生まれた「紅茶」

地域の主要農業は、柑橘類の生産で、特に甘夏みかんは市内一の生産高を誇ります。平成23年4月には、市内ボランティア団体と協力し、甘夏みかん（15kg×100箱）を東日本大震災の被災地に送り届けました。

また、まちづくり事業に取り組む市内NPO団体が平成5年に開発した「開国紅茶」は、当地の市内唯一となる茶畑で収穫されたやぶきた茶葉を原料としています。現在では、紅茶4種類（甘夏味など）以外に、紅茶うどん、紅茶飴2種類といった多様な製品化が進み、道の駅等で販売されるなど地域活性化の一助ともなっています。このNPO団体は、茶摘み、草刈り、刈り込みや施肥などの茶園管理作業を地域外の小学生から一般成人までが参加する体験型のイベントとして行い、交流を進めています。



邑の語り部



下大沢山里会
山田 豊秋さん

山里会のメンバーは11名で、PTA活動を一緒にやった仲間が中心。現役時代は、あまり出来なかった地域活動を退職後の第2の人生で、頑張ろうと考えています。他地域に住む子供たちが戻ってきたくなるような、また訪れてくれる人が感激するような環境作りを仲間と共にやっていきます。過疎化が進み前途は多難ですが、今まで自分たちが培ってきた力の全てを結集してこの「美しく品格のある邑」に当りたいと考えています。

アクセス方法

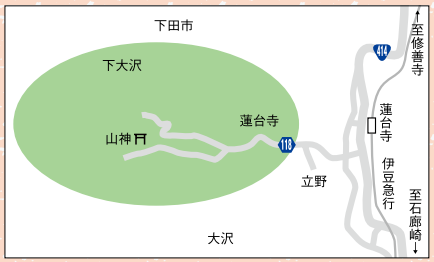
■公共交通機関を御利用の場合

伊豆急行線蓮台寺駅ー（東海バス　下田駅行）ー稲生小学校バス停乗換ー（東海バス　大沢口行）ー大沢口バス停

■お車を御利用の場合

東名高速 沼津ICより約130分
新東名高速 長泉沼津ICより約130分

邑の農地／田5ha、畑9ha
主な農産物／柑橘（甘夏みかん、ポンカン）



柑橘類が豊富です「様々な種類の柑橘類」

下大沢地域は柑橘類の栽培が盛んです。ポンカン、はるみ、でこぽん、ゴールデンスペシャル、甘夏みかんなど種類が豊富です。品種によって食べ頃が異なりますので、地域の方に尋ねてみると色々と教えてもらえます。ハイキングのお土産にもいいですね。近隣の道の駅などでも購入できます。5月頃にはミカンの花の爽やかな香りが下大沢を包み込みます。ミカン畑の向こうに広がる雄大な景色も楽しめます。



思わず笑顔になってしまいます「温もりあふれる交通標語」

下大沢地域に向かう道は車一台がやっと通れる1本道。登り切った先は行き止まりで駐車スペースもありません。住民以外の車の乗り入れはご遠慮ください。ハイキングに最適です。集落入口の大沢口バス停から徒歩でどうぞ。心和ませる、地元の皆さんの遊び心のつまったたくさんの交通標識でお出迎え。下田駅から門脇・中村大橋経由、蓮台寺・大沢口方面行のバスで大沢口下車、バス停横の小さな川沿いを上っていく道沿いで出会えます。



古に思いを馳せる 下田市景観まち遺産「辻の段」

古くは松崎や河津を結ぶ街道の中継点でもあった、下大沢地区。庚申塔や道祖神が点在する地域で、この「辻の段」は下田市認定まち遺産の一つに指定されています。急斜面で徒歩でしか行けませんが、辻の段まで上りきったら呼吸を整えて、ゆっくり後ろを振り向いてみてください。かつてここを通った人々も、辻の段の前で同じような絶景を眺めていたのかも知れません。



02 賀茂郡東伊豆町

大川

おおかわ

ホタルが乱舞し みかん畑と海が調和する邑

大川地区では「ストレリチア」と「みかん」を主に栽培。地域住民が、「ホタル祭り」や「アマゴのつかみ取り」等のイベントを開催し、来訪者との交流を積極的に進めています。



ホタルが舞い、ツバキの咲く邑

大川地区は、東伊豆町温泉郷の玄関口として有名な大川温泉のある地域で、山々が海岸線まで迫り、天気のいい日には、伊豆七島が遠望できる自然豊かな地域です。特に海の中で寝そべって遠吠えしているような「ライオン岩」は、自然が作り出した造形美で東伊豆町の重要な観光スポットになっています。

みどり豊かな山々に目を向けてみると、向井田川沿いに整備された遊歩道や自然椿園では、渓谷美や季節の花々を楽しむことができ、周辺ではみかんのほか、地域の象徴であるストレリチアなどの花卉が盛んに栽培されています。

また静岡県の水辺百選にも選ばれた竹ヶ沢公園にはゲンジボタルが生息し、6月には夕闇の中を乱舞する姿が見られます。



地域で子供たちを育てる邑



大川地区では、向井田川渓谷沿いに自生しているやぶ椿を多くの人たちに見てもらおうと、地域の人たちが自らの手で道路などの整備を行いました。今では、「大川自然椿園」として親しまれ、毎年1月から3月にかけてやぶ椿を楽しむことができ、2月にはイベントを開催しています。

また、向井田川に沿って整備された「竹ヶ沢公園」は、静岡県の水辺100選に選ばれた公園で、ホタルを復活させる取組などを行い、毎年6月にはホタル祭りを開催しています。

また、大人が小学校の運動会や収穫祭に参加したり、子供たちに炭焼やアマゴのつかみ取りなど自然とのふれあいを体験させ、地域全体で子供たちを育てています。

また、伝統芸能の「村祭り三番叟」が、地域の若者によって守られるなど、地域のコミュニティが保たれています。

地域特産のストレリチア



大川地区の町内会は、町の観光協会と連携してツバキ祭りやアマゴのつかみ取り、ホタル祭りなどの運営に係わるなど、町全体の観光の魅力を高めることに努めています。

また、地域の特産物を模した「さざえ最中」や「成金豆」などを開発し、ロングセラーとなっています。

また、みかんやわさび、しいたけなどの農産物の栽培も盛んで、特にストレリチアは、地区を象徴する花として研修や新品種の試作等が積極的に行われており、駅のホームにも植えられています。

邑の語り部



大川地区 区長
飯田 伊三男さん

邑に住む人や訪れた人が楽しめるように考えて活動しています。

各イベントは、趣向を凝らしており、もっと賑わってもおかしくないと自信を持っています。

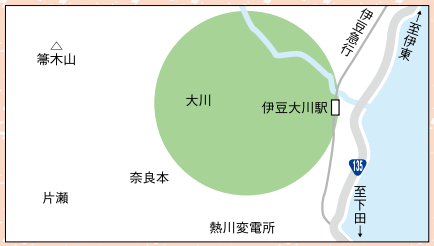
ストレリチアの花を邑じゅうに植え、村を華やかにしていきたい。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
伊豆急行線伊豆稲取駅

■お車を御利用の場合
東名高速 沼津ICより約115分
新東名高速 長泉沼津ICより約115分

邑の農地／畑63ha
主な農産物／柑橘（ニューサマーオレンジ）、わさび、しいたけ、花卉（ストレチア）



自分の手で魚をつかまえちゃおう!「アマゴつかみ取り大会」

毎年8月第一日曜日に開催される「大川アマゴつかみ取り大会」。川の中に作られた生簀で泳ぐアマゴを子供たちがつかまえ、その場で焼いて食べます。県外からもこのイベントを楽しみに毎年たくさんの人が訪れます。つかまえた子が、つかまえられなかった子にアマゴを分けてあげる微笑ましい場面に巡り合うこともあります。



みかん畑の向こうに海が広がります「美味しいみかんとわさび」

大川地区はみかんの栽培が盛んです。伊豆大川駅から自然椿園に向かって坂道を上っていくと、みかん畑越しに青い海を眺めることができます。例年、ホタル祭りの頃にみかんの花がいい香りを放ちます。また、清流にも恵まれた大川地区ではわさびの栽培も行われ、JAの朝市などで販売されています。



お祭りに行こう「伝統の秋祭りと2月の椿まつり」

毎年10月に行われる三島神社の秋祭り。伝統芸能の三番叟の奉納があり、一般の方も見学できます。また、標高800mの自然椿園で、自生しているヤブ椿の花が見頃になる2月頃、椿まつりが開催されます。地場産品の出店があり、炭窯見学もできます。日程など詳しくは「東伊豆町のホームページ」でご確認ください。



03 賀茂郡河津町

上佐ヶ野 わくわくの里

かみさがの わくわくのさと

多品種の農作物と山に囲まれた自慢の農村の原風景

地区内では、小規模ながら色々な種類の農産物を楽しく栽培しています。私たちは、「ふじのくに美農里プロジェクト」の活動を通して、自慢の農村風景を守る活動を積極的に行っています。



子供たちに自慢の農村風景を残したい！

上佐ヶ野地区は、伊豆半島の南端に近い東海岸の河津町のほぼ中央に位置します。地区のシンボルでもある「鉢の山」の南向き斜面にある農村集落で、地区の東を流れる清流佐ヶ野川からの用水が地区内を流れる自然豊かな地域です。地区では、水稲のほか、露地野菜や自然薯、みかん、いちご、絹サヤエンドウ、マンゴー、わさびなどの色々な農産物が小規模ながら栽培され、さらに椎茸などの林産物の栽培も盛んです。佐ヶ野川から取水する農業用水路には、水車小屋やホタル水路が整備された親水公園もあります。



マンゴー

しかし、近年は農業者の兼業化や高齢化の進行に伴い、遊休農地が発生し始めるとともに、水路や農道の管理、草刈などの共同作業を行う地域のコミュニティの維持に不安が生じてきたため、「自慢の農村風景を将来にわたって残したい」と、地域の人たちが立ち上がりました。



親水公園

地域一体となった活動がスタート



自分たちが住んでいる地域を良好に守り、育てることをめざし、農業者、自治会など地域住民が一体となって耕作放棄地の防止や農業用の用排水路、農道などの維持管理に取り組み始めました。また、地域コミュニティの再構築に向けて、農業の楽しさを理解してもらうために小学生の田植え体験などを行っています。さらに、地区周辺にあるキャンプ場や「伊豆元気わくわくの森公園」「河津ブルーベリーの里」などの資源を生かして、都市住民との交流活動を通じながら地域の活性化にも取り組んでいます。

わくわくの里で食べる！出会う！見る！

「河津ブルーベリーの里」は、夏季の期間中、ブルーベリー狩りを楽しむ多くの家族連れで賑わっています。開園中は地域農産物やブルーベリーかき氷、ジャムなども販売しており、来園者に好評を得ています。





毎年11月下旬に、親水公園で地区のもみじ祭りが開催されます。紅葉した大きなもみじの木はとても美しく、ゆったり回る水車も雰囲気を盛り上げます。しし鍋やつきたてのお餅、お汁粉などを食べながら地元の皆さんと楽しいひと時を過ごせます。また、6月下旬にはホタルと出会えます。

地区の上流には、地元の人達が愛する「三段滝」があります。綺麗な水が岩場の落差に乗って流れ落ちてくる姿は圧巻です。マイナスイオンをいっぱい浴びながら滝を眺めているととても癒されます。この三段滝や鉢の山に造られた遊歩道などは、「セラピーロード」に指定されており、ここから見える天城の山々の織り成す大自然の景色はとても素晴らしく、また史跡の多い地域でもあるので、ハイキングを楽しめます。



邑の語り部



上佐ヶ野わくわくの里 代表
土屋 文俊さん

私たちが大好きなこの風景をいつまでも守っていくために、地域全体で農地や農業用施設の保全管理を継続していこうと思います。都市部などの地区外の人たちも含めた農地の活用方策の検討や、地元で栽培したそばや小麦を活用した交流事業などを邑づくりの一環として実施していきたいと思います。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
伊豆急行線河津駅ー(東海バス 河津七滝行)ー下佐ヶ野バス停ー(徒歩15分)

■お車を御利用の場合
東名高速 沼津ICより約110分
新東名高速 長泉沼津ICより約110分

邑の農地／田7ha、畑16ha
主な農産物／米、柑橘、ブルーベリー、マンゴー



文学の散歩道「天城路」

「伊豆は風景の画廊である」川端康成はこの地をそう言い表しました。深い森が、豊かな水音が、そして、あたたかな人情が五感を包み込みます。多くの名作に描かれた河津の真髄にふれる散歩が愉しめます。「伊豆の踊り子」にも描かれた天城山隧道(旧天城トンネル)は、明治37年に完成しました。石造りのトンネルとしては、国内最長(445.5m)を誇ります。



フランスにいるみたい!「河津バガテル公園」

バガテルとは、フランス語で「小さな愛らしいもの」という意味です。フランス、パリのバガテル公園の姉妹園として、平成13年に開園しました。「バレリーナ」など優雅な名を持つ貴重なバラ約1100種、約6000本を一度に鑑賞できる贅沢なところです。見頃は、4月から11月にかけてです。この時期、高貴な香りで園内とあなたの心が満たされます。



花咲く町の代名詞「河津桜」

2月上旬から約1ヶ月間、大きめのピンクの花を咲かせる「河津桜」はまさに河津の誇りです。河津川沿いの4kmに及ぶお花見ハイキングロードは、「河津桜まつり」の時期だけで、全国から100万人を超える訪問者で沸き返ります。夜桜ライトアップや無料の足湯サービスなど訪れた人たちにも好評なイベントが年々盛んになっています。



04 賀茂郡南伊豆町

日野 元気な百姓達の里

ひの げんきなひゃくしょうたちのさと



元気な百姓達からの贈り物

「元気な百姓祭」と銘を打ち、農業関係者が始めた農地に菜の花を育てる取組は、今では各種団体、小中学校、一般町民が参加する町を挙げての活動となっています。春は一面の菜の花畑、夏には3万本のひまわりが開花。地域で管理する花畑が訪れる人々を笑顔にしています。

耕作放棄地の解消で美しい町の顔づくり

伊豆半島南端に位置する南伊豆町日野地区は、下田市から続く国道136号線沿いの町の玄関口にあります。農業者の高齢化が進み耕作放棄地が増加していく中、日野地区の水田地帯でも耕作放棄地が増え、地域住民から「なんとかならないか」という声が聞かれるようになっていました。

地域農業の活性化に取り組んでいた南伊豆町農業振興会は、「町の子供たちに美しい町を残していきたい」、「農家の元気なところをみんなに見せてやろう」と平成4年に「元気な百姓祭」と銘を打った耕作放棄地の解消と菜の花の種を播くプロジェクトをスタートさせました。

わずか1haだった菜の花畑は、いつのまにか10haを超え、南伊豆を訪れる人々やお正月に故郷に帰ってくる家族を温かく迎えています。また、夏には畑全体に咲き誇る大輪のひまわりが夏休みに帰省する子供たちや観光客に安らぎを与えています。



一つになったみんなの気持ち！町を挙げての取組へと発展

「元気な百姓祭」は、農業振興会が中心となり毎年開催されています。この取組のひとつである菜の花を育てる活動は、今では観光協会、JAなどの各種団体、小中学校、一般町民が参加する町を挙げての活動にまで発展しています。参加者には地域の景観形成について愛着と達成感が共有されるとともに、耕作放棄地は町の主要な観光ポイントに生まれ変わっています。

農業振興会では、地域活性化のために町全体に活動を広げており、会のメンバーが直売所の運営組織として立ち上げたNPO法人「南伊豆湯の花」が、地場産品の販売促進活動を担っています。

また、草刈や菜の花の種まきから発展したネットワークが、業種を越えた連携を生み、今では1ヶ月で40万人以上の人たちが訪れる「みなみの桜と菜の花まつり」へと繋がるなど、町全体に大きな活力を与えています。


直売所「湯の花」

「安心」と「おいしさ」のお届け



菜の花の種を播く作業は、農産物の販売活動へ発展していきました。平成20年にはNPO法人「南伊豆湯の花」を設立し、農林水産物直売所「湯の花」の運営とともに小中学校の食育や農業体験学習の支援を行っています。当初100人だった出荷者は400人以上に増え、地産地消の野菜作りは出荷者の大半を占める高齢者や女性の生き甲斐になっています。直売所では、丁寧においしく育てられた野菜たちのほか、地元の海産物や木工工芸品なども数多く販売されています。

菜の花の黄色いステージで一生の想い出を！

「元気な百姓達からの贈り物」として12月から3月末まで咲き続ける菜の花畑では、毎年1組のカップルが大勢の人に祝福され心に残る結婚式を挙げています。参加してみたいあなた！詳しい情報は南伊豆町観光協会ホームページをご覧下さい。

http://minami-izu.jp/



邑の語り部



南伊豆町農業振興会 援農センター長
鈴木 欽也さん

多くの方々に喜んでもらうために始めた菜の花、ひまわり畑は町の玄関口に作りました。たくさんの人達に立ち寄っていただきたいです。これから、町をもっともっと元気にしていくためには、「うちの町さえ良ければ～」という発想でなく伊豆全体で活性化することを考えた行動が必要だと思います。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
伊豆急行下田駅ー（東海バス　石廊崎港行）ー日野バス停

■お車を御利用の場合
東名高速 沼津ICより 約160分
新東名高速 長泉沼津ICより 約160分

邑の農地／田3ha
主な農産物／米、柑橘



全国に誇る漁獲量　おいし～い「伊勢えび」

豊富な魚介類が獲れる南伊豆町。中でも秋には「伊勢えび」がたくさん獲れます。この時期になると「伊勢えびまつり」が開催され、加盟宿泊施設では伊勢えびが一匹丸ごと付いた宿泊プランが提供されます。宿泊客のうれしい悲鳴がここまで聞こえます。詳しい情報は南伊豆町観光協会まで。



日本の渚百選、伊豆三大美浜の一つ「弓ヶ浜」

緩やかな弧を描いた弓ヶ浜は、日本の白砂青松百選にも選ばれた景勝の地としてお馴染みです。海岸線が1.2kmにわたって続き、透明度の高い海が広がっています。遠浅で波も穏やかであり、景色も美しいため人気が高く、どなたでも楽しんでいただける海水浴場です。また、東に突出したタライ岬は雄大な海岸風景を一望できる絶好の展望台です。一度、素敵な誰かと訪れてはいかがですか!



伊豆半島最南の温泉地「下賀茂温泉」

平安時代の政治騒動で流されてきた都人がつけたといわれる下賀茂の地名。のどかな田園風景の中に自噴泉の湯煙が立ち上がる温泉場です。旅館やホテルなどでも飛び込みで入れてくれる温泉もあり、銀の湯をはじめとする温泉めぐりもいいかもしれません。駅の道「下賀茂温泉湯の花」には、足湯、手湯があるほか旬の野菜や果物などを格安で販売しています。



05 賀茂郡松崎町

石部 赤根田村百笑の里

いしぶ あかねだむらひゃくしょうのさと

子どもに夢を 老人に生きがいを！

「子どもに夢を、老人に生きがいを！」を合言葉に、荒れ果てた棚田を復元してから12年。棚田オーナー、ボランティア、企業、学校と多くの皆さんと一緒に美しい棚田景観を守っています。



日本の原風景「棚田」

松崎町石部地区では江戸時代から昭和30年頃まで連綿と約10haの棚田で稲作が続けられてきました。しかし、地区の観光客の増加と高齢化の進行に伴い、作業効率の悪い棚田は徐々に耕作されなくなり、平成10年頃には約90％が耕作放棄されてしまいました。

このような状況の中、何もしなければ地域はどんどん沈んでいく、地域を少しでも良くしたいとの一念から、平成11年に保全活動が始まり、現在では、多くの棚田が復田され、未来へとつなぐ活動が行われています。

石積みの棚田は、面積が小さく不整形なため、今でも昔ながらの手作業で耕作を行っています。

棚田では、ホタルやトンボ、蝶などが飛び交う豊かな生態系が保全されています。

「静岡県棚田等十選」にも認定されている石部棚田は、駿河湾を眼下に、遠く富士山や南アルプスを望むことができるすばらしいロケーションがその価値をさらに高めています。





棚田のまもりびと

平成11年度は地元の人々を中心に「石部地区棚田保全推進委員会」が発足し、棚田の保全作業は、この委員会が中心となり行っています。また、棚田オーナーの受け入れは、地区住民からなる「石部赤根田村棚田保存会」があたり都市住民との交流活動を展開しています。

また、一社一村しずおか運動に認定された6企業・大学やNPO棚田ネットワーク、地元松崎高校、棚田百笑くらぶ（小学生）など洋々な団体が棚田の保全にあたっています。

棚田の恵み

棚田で丹誠込めて作られた古代米（黒米、赤米）を使った焼酎やまんじゅう、パンなどの加工品が開発され松崎ブランド品として販売されています。

棚田の田植え、稲刈り作業時には多くの参加者が邑を訪れ、民宿等の宿泊者も増加するなど、観光面でも地域に貢献しています。

また、平成24年度からは棚田で「マルシェ」（地場産品販売）も試行しています。



棚田オーナー募集！

石部の棚田では、棚田オーナー制度を導入し、オーナーを募集しております。詳しい情報や、お申し込みは「石部棚田」のホームページをご覧ください。

http://www.ishibu-tanada.com/owner_trust.html

邑の語り部



松崎町石部地区
棚田保全推進委員会 会長
高橋 周藏さん

平成11年に、「棚田を復田して、都市をはじめとした地区外の人々との交流の場としたい！」「地域・産業活性化の一助にして、このまま小さくなって行く地域を良くしたい！」という思いから立ち上がった棚田保存会です。石部棚田の毎日の管理をする棚田のまもりびとです。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

JR三島駅ー（東海バス　松崎行）ー松崎バス停乗換ー（東海バス 雲見入谷行）ー石部温泉バス停

■お車を御利用の場合

東名高速 沼津ICより約150分
新東名高速 長泉沼津ICより約150分

邑の農地／田9ha、畑1ha
主な農産物／米（黒米、赤米）



日本特有の美しい建造物！「なまこ壁」



なまこ壁とは、土蔵などの壁塗りの様式の一つ。その目地がナマコに似ていることからこの名称がつけられました。松崎では「歴史の散歩道」や、「重文・岩科学校」などに見られる見事ななまこ壁がその代表例です。とりわけ伊豆の長八美術館周辺には今なおなまこ壁の民家が比較的多く集まっています。

隠れた名産品！「桜葉の塩漬け」

和菓子の桜餅を包むのに用いる桜の葉が、実は松崎町の隠れた特産品で、全国需要の7割を出荷しています。栽培農家は約200戸、栽培面積48ha、毎年5月から8月までが収穫期で、総生産量は50枚を1束にして500万束にもおよびます。農家から束にして集荷された桜葉は、半年から1年間にわたって塩漬けされ、全国各地に送られ珍重されています。



赤米・黒米バージョンがあります！棚田米を使用した焼酎「百笑一喜」

松崎町商工会が石部の棚田米を使って開発した黒米焼酎「百笑一喜」。毎年、発売されて間もなく完売する人気商品。そんな「百笑一喜」には、飲みやすくマイルドで、甘さ、さわやかさなどが特徴の赤米焼酎もあります。お問合せは、松崎町商工会（☎0558-42-0470）まで



06 賀茂郡西伊豆町

中（なか）

再び集結した人々が 守り継ぐふるさとの田園風景

西伊豆町内では数少ない水田の広がる中地区。高齢化や後継者不足などにより一度は消滅してしまった用水路を管理する組織を復活し、昔ながらの田園風景を次の世代に残すため、再び活動を始めています。



ふるさとの田園風景を未来へ

明治時代には、「大堰」と呼ばれる延長約2㎞に渡る用水路が完成し、中地区の水田を潤してきました。その用水路を管理するために「大堰組合」というものも組織され、人々の手によって貴重な水田が代々引き継がれてきました。

しかし、平成18年頃を境にして、高齢化や後継者不足を理由に、「大堰組合」は一度消滅をしてしまいました。

その結果、管理の行き届かなくなった水路には土砂が流れ込み、仁科川の清流から引き込まれた用水は、その恩恵を十分に活かされず、水質が悪化していきました。

西伊豆町における貴重な水田景観は、次の世代にも引き継がれていくべき大切な財産です。この危機的な状況を憂慮した有志の方々によって、再び「大堰組合」の復活を目指そうという動きが起こりました。

組合員の対象範囲は、中地区だけでなく周辺の大沢里一色、仁科地区にも広げられ、更に大堰水系を利用する耕作者だけではなく、生活排水等で利用する地域住民をも賛助組合員として迎え入れることになりました。ふるさとの田園風景を守ろうという強い意志を持った人々により、平成24年4月、総勢108名による新生「大堰組合」が再出発したのです。

早速、新たに集結した人々により、水路にたまった泥を取り除いたり、土用干しなどといった作業が協力して行われ、次の世代に大切なふるさとを引き継ぐ活動が始まりました。



温暖な気候の恵みを全国へ

中地区周辺では、水田景観の中に、ドーム型や三角屋根の形をしたビニールハウスを多く目にします。これらの中では、伊豆半島の温暖な気候を活かして、キンギョソウやカーネーションなどの花の栽培が行われています。また、アロエの栽培も盛んで、これらの特産品は、西伊豆町から全国へ向けて出荷されていき、各地で人々の暮らしに彩りを添えています。



町内の貴重な水田

「日本の夕陽百選」に選ばれた海岸線（大田子海岸・堂ヶ島海岸）を有し、「〝ふるさと〟と言いたくなる夕陽のまち」をキャッチフレーズにしている西伊豆町では、深く入り組んだ海沿いに、天然の良港を基地とする漁業の盛んな集落が多く形成されています。また、その海岸線近くの集落まで、急峻な天城山系から続く山並みが迫っているため、西伊豆町内の平地は、非常に限られたものとなっています。

仁科川の河口から1㎞ほど上流に向かった中地区には、そのような西伊豆町において貴重な、平坦な地形が広がっています。毎年シーズン中、多くの鮎やアマゴ釣りの太公望で賑わう仁科川からの清流の恵みも手伝って、中地区では数少ない水田での稲作を生活の糧とする暮らしが営まれてきました。



邑の語り部



大堰組合 組合長
鈴木 邦男さん

大堰頭首工から取水している水を管理する私達の組織は、地域住民の高齢化により、一旦自然消滅してしまいましたが、地域の生活環境を守り、次の世代に引継ぎたい、という強い思いから再度組織を復活させました。今後も組合員が協力してこの昔ながらの田園風景を守っていきます。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
伊豆箱根鉄道修善寺駅ー（東海バス　松崎行）ー仁科車庫バス停ー（東海バス 宮ヶ原行）ー海名野バス停

■お車を御利用の場合
東名高速道路 沼津ICより約125分
新東名高速道路 長泉沼津ICより約125分

邑の農地／田4ha、畑9ha
主な農産物／米、アロエ、花卉（キンギョソウ等）



「のん兵衛安さん」の傑作拝見、「東福寺」

仁科川沿いから、朱色の欄干のある梵鐘楼付きの山門をくぐったその先にある東福寺。ここの本堂で、天井中央の「八方睨みの龍」を囲むように、大正時代末期に浅草の酒好きな仏師・田村利光が漆喰で描いた珍しい「五百羅漢」を見ることができます。



拝観料:200円　拝観時間:9時～15時（要事前連絡）
☎0558-52-0549

仁科川の流れをBGMに「せせらぎの湯」

西伊豆町内にいくつかある町営日帰り温泉の一つが、ここ中地区にもあります。露天風呂も併設されていますので、ゆったりと旅の疲れを癒してください。



料　　金:大人500円、小人150円
営業時間:9時～20時
定　　休:月曜日（※祝日の場合は翌日休み）
☎0558-52-3355

必見!伝統の舞 駒形神社

中地区寺川にある駒形神社は、江戸時代唯一の輸送手段であった馬力馬、農耕馬の霊を祀っていて、現在は五穀豊穣を祈願する農業の神様として親しまれています。ここでは毎年、春祭（2月11日）と秋祭（11月2・3日）の2回、神楽が奉納されています。二人一組で舞う「サガリハの舞」や、鈴と幣束を持ちながら一人で舞う「鈴の舞」など、江戸時代後期から受け継がれてきたマニア必見の伝統芸能が見られます。〈西伊豆町無形民俗文化財（西暦1977年指定）〉



07 熱海市

日本一のだいだいの里「多賀」

にほんいちのだいだいのさと たが

江戸時代から継承されたダイダイの産地

江戸時代末期、網代港に立ち寄った漁師たちが料理に使い、残った種を播いて守り育てた縁起の良いダイダイ（橙）を、地域の特産として長年に渡って守り育て、日本一の産地となりました。



山々に煌めく橙色の宝石

熱海のダイダイ生産量は昔も今も日本一です。熱海のダイダイは江戸時代、網代港に立ち寄った漁師たちが料理に使い、残った種を多賀村の農民が播いて育てたのが始まりと言われています。

ダイダイの果実は成熟しても実が落ちることなく、翌年の新しい果実と一緒に実ることから、「だいだい（代々）」と名付けられ、代を重ねる縁起の良いものとして正月飾り等にも使用されています。橙色の果実によって彩られた濃緑の山間から望む雄大な相模灘は、絶景の眺望を生み出しています。

また、JAあいら伊豆ダイダイ生産者部会員が中心となって、平成16年から3ケ年を掛けて、約3000本のダイダイの老木樹の改植を行いました。現在、約210名の生産者がエコファーマーに認定され、環境に優しい農業にも取り組んでいます。



ダイダイが紡ぐ地域のネットワーク

JAあいら伊豆女性部が中心となって設立した「だいだい寿司創作料理研究会」は、ダイダイ酢と地魚を組み合わせた郷土料理「だいだい寿司」の復活を目指し、市内の旅館との協働により商品開発を行っています。

県東部の農業・商工業団体や観光協会、行政等による「魅力ある東部の創造プロジェクト協議会」においても、ダイダイを使ったキャンディ、入浴剤、アロマオイル等の名産品づくりに取り組んでいます。

首都圏で熱海の魅力をPRするイベント「熱海時間IN豊洲」では、生産者を招き「だいだいマーマレード」の製作実演や試食会を開催しました。また、JAあいら伊豆女性部では、熱海市内の様々なイベントにおいても、個性豊かな加工品等のPRを大々的に展開するなど、地域が一体となってダイダイの普及拡大に取り組んでいます。



爽やかな香りと酸味のハーモニー

JAあいら伊豆が製造・販売を行っているダイダイの果汁や皮を使用した「だいだいマーマレード」、「だいだいぽんずあいら」、「だいだいサイダー」、「だいだい酒」等は熱海土産の定番となっています。

ダイダイは、そのまま食べると酸味が強すぎますが、香りはとても爽やかで果汁の風味も良いため、ポン酢やマーマレード、和洋菓子などの加工品にとても適しています。ダイダイ酢が入った梱包用の箱には、昔ながらの郷土料理やお寿司レシピも紹介されており、地域の歴史や伝統文化の普及にも大きな役割を果たしています。



だいらちゃん
（だいだいイメージキャラクター）

邑の語り部



JAあいら伊豆女性部
松尾 敬子さん

日本一の産地・多賀のダイダイは、減農薬や減化学肥料に取り組む農家が熱意と自信を持って提供する爽やかな香りと酸味が自慢の熱海の特産品です。

多くの人たちにダイダイをもっと知って貰いたい。香りや味の良さをもっと色々な人たちに知らせたいと言う熱い思いを抱きながら、日々新たな世界に挑戦しています。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
JR伊東線伊豆多賀駅

■お車を御利用の場合
東名高速 沼津ICより約80分
新東名高速 長泉沼津ICより約80分

邑の農地／畑166ha
主な農産物／柑橘（ダイダイ）



ダイダイ土産の定番「だいだいぽんずあいら」

エコファーマー認定の農家の手作りによるダイダイを使った逸品の数々は、安全・安心な上、ダイダイ特有の爽やかな風味が大人気です。「だいだいぽんずあいら」は、なますやナマコ酢、お鍋のポン酢にもぴったりです。地場産品直売所「いで湯っこ市場」で購入できます。農家の皆さんが代々守り続けてきた伝統の味を是非ご賞味下さい。お問合せは、JAあいら伊豆下多賀支店（☎0557-68-3111）まで。



ながはま特設市

国道135号線沿いにある長浜海浜公園で月に2回程度週末に開催され、地元ならではの特産品が並ぶ市です。多目的トイレや駐車場等も十分完備されていますので、海を眺めながら、多賀のいいものをじっくりと、たくさん見つけて下さい。スケジュールは、「南熱海多賀観光協会のホームページ」をご覧ください。



「百八体流灯祭」（ひゃくはったいりゅうとうさい）

多賀地域長浜海岸で、8月16日に昔から行われているお盆の伝統行事です。約3Kmに渡って焚かれる300基かがり火は、海岸から流される灯篭と共に幻想的な美しさです。同日、「伊豆多賀海上花火大会・網代海上花火大会」も開催され、伊豆多賀温泉郷の夏を盛り上げます。詳しい情報は「南熱海多賀観光協会のホームページ」をご覧ください。



08 伊東市

十足（とうたり）

訪れる人々の心を癒す田園風景

市内に残る数少ない貴重な田園風景。田園に広がるヒガンバナの景観を拡大し、「ヒガンバナ花街道」として訪れやすい環境の整備を地域で取り組んでいます。



その先に隠された「伊東」のまた別の景色

首都圏を中心に、全国各地からの観光客で賑わいを見せる伊東市の伊豆高原。多くの人たちが求めているのは、海と高原のどちらでも楽しめるリゾート的な要素かもしれません。その地にシンボル的に存在する、お椀を伏せたような「大室山」の頂上に登る人も多いでしょう。そこからの相模湾の眺めに雄大な気分を味わった後は、ぜひ反対方向にも目を向けてみてください。その視線の先に、伊東市にあってはとても貴重な、十足という集落の田園空間が残されています。

日本地図の実測図で歴史的に有名な伊能忠敬、その7代目にあたる画家の伊能洋氏が、「迫真の案山子が守る山田かな」と詠い、スケッチにも残した日本の原風景ともいえる飾らない里山の景観が、伊豆高原のその奥に存在しています。

特に9月のお彼岸の頃から2週間程の期間は、水田のあぜ道沿いに植えられたヒガンバナが見頃を迎え、赤と緑に彩られた鮮やかな景色を楽しめます。その景色を求めて、毎年訪れる人もいるということです。



100年先の旅人にも、眺めて欲しい景色を守るために

十足の風景にこのヒガンバナがよく馴染んでいるのは、100年以上も前から引き継がれているという、その歴史にもよるのかもしれません。

「十足」という珍しい地名の諸説ある由来の中で、「その昔、江戸から旅をして来た人がいて、履いていた草鞋の10足目の緒が切れたところ」だとする説があります。遠くから訪ねて来た旅人の疲れも、きっとここの里山の景色で癒されたことでしょう。

平成19年度には、伊東市に残された貴重な田園風景を、次の世代にも引き継いでいこうと、農業者を中心に地域住民も参加した「十足農地と水辺の会」という組織が発足しました。会では、次代を担う子供たちのため、農地に触れる機会を積極的につくったり、郷土の自然の恵みを体感するイベントを行ったりするほか、水路や農道の維持管理、遊休化した水田の草刈りを行うなど、地道な活動も活発に続けています。

県道351号線を通る多くの人たちに、もっとヒガンバナの景観を楽しんでもらいたいと、土手への植栽を進め、更にその規模を増やし、「ヒガンバナ花街道」とするよう環境整備にも取り組み始めました。

その成果が、100年先の旅人の心も癒してくれることを願ってやみません。



お薦めは、ゆっくりと「足」で楽しむこと

十足では、天城や伊東の山々を背景にした田園風景を眺められるほか、道祖神や馬頭観音、庚申塔などの神様も目にすることができます。また、県道沿いには数ヶ所の農産物直売所があり、新鮮な野菜を手に入れることもできますので、ゆっくりと様々な風物を味わいながらの散策がお薦めです。



邑の語り部



十足農地と水辺の会 区長
小川 穂積さん

地域のみんなで、歴史ある自慢の景観を守っています。ぜひ多くの方々に来ていただき、季節ごとの彩りを楽しんでもらいたいです。どんど焼きの炭をお地蔵さんに塗り付け、真っ黒にして健康を願ったような、今では途絶えてしまった風習も、またみんなの力で復活できればよいですね。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
JR伊東線伊東駅ー（東海バス　十足広場行）ー十足バス停

■お車を御利用の場合
東名高速道路 沼津ICより約80分
新東名高速道路 長泉沼津ICより約80分

邑の農地／田5ha、畑6ha
主な農産物／米



「大室山」とはまた違う特殊な火山「矢筈山」

十足からの眺めがすばらしい矢筈山（816m）も、実は火山性の地形です。しかし、大室山（580m）などがスコリア丘タイプであるのに対し、この山は、伊豆東部火山群の中では珍しい、雲仙岳で有名になった「溶岩ドーム」というタイプ。大地が育んだ貴重な資産を有する伊豆半島は、「伊豆半島ジオパーク」として、平成24年9月に、日本ジオパークネットワークへの加入が認められました。



ゆったり・湯めまちウォーク

豊富な温泉と多彩な歴史・文化的資源を有する伊東市では、各地をのんびりと歩いて満喫してもらおうと、様々なウォーキングコースを設定しています。十足は、「里やまコース」に、「一碧湖からさくらの里コース」として紹介されています。その地図を片手に、散策するのもお薦めです。伊東市・伊東観光協会ホームページ http://www.itospa.com/yumemati_walk/



歴史的ある引手力男神社（ひきたぢからおじんじゃ）

創建された時期は定かではありませんが、慶安5年（1652年）に修造されたとする棟札などが残る歴史的な十足集落の鎮守さまです。地元の皆さんからは、「おみやさん」と呼ばれて大切に守られてきました。10月の秋祭りには、伊東市内では珍しい「翁の三番叟」の奉納が行われます。
住所:伊東市十足150



09 伊豆市

伊豆月ヶ瀬梅の里

いず つきがせうめのさと

梅林に百万人を招く夢

春の月ヶ瀬梅林には、1500本もの梅が咲き乱れます。伊豆一番の梅の里を目指す努力が実を結び、毎年多くの人たちが訪れるようになりました。「夢語り　実現しよう　梅の里」をチャッチフレーズに、私たちは、今も夢の実現に向けて着実に進んでいます。



邑の宝「月ヶ瀬梅林」

伊豆半島のほぼ中央、天城連山を東に仰ぐ月ヶ瀬の丘陵の地に月ヶ瀬梅林があり、春には約6haの梅林に約1500本もの梅が咲き誇っています。高台に上がれば、眼下に梅の花のじゅうたんが広がり、その背景にそびえる天城連山とのコントラストが、景色の更なる魅力となっています。

十年前、この梅林を生かし自分たちの手で地域再生に挑戦したいと住民が立ち上がりました。この地域の夢が行政をも動かし、現在の美しい邑の景観が築き上げられました。

今も、邑の住民が日々の管理を通じてこの美しい景観を守り続けています。



邑の語り部



農事組合法人 伊豆月ヶ瀬梅組合 組合長
久保田 進也さん

梅組合は、天城連山を正面に見据え一望する伊豆月ヶ瀬の地に、昭和44年、1500本の梅の木を植栽しスタートしました。商品の販売だけではなく、梅まつりや調理実習体験等を通じ、都市住民の方々との交流や憩いの場を提供することにより、この伊豆月ヶ瀬を「伊豆一番の梅公園」にする夢の実現を目指しております。

邑の手作りイベント

邑の宝である梅林を多くの人に楽しんでいただくために、毎年梅の花が咲く時期の4週間、「伊豆月ヶ瀬梅林梅まつり」が開催されます。

この梅まつりは、単に梅林の景色だけでなく、様々なイベントも行われ、世代を問わず楽しめるものとなっています。邑の住民が考える様々な企画が口コミで広がり、リピーターも多いようです。

また、梅の開花時期以外にもコンサートや太鼓祭などが開催され、様々なイベントを通じて邑の宝である梅林の恵みと邑の住民との交流を堪能できます。



邑のブランド品

邑の宝が生み出す産物「梅」を活用したさまざまな加工品をはじめ、地域で採れる新鮮な野菜や農産加工品を、邑の拠点となる地域活性化施設「梅びとの郷」で販売しています。また、地域と企業の交流を目的として静岡県が進める「一社一村しずおか運動」を活用し、月ヶ瀬ブランドの創生や新商品開発に取り組んでいます。今後も新たなご当地ブランド品の登場が期待されます。



アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

伊豆箱根鉄道修善寺駅ー（東海バス　持越温泉、昭和の森、河津駅行）ー月ヶ瀬温泉バス停

■お車を御利用の場合

東名高速 沼津ICより約60分
新東名高速 長泉沼津ICより約60分

邑の農地／田3ha、畑6ha
主な農産物／梅



天城山が育む清らかな水!「天城の水」

伊豆の豊かな食材を育む天城連山の湧水をボトリングしたミネラルウォーター。クセのない、さわやかな味で、そのまま飲んでも美味しい水ですが、「伊豆月ヶ瀬梅シロップ」の割水としてご利用いただくと、さらに美味しくお召し上がりいただけると思います。

お問合せは、伊豆月ヶ瀬梅組合
（☎0558-85-0480）まで。



安心安全!様々な用途に使えます!「伊豆月ヶ瀬梅シロップ」

自家梅林で減農薬にこだわり育てた梅をグラニュー糖だけで、保存料、着色料などの添加物を一切加えず漬込んだ安心安全飲料。4～5倍に薄め、夏は冷やして、冬は温めてお召し上がりいただけます。また、お好みで焼酎に入れたり、かき氷のシロップや、お菓子、ケーキ等の材料としてもご利用いただけます。

お問合せは、伊豆月ヶ瀬梅組合
（☎0558-85-0480）まで。



伊豆月ヶ瀬ブランドを全国へ! 活性化施設「梅びとの郷」

地域活性化施設「梅びとの郷」では、邑ブランドの農産品販売のほか、農産物を利用した加工体験なども行っており、「邑びと」との交流が楽しめます。

梅の里
IZU TSUKIGASE



⑩ 伊豆の国市

韮山多田

にらやまただ



ブランドいちごの栽培と環境にやさしい稲作に取り組む新たな農業の息吹

伊豆の国市韮山は源頼朝や北条政子などの歴史上の重要人物との関わりも深い歴史と文化の町。そんな歴史ロマンあふれる韮山の地で、環境にやさしい農業に取り組む邑があります。富士山が見守る水田といちごハウスが織り成す邑の田園風景は、やる気あふれる農業者達が支えています。

穏やかな時間が流れる広々とした田園空間

伊豆半島の付け根に位置する伊豆の国市韮山は、整備された平坦な水田と、いちごハウスが広がり、東に箱根、北には富士を望むのどかな田園地帯です。

古くから水に恵まれない地域で、ため池を作り何とか農業用水を確保していましたが、昭和17年に農業用水路が整備されてからは、安定した稲作が営まれるようになりました。当時のため池は既に埋め立てられてしまったものもありますが、今でもいくつかのため池は残っており、防火用水や憩いの場として活用されています。

また、伊豆の国市は、静岡県内でも有数のいちごの産地で、市内各所では観光いちご狩りが営まれ、季節には多くの観光客が訪れます。

周辺には、古くから湯治場として知られる「畑毛（はたけ）温泉」などの温泉施設や、国の重要文化財である江川邸などもあり、いちご狩りと併せて、ゆったりとした時間を楽しめる地域です。



地域を潤す農業用水「韮山用水」

邑の伝統の継承

この地域には元亀（げんき）2年（西暦1571年）から行われているという「2杯盛」という伝統行事があります。これは、茶碗2杯の茶飯（お茶を使って炊いたご飯）を食べ、健康を祈願するといったもので、「うんと食べて、うんと働け！」といった意味が込められているそうです。邑では、現在でも年に2回、この行事が行われ連綿と伝統が継承されています。



エコファーマーによる新たな風

邑の農業は、静岡生まれの品種で、甘さが自慢のいちご「紅ほっぺ」の生産と、広大な水田で営まれる稲作が中心ですが、中でも、減農薬や有機肥料を使った稲作を行ういわゆる「エコファーマー」が邑の農業に新しい風をはこんでいます。

このやる気あふれるエコファーマーたちが、この地域の農業を盛り上げています。



邑の語り部

多田地域資源保全の会



平成18年度から、用水路補修や耕作放棄地対策としてワイルドフラワーの種まきなどを行ってきました。今後はワイルドフラワーの種まきによる環境整備の活動を広げるため、母の日にワイルドフラワーの花を摘んで、プレゼントするような活動を継続的に行っていきたいと考えております。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
伊豆箱根鉄道原木駅

■お車を御利用の場合
東名高速 沼津ICより約30分
新東名高速 長泉沼津ICより約30分

邑の農地／田32ha、畑16ha
主な農産物／米、イチゴ



お腹いっぱい召し上がれ!「観光いちご狩り」

伊豆の国市の観光いちご園には「紅ほっぺ」や「章姫」といった品種のいちごを堪能できます。開園時期：12月～5月（※施設によって時期や価格等が異なりますので、それぞれの施設の情報を御確認ください。）



世界遺産級!「韮山反射炉」

幕末の時代、鉄製の大砲を生産するために当時の代官である江川英龍（坦庵）らによってつくられた炉で、国指定の史跡となっています。実際に稼働した反射炉としては、世界で唯一現存する施設で、平成27年度の世界遺産登録を目指しています。



国の重要文化財「江川邸」

江川邸は国の重要文化財に指定されている代官屋敷で、屋根の構造や立木をそのまま利用する生柱（いきばしら）が有名です。代々代官を務めた江川家で最も有名な人物が江川英龍（坦庵）です。英龍は西洋事情に明るく、反射炉の建設や、日本で最初にパンを作った人物としても知られています。



⑪ 田方郡函南町

丹那（たんな）

牛飼いたちが暮らす邑 人と牛が創りだす命の循環と恵み

明治以来130余年の酪農の歴史を持つ函南町丹那。牛飼いたちが我が子のように慈しむ牛は「お座敷牛」と呼ばれ大切にされてきた。牛たちを中心とした命の循環が、豊かな農畜産物を人々にもたらしている。



循環型社会と四季折々の花

農家は牛たちの排泄物を利用した堆肥を農地へ還元し、酪農家は肥沃な大地で育った飼料で健康な牛を育て、里を訪れる人々は牛たちの牛乳を元にして作られた様々な乳製品を楽しみます。人と牛たちが織りなす命の循環が、この地域の自然環境を保全し、酪農を中心とした産業・社会を持続させ、新鮮な牛乳やミネラル豊富な野菜などの恵みを人々にもたらします。丹那ではこうした循環型社会への取組が行われています。

住民らの「丹那みどりいっぱい運動」により、農業用施設の管理や水路の草刈等が行われ、農業・田園風景が保全されています。また、子ども会、老人会と協力して作られた花壇には、季節の花が植えられ、丹那を訪れる人々の目を楽しませています。



丹那牛乳から広がる多様な生産

丹那地域の農業者を中心に組織された函南東部農業協同組合では、低温殺菌牛乳をはじめ、ヨーグルト・チーズ・バターなど多くの乳製品を生産・販売しています。地域の酪農家が搾乳した牛乳は「丹那牛乳」として広い地域で多くの方に親しまれています。

環境保全・循環型農業の発展を目指して設立された「酪農王国オラッチェ」では、チーズ、バターなどの乳製品や地ビールなど多種多様な製品の生産・販売が行われているほか、乳搾りや農作業体験などを通じて訪れる人々の心身の疲れを癒し、農業の大切を伝えています。



近隣の見どころ

丹那断層の北方に位置する「火雷神社」（函南町田代）は、神社の石段と鳥居の間を断層が横断し、過去の地震による断層のずれを明確に残しており、丹那盆地を含めたこの地域の地形の特性をうかがい知ることができます。

盆地に広がる酪農の里

伊豆半島の付け根に位置し四方を山に囲まれた丹那盆地。JR函南駅から東へ約4㎞、県道11号線（熱函道路）から北に向かってうねった道を下ると、ほどなく稲穂の揺れる平野が広がります。

盆地の周辺は山と緑に囲まれ、山裾には民家と畜舎が立ち並び、のどかで牧歌的な雰囲気を醸しています。雄大な富士山を背後にひかえた丹那盆地の景観は、他では見られない独特な素晴らしい田園風景を形成しています。

明治14年（西暦1881年）、当時の丹那の名主、川口秋平氏が伊豆畜産馬会社を興してから130余年、丹那は酪農地帯として発展してきました。現在は1600頭余りの牛が飼育されています。



邑の語り部



「丹那みどりいっぱい運動」代表者
神尾 博幸さん

豊かな自然に囲まれ「丹那牛乳」などの乳製品の生産基地である丹那は、酪農王国オラッチェや丹那断層公園への観光客も多い地域です。恵まれた自然環境を保全・活用し、地域農産物のさらなるイメージアップや訪れる人々の癒し効果向上につなげていきたいと考えています。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
JR函南駅よりタクシー約15分
JR熱海駅よりタクシー約20分

■お車を御利用の場合
東名高速 沼津ICより約45分
新東名高速 長泉沼津ICより約45分

邑の農地／田11ha、畑1ha
主な農産物／米、畜産



大地に刻まれた歴史「丹那断層公園」

北伊豆地震（昭和5年）の際に発生した丹那断層のずれの痕跡をそのまま残す公園で、国の天然記念物に指定されています。地上の石造物の並びや地下観察室にて断層の様子が明瞭に観察できるほか、丹那盆地周辺の模型により断層の地域的な広がりを理解することができます。断層に関わる歴史についての展示内容も詳しく、一見の価値あり。



癒し、ふれあい、楽しむ「酪農王国オラッチェ」

人と家畜が共生する土づくりを大切にする循環有機農業をテーマとした酪農王国オラッチェ。バター・パン作り、牛の乳搾り、動物たちとのふれあい、ジオラマ制作、野菜収穫などいろいろな体験メニューが豊富。夏はとうもろこし畑の巨大迷路といった一風変わったイベントも。新鮮な牛乳で作られたソフトクリームは濃厚なミルクの味わい。



安全安心「オラッチェ低温殺菌牛乳」

丹那地区内の低温殺菌生産者の牧場の生乳を原料とした牛乳。牧場から製造まで一貫した品質・衛生管理により生産され、低温でゆっくり殺菌することにより生乳の風味が保持されています。脂肪球を細かくし均一化するホモジナイズドを行っていない搾りたての生乳に近い味わいが楽しめる製品もあり。



閑話・その1

「懐かしの風景･棚田」

棚田(たなだ)は山の斜面や、谷部の傾斜地に階段状に作られた水田のことです。

日本の美しい里山を象徴する風景であるだけでなく、多様な動植物を育んだり、地下水を貯えたりといろいろな機能をもつ、大切な財産なのです。

何世代にわたって築き上げた棚田も、お米を育てなくなると荒れてしまい、せっかくの機能が果たせません。江戸時代以前から耕作が行われていた棚田も、時代の変化とともに耕作面積が減ってしまいました。

現在では、県内の多くの地域で、地域の有志や都市に住むみなさん、企業などが力を出しあって、保全に努めています。



大栗安の棚田



柚野の棚田群

ふじのくに美しく品格のある邑にある「静岡県棚田等十選」

石部の棚田(石部赤根田村百笑の里)
柚野の棚田群(柚野の里)
倉沢の棚田(千枢(せんがまち)の棚田)
大栗安の棚田(夢未来くんま)

しずおか棚田･里地くらぶ ～みんなの力で棚田を守ろう～

棚田や里地の保全活動を支援するボランテイア団体です。
県内各地の棚田や里地で、田植え、草刈りなど作業を手伝います。
【サポーター会員年会費】一般/1,000円　法人団体/10,000円　学生メール会員/無料
詳しくは静岡県のホームページをご覧ください。
http://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-630/tanada/index.html

Eastern part

東部地域





⑫ 沼津市 寿太郎みかんのふるさと 西浦

じゅうたろうみかんのふるさと にしうら

奇跡のみかん「寿太郎」のふるさと

何万本の中から見つけた、たった1本の枝変わりが「寿太郎」です。その出会いは、まさに奇跡のはじまりです。35年以上の歳月をかけた「みかん産地復活」という奇跡の物語がここにあります。



傾斜を生かした柑橘栽培 寿太郎誕生でさらに発展

西浦みかんの歴史は古く、今から450年以上も前から栽培されていたことが古文書より確認されています。明治時代になると本格的に温州みかんの栽培が始まり、産地として発展していきますが、温州みかんは作れば売れる昭和30～40年代の増産期から、昭和47年の価格大暴落の後、各産地では生き残りをかけて中晩柑などへの転換が進んでいました。そのような中、昭和50年、山田寿太郎氏は地元で1本の枝変わり「寿太郎」（昭和59年品種登録）を発見します。この「寿太郎」の導入にあたっては、高品質ながらも収益性に不安が残るなど、産地をあげた議論が巻き起こりましたが、産地は「寿太郎」の可能性にかける決断を下します。意見がまとまると、産地は固く結束し、増産に向けた取組を開始します。栽培面積を拡大するため、100名近い青年部が「高接ぎ隊」を結成し、高接ぎ出来ない農家の園地の更新を進めました。その結果、寿太郎温州の出荷量は昭和60年から平成7年までの10年間で、36倍という大幅な増加を実現し、今では沼津市の栽培面積の4割を占め、青島みかんを上回っています。



様々な加工品も登場

西浦生まれの「寿太郎」は小ぶりで実がしまり、甘みと酸味が濃いとして普及しましたが、「三ケ日みかん」と比べると知名度はいまひとつでした。大部分を首都圏のデパートなど出荷先を限定して売ってきたことも一因でしたが、生産者の情報発信も十分ではありませんでした。そこで知名度を高めようと、地元女性生産者グループ「みかんの花」が加工品開発や料理、体験教室の取り組みを始めました。果実を丸ごと使用したペーストの「寿太郎まるごと手作りジャム」は人気商品で、「寿太郎」の知名度アップに大きく貢献しています。



海越しの富士山に感動

沼津市南端に位置し、陽光がきらめく駿河湾に面した西浦地区は、温暖な気候と日照に恵まれていることもあり、県内でも有数の柑橘産地です。西浦地区のみかん畑は急傾斜を段々畑に切り開いて植えられることが多いため、生産者の栽培管理は、平坦地と比べ、大変な作業となりますが、静かな海から続く急な坂を上っていくと、駿河湾と富士山が一望できます。みかんの収穫は人手不足となるため、パート、ボランティアを募集するのですが、みかんを収穫しながら海越しに見る富士山に感動する人が多いようです。



邑の語り部



JAなんすん西浦柑橘出荷部会 部会長 **高島 敬司**さん

「寿太郎」は、西浦のミカン産業を牽引する存在で、缶詰やワインなどの加工品も登場するなど、西浦産ミカンの知名度が市場でもどんどん上がっているのを肌で感じます。「はじめ」という西浦生まれの新品種もあるので今後が楽しみです。

アクセス方法

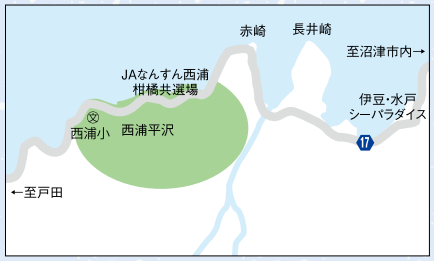
■公共交通機関を御利用の場合

JR沼津駅ー（東海バス　江梨行）ー西浦農協バス停

■お車を御利用の場合

東名高速 沼津ICより約55分
新東名高速 長泉沼津ICより約55分

邑の農地／田41ha、畑387ha
主な農産物／柑橘（寿太郎みかん）



摘果ミカンを有効活用！　ミカン100%のお酢「想酢」

重須地区の農業者が組織する農事組合法人「おもす」は、県内外の企業2社と連携し、栽培の過程で出る、これまで活用されていなかった“摘果ミカン”を有効活用した100%ミカンのお酢「想酢（おもす）」を開発しました。これは、第一次、第二次、第三次産業が連携して農作物の付加価値を高める6次産業化の取組として注目されています。お問合せは、農事組合法人「おもす」（☎055-943-2136）まで。



大トリを飾る美味！ 寿太郎プレミアムゴールド

温暖で風光明媚な西浦地区で育った寿太郎みかんの中から、選りすぐったものを温度・湿度管理できる冷風貯蔵庫で寝かせたのが「寿太郎プレミアムゴールド」です。眠りから覚めたミカンを光センサーで品質チェックして、合格したものだけがプレミアムゴールドとして出荷されます。コクのある甘さとみずみずしさは、まさに逸品です。お問合せは、JAなんすん西浦柑橘共選場（☎055-942-2068）まで。



全てはここから始まった！「寿太郎」の原木

昭和50年、自分の畑の青島みかんから、葉が小さく枝の節が短い、枝変わりを発見したのが山田寿太郎さん。その枝の観察を粘り強く続けて4年目、一度に50個も実らせ、糖度は17度もあったといいます。通常の青島みかんは糖度11度前後で、現在収穫される寿太郎みかんも平均12～13度ですから、この発見は地元でも衝撃的だったそうです。その原木は現在でも山田さんによって大切に保存されています。



⑬ 沼津市 戸田（へだ）

永遠（とわ）に愛される邑に

永遠に香る果実、非時香果（ときじくのかぐのこのみ）として、日本書紀に登場する「橘」。京都御所紫宸殿に右近の橘として植えられ、和歌にも多く登場するなど、古くから愛されてきた果実です。地域では、この「橘」の特徴的な香りを活かした逸品を創るとともに、棚田保全活動などを通じて美しい景観を守っています。



古墳時代から息づく文化

伊豆半島の西北部に位置し、西に駿河湾、東南北を達磨山系に囲まれる沼津市戸田。聖徳太子の時代には誕生していたと言われており、井田地区には当時の古墳が残っています。地域の86％は森林で占められており、人々は限られた平地や傾斜の緩やかな台地で農業や漁業を営み、自然に寄り添って生活してきました。

また、海からだるま山高原に向かう途中にある北山の棚田は、３００年以上前、富士宮市北山から移った人々によって開拓され、代々住民の手によって守られてきました。半世紀前は、おそらく３～４００枚の水田があったといわれる棚田。今は、25枚が残るだけとなっていますが、農林水産省の「棚田百選」に選ばれた事を契機に、オーナー制度や小学生稲作体験教室等が実施され、いろいろな人たちが棚田の保全にあたることによって、大切に管理されています。



地域の魅力をUP！

戸田地区は、御浜岬に抱かれた波静かな戸田港を有し、タカアシガニをはじめとする水産物は80億円近い水揚げを誇っています。それに加え、富士山と四季折々の変化に富んだ美しい自然がおりなす風情と景観は、多くの観光客をひきつけ、ピーク時には海水浴客を含めて年間90万人以上の来訪者がありました。しかし、レジャーの多様化に伴う観光客の減少と、若者の流出、高齢化等が重なり、地域全体の活力が低下。危機感を抱いた人々は、「戸田美農里委員会」を組織しました。

「戸田美農里委員会」には、地域の自治会、農業者、NPO法人、旅館組合、観光協会、商工会、JA、行政など様々な組織が参加。「橘」や美しい景観を活かしながら、従来の枠にとらわれない斬新な発想で地域の活性化、魅力の向上を目指しています。

「橘」を味わいませんか？

「戸田美農里委員会」では、県の地域資源として認定されている「橘」を活かし、リキュールやジャム、ポン酢、ジェラート等の逸品づくりを行っています。「へだたちばな」は、この逸品づくりの一環で生まれたリキュール。フレッシュな香りとすっきりした口当たりが特徴です。さわやかな酸味があり発がん抑制効果の高いノビレチンが多く含まれる「橘」のお酒は、特に女性におすすめです。



棚田オーナー募集

北山の棚田では、棚田オーナー制度を導入し、オーナーを募集しています。

詳しくは沼津市農林農地課へお問合せください。

オーナー会費／３００００円（年額）　オーナー特典／収穫米こしひかり「棚田米」30kg　応募方法／住所・氏名・年齢（参加者全員）・電話番号を明記してFAXでお申し込みください。　応募先／沼津市農林農地課　☎０５５－９３４－４７５１　FAX０５５－９３３－１４１２

邑の語り部



戸田美農里委員会　代表　**中川 勉**さん

棚田百選に選定された北山の棚田を守り、この美しい棚田の風景を後世に残すため、棚田オーナー制度や稲作体験教室、芋ほり体験などを行うと共に、梅林公園や橘農園の保全管理を行っています。今後は、橘のロゴマークの商標登録を目指します。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

伊豆箱根鉄道修善寺駅ー（東海バス　戸田行）ー戸田バス停

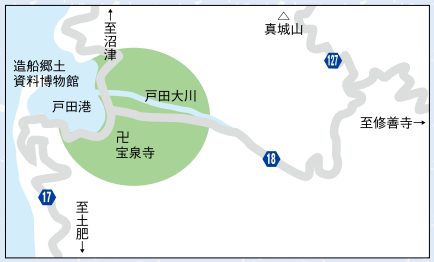
■お車を御利用の場合

東名高速 沼津ICより約85分

新東名高速 長泉沼津ICより約85分

邑の農地／田35ha、畑82ha

主な農産物／柑橘（タチバナ）



戸田塩

美しい駿河湾の沖で汲み上げた海水を、薪だけで15時間炊き続けた後、1週間自然熟成させて採る自然海塩「戸田塩」。住民たちが試行錯誤を繰り返し「日本一の戸田塩」と自負する製法を確立。添加物も一切使わない、100％の天然塩は、おにぎりで食べれば格別です。

お問合せは、特定非営利活動法人 戸田塩の会（☎0558-94-5138）まで。



戸田とロシアの不思議なつながり

1854年、ロシア皇帝の命を受けたプチャーチン提督は、日本と国交を結ぶため、ディアナ号に乗って下田にやってきました。しかし、安政東海大地震に伴う津波により大きな被害を受け沈没。プチャーチンと約500名の乗組員は、陸路戸田へ到着しました。異国情緒あふれる歴史ロマン。気になる方は、造船郷土資料博物館を訪れてみてください。詳しくは、沼津市ホームページをご覧ください。

http://www.city.numazu.shizuoka.jp/kurashi/shisetsu/zosen/



いろんな魚が勢ぞろい!!

駿河湾は日本一深く、最も深いところでは水深2,500mに達すると共に、太平洋の黒潮が直接流れ込んでくる内海です。深海と黒潮の恵みにより集まる魚は非常に多く、その数およそ1000種類。また、駿河湾に棲むタカアシガニや深海魚を、戸田では「底引き網」という漁法で獲っています。タカアシガニは世界で一番大きいカニとしても有名で、大きいものは4メートルにもなります。



⑭ 沼津市

浮島（うきしま）

農地を舞台に親子がどろんこになって遊ぶ

沼津市浮島地区には、黄色いソウルシの花が咲き乱れる、子どもたちの遊び場がありました。そんな風景が失われつつあることに危機感を抱いた「かつての子どもたち」が立ち上がりました。



浮島沼の時代から

愛鷹山南麓に位置する沼津市浮島地区。歌川広重が浮世絵に描いたように、富士山を眺望できる風光明媚な地域は富士八湖の一つとして全国に知られ、当時は浮島湖や浮島沼と呼ばれていました。

湖に数えられるとおり、東海一の大湿地帯である当地は、葦や真弧（まこも）などの植物が繁茂、堆積して形成され、大雨や高潮があると一面湖のようになり、人々は「〝しらうみ〟になる」と恐れていました。これらの植物の腐食による土の厚さは10～20mに達し、〝しらうみ〟になると表土とともに植えた苗が浮き上がる〝浮き田〟、〝浮きんぼう〟などといわれる現象が生じました。少し雨が降り続けば、何日も〝しらうみ〟になり、収穫は「5年に1作」、うまくいって「3年に1作」という状況だったといわれています。

「水田に笠がいくつか浮かんでいるのが見えた。不思議に思ってその笠を拾うと、その下で泥に埋まりながら田植えをしている人がいた。」

これはこの地域でよく語られるお話です。田植えは、腰や胸まで埋まり、息苦しさや冷えを起こすため、古着を着て何度も着替え、風呂に入りながらの大変な作業でした。



浮島沼の田植作業（昭和初期浮島ヶ原開拓史より）

稲刈りの時も、足が泥に沈まないように「なんば」と呼ばれる長さ60～90cmの下駄を履いて作業し、水田に出かけるときには川舟を使いました。

このように大変な苦労をして農作業を行っていた地域ですが、古くより様々な対策を重ね、現在では県内有数の水田地帯となっています。

立ち上がった「かつての子どもたち」

大変な苦労して農作業を行う一方、子どもたちは田んぼを格好の遊び場として楽しみ、稲刈りの後には川の水を汲み出して魚を取る〝かいぼり〟を行い、フナやハヤ、ウナギなどを獲り、泥んこになって遊びました。地域は葦の群生が豊かな自然を育み多様な生物が棲む「静岡県の10の守りたい自然」の一つに数えられており、平成17年、NPO法人浮島沼自然・里つくりの会が発足し、自然保護活動を開始しました。

平成20年には、浮島地区の農地を保全し、環境の向上を図るため浮島地区環境保全推進会が設立されました。子どもたちが泥んこで遊ぶ風景が失われつつあることに危機感を抱いて「かつての子どもたち」が立ち上がり、魚の避難・生息場所となる〝湾処〟（わんど）を整備し〝かいぼり〟漁を復活させ、現れた魚やサリガニなどの姿に大人も子どもも泥んこになって黄色い歓声をあげました。また、田植え体験や小学校への出前講座など、学校等教育機関とも様々な連携を図り、農業の大切さを次世代に伝えています。

平成23年からは、農村環境や景観の保全などのために社三村しずおか運動に取り組み、NEXCO中日本と協働活動を始めました。



一丸となって

地域では、先人から受け継いできた知恵や技術などを出し合い、一丸となって美味しい米づくりに取り組み、〝浮島うまい米〟のブランド化を目指しています。秋には浮島コミュニティーまつりで「浮島うまい米コンテスト」を開催し、さらに美味しいお米を目指し切磋琢磨すると共に、浮島酒米研究会では浮島の地酒造りで地域おこしに取り組み、地区内外から会員を募り酒米「誉富士」を育て、日本酒を商品化しています。

邑の語り部



浮島地区環境保全推進会 会長
三橋 幸利さん

米創出部会では浮島米や酒米作りを行うなど、地域活性化を目指し、地域活動を進めています。

稲作と共に渡ってきた植物など、浮島沼は貴重な植物の宝庫で、子どもたちも観察や保護の活動を続けています。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
JR原駅ー（ミューバス原循環）ー浮島地区センターバス停

■お車を御利用の場合
東名高速 沼津ICより約30分
新東名高速 長泉沼津ICより約30分

邑の農地／田84ha、畑20ha
主な農産物／米、タケノコ



電柱アート

こんな電柱を見たことがありますか？　これは、地域と東海大学を結ぶ坂と小学生の通学路となる道の電柱に施されている電柱アートです。地域と東海大学を結ぶ坂は、百曲がり急坂と呼ばれるほど険しく、暗く鬱蒼としていました。その坂がファッショナブルで歩いていて楽しくなるような坂になるように、平成20年から電柱アートサインプロジェクトが進められています。現在、坂の43本の電柱と、小学生の通学路となる道の電柱にアートが施されています。



ひまわり

7月中旬から8月中旬にかけて、浮島の田園地帯に約2万本ものひまわりが壮大に咲き誇ります。ひまわりは、浮島地区環境保全推進会に所属する農業者や浮島地区連合自治会、婦人会、子どもたち等、地区住民が力を合わせて景観向上のために植栽。「ひまわりらんど」と名付けられました。日本一の富士山とひまわりの美しいコントラストが織りなす風景は、絶好の撮影ポイントです。



白隠正宗 浮島

地域で栽培した酒米「誉富士」と富士山の伏流水を使い、地元沼津市原の高嶋酒造が醸した純米酒「白隠正宗　浮島」。浮島酒米研究会が栽培した酒米「誉富士」を100%使用し、すっきりやや辛口の味わいは、特に女性におすすめ。ぜひ、沼津産の干物を着にお楽しみください。



⑮三島市

三島箱根西麓地区

みしまはこねせいろくちく

箱根西麓に広がる農産物のパッチワーク

箱根西麓の斜面に広がる畑のキャンバスには、多彩な農産物がパッチワークの様に色とりどりに煌めく大地のアートを描き出しています。美しい景観の中で採れた美味しい野菜は、「箱根西麓三島野菜」ブランドとして、首都圏の人気レストランからも高い評価を受けています。



次世代の子どもたちに食の大切さを

JA三島函南や農業者、地域住民等が中心となって、県が取り組む「子育て理想郷ふじのくに地域モデル事業」等を活用しながら、保育園や幼稚園等の学校教育の中で、子供たちが「食」への関心を高めるため、地産地消や食育等の普及活動を行っています。

地域の宝ものである子供たちが、学校給食を通じて地元の新鮮な野菜に親しみ、食することで、地元で作られた農産物に対する理解と愛着を深め、生産者への感謝の気持ちと生命の大切さを学びながら、健やかに逞しく成長していくことを願っています。



魅力あふれる地場野菜ビジネス

高級品として主に県外に出荷されている三島馬鈴薯等の地元野菜のブランド力を高めるため、「三島馬鈴薯祭り」や「三島甘藷祭り」等の地域イベントが一年を通じて数多く開催され、たくさんの人々が訪れています。

「箱根西麓三島野菜」を使用した「みしまコロッケ」や「三島甘藷スイーツ」等の農商工連携・6次産業化によるご当地グルメも続々と開発され、「三島フードフェスティバル」や「みしま農と食のおいしいフェスティバル」等の食の祭典にも数多く出品する中で、人気と知名度が益々高まってきています。

また、「三島馬鈴薯贈答用化粧箱」は、平成21年度のグッドデザインしずおか大賞を受賞したほか、「箱根西麓三島野菜」のロゴマークが商標登録されるなど、地場野菜のブランド力を活かした新たなビジネス展開も広がりつつあり、産地としての魅力アップが箱根西麓地域の知名度の向上にも繋がってきています。



四季折々の農の風景が描く大地の芸術

かつて三島は、旧東海道の宿場町の一つとして、東西から多くの旅人が訪れていました。歌川広重の浮世絵「東海道五十三次」の三島宿には、「三島大社」の大鳥居が描かれ、今なお多くの旅人を見守り続けています。

箱根西麓に位置する標高50m以上の緩やかな斜面の畑では、古くから大根や馬鈴薯、白菜等の多彩な露地野菜が栽培されています。この地域の野菜は、水はけが良くミネラル豊富な赤土（関東ローム層）と冷涼な空気の力を受けて、甘く瑞々しく育ち、味と品質に大変優れています。

秀麗富士を背景とした荘厳な景色の中で、黄色や緑、紫と言った様々な色彩を描く旬の野菜たちが、まるでパッチワークのように四季折々の風情を醸し出す大地の芸術は必見です。



邑の語り部



三島函南農業協同組合
代表理事組合長
山田 壽次さん

地域環境の創造や子供たちの教育等にも有益な〝農の豊かさ〟を次世代に伝えるため、地域住民が農業と触れ合う機会の提供に努めています。地域に根ざした農業振興と助け合い活動を通じて、地域社会や文化等の発展に貢献しながら、〝ころの豊かさ〟を地域とともに育んでいきます。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
JR三島駅ー（東海バス　元箱根行）ー塚原上～笹原バス停

■お車を御利用の場合
東名高速 沼津ICより約20分
新東名高速 長泉沼津ICより約20分

邑の農地／畑175ha
主な農産物／箱根西麓三島野菜、サツマイモ



B級グルメで有名な「みしま甘藷スイーツ」

三島市特産のサツマイモ「山北印三島甘藷」を使ったおしゃれなスイーツを、季節限定で三島市内の菓子店や飲食店で堪能することができます。スイートポテト、モンブラン、プリン、タルト、どら焼き、きんつばなど和洋様々な創作スイーツは目にも鮮やかで、旬の味覚を旬ならではの時期に是非味わって見てください。



「三島甘藷祭り」

昭和の初め、「山北印三島甘藷」として名を馳せた地元特産のサツマイモを復活させるため、7年ほど前から地域イベントが開催されています。新鮮なサツマイモの直売や山北さつま汁の試食、大学芋や焼き芋等の加工品販売のほか、子供たちを対象に芋掘り体験教室が開催され大変な賑わいを見せています。



三島の冬の風物詩“だいこん干し”

三島だいこんは、昭和の初め「農兵節」を全国に広めた平井源太郎が大々的に世に売りだし、現在は県下有数の産地となっています。箱根西麓の土壌は、深く根を張るだいこん栽培に適しているため、大変美味しいだいこんができることで有名です。たくあん漬けを作るための「だいこん干し」作業と富士山が織りなす風景は、全国の写真愛好家が数多く訪れる絶景として、三島の冬の風物詩となっています。



⑯ 御殿場市

西澤水系

にしざわすいけい

富士の清流に祝福された邑 富士を望む雛壇状の田園風景

富士山へ向けて整然と広がる雛壇状の田んぼ。水路を流れる霊峰富士の清冽な伏流水。昼夜の寒暖差が大きい特色を活かしながら、おいしい米づくりが行われています。住民は花を里に植え、美しい景色と豊かな自然環境を大切にしています。



田園丘陵を流れる富士伏流水

御殿場IC下車後、左手前方に富士山を仰ぎつつ北西へおよそ車で10分、なだらかな傾斜に整然と整備された田園風景が広がる御殿場市仁杉（ひとすぎ）に辿り着きます。田んぼの脇を流れる清流は、富士山の伏流水。里山を流下する豊富な湧水が発するせせらぎの音色は耳にやさしく、清浄な気配が身にしみいります。

富士を背景とした雄大な景色の中で暮らす里の人々は、農道に花を植え、その雄姿をたたえます。



次世代に伝える農の喜び

平成20年6月25日、大規模な農地に整備されつつある中、里の人々は「西澤水系環境ネットワーク」を立ち上げ、御殿場地域にてブランド化が進む「ごてんばこしひかり」と富士山を望む優れた景観を前面に押し出して、多様な地域活動を開始しました。

水路法面の草刈、案内板設置、花壇設置等の活動や遊休農地発生防止のための畑作を進め、地域の農地・農業施設・環境の保全向上に努めています。

また、次世代を担う子供たちに、芋掘りなどを通じて農の喜びを伝え、ふるさとの田んぼや清流といった地域資源の写生を勧めるほか、親子マス釣り大会を催し、地元の河川を利用した環境教育にも取り組んでいます。



富士湧水の贈り物

ブランド化が進むごてんばこしひかりを育てる稲作農業はもちろん、休耕地のそば栽培や水かけ菜、わさびの栽培にも取り組んでいます。豊富な富士山の伏流水は、山麓の田畑にそそぎ、冷涼な気候とあいまって美味しい農産物を育んでいます。豊かな自然環境の中で育った農産物を、将来にわたってみんなに味わってもらいたいとするのが地区の農業者の願いです。

食味向上のための土づくりに取り組む「エコファーマー認証」や「しずおか認証」を取得し、味だけではなく安全で安心できる高品質米の生産に取り組んでいます。



近隣の見どころ

仁杉地区の近隣には、富士山の噴火を収める祭事が行われた跡地に造営したと伝えられる東口本宮富士浅間神社や、富士山の眺望も楽しめる温泉「天恵の湯」等の施設があります。

邑の語り部



西澤水系環境ネットワーク
伊倉 哲夫さん

富士山の麓、おいしい米づくりに地域をあげて取り組んでいます。農業を将来にわたって続けていくため、農地や農業用施設を保全してくことが重要と考え、水路法面の草刈等、地道な活動を継続しています。また農業の大切さを次世代に伝えるための取組も続けていきたいと考えています。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
JR御殿場駅ー（富士急バス 河口湖駅行、富士学校行き）ー仁杉バス停

■お車を御利用の場合
東名高速 御殿場ICより約10分

邑の農地／田60ha、畑2ha
主な農産物／米、水かけ菜



御殿場わさびの郷

わさび沢を眺めながら散策できるウッドデッキの遊歩道や、全天候テラスを備えた「御殿場わさびの郷」。新鮮なわさびや御殿場豆腐などの様々な特産品の購入も可能。伊豆から伝わったとされるわさび栽培は、ミネラルの豊富な伏流水に育てられ、全国規模の品評会で上位入賞する高い品質を誇っています。わさびソフトクリームをぜひお試しください。



仁杉神社

御神木指定されている命木「諏訪の檜」がある仁杉神社。神社の側をかつて塩の道として旅人で賑わった旧甲州街道が通過しています。神社近隣には、富士山の宝永山噴火の際、悠然として残ったとされる樹齢400年超の「宝永の杉」もあります。仁杉地区の「大乗寺」には、老木になった杉が若者に化身して、木の精を若い娘にゆだねようとして見破られたとする伝説があります。



ごてんばこしひかり

「お米日本一コンテストinしずおか」で静岡県知事賞を受賞したごてんばこしひかり。水分量が多くさわやかな甘みが特徴。雄大な富士の麓で、富士山から湧き出る美味しい水で育てられたコシヒカリは絶品です。食味のさらなる向上のため、米ぬかを使った土づくりなどが行われ、今後の躍進が期待されます。



⑰ 裾野市

パノラマ遊花の里

ぱのらまゆうかのさと

花と笑顔はじける富士の裾野のコスモス畑

かつての遊休農地は、ボランティアの手で美しい花畑へと変わりました。富士山と花畑の美しい風景は、散策する人を魅了します。これからは、遊休農地を利用して春の「菜の花」、秋の「コスモス」の植栽活動を続けていきます。



「健康文化都市すその」を築く

裾野市の観光拠点であるパノラマロード沿線の遊休農地に、市民協働の手法を用いながら、景観作物や地力補強作物などを植栽し、観光振興・遊休農地の解消を図るとともに、麗峰富士の下、花と笑顔が満ちあふれる「健康文化都市すその」を築くことを目的に設立されたのが、「裾野市パノラマロードを花でいっぱいにする会」です。かつて芝畑だった2haの遊休農地を花でいっぱいにし、散策する人の目を楽しませています。

会では、「種まき」、「草刈・草取作業」として、参加者を募り様々な人たちが遊休農地の解消に従事しています。地域の主要企業である「トヨタ自動車東日本㈱」や「トヨタ紡織㈱」、「矢崎総業㈱」が活動に賛同するなど、地域が一体となった取り組みが進められています。



イベントやお祭に参加しませんか

種まきなどのイベントは一般の方も気軽に参加できます（申込みは不要、当日現地集合）。裾野市のホームページで募集をしますので、興味のある方は要チェック。4月には菜の花&桜まつり、9月のお彼岸の頃にはコスモスまつりが開催され、ステージイベントや軽トラ市、地元の皆さんの出店が並び、賑わっています。



温泉施設やキャンプ場があります

パノラマロード周辺には温泉施設やキャンプ場などがあります。温泉施設「ヘルシーパーク裾野」に入場すると裾野名物「裾野水ギョーザ」や、地元で人気のアンパンなどの販売があり、人気です。パノラマロードのすぐ近くにある温泉施設行の市の無料バスもありますので、お車に乗らない方はそちらをチェックしてみてください。詳しくは裾野市ホームページをご覧ください。



四季折々の花と富士山の雄大な風景

裾野市運動公園のあたりから国道469号線に向かって車を走らせると、視界いっぱいに広がる富士山の大迫力。平成24年度「花咲くしずおか」花・緑・暮らし景観コンクールの景観づくりの部で最優秀賞を受賞したのがこの地域です。菜の花、桜、ソバ、コスモスなど四季折々の花々が富士山の景色を一段と楽しませてくれます。

邑の語り部



裾野市パノラマロードを花でいっぱいにする会 会長
中村 房平さん

北海道の富良野に旅した際に、その風景に感動し、自分の住む場所を荒れ地や殺風景にせず、美しく感動的な場所にしたいと思い続けて活動しています。適当に花でも植えてということではなく、富士山の偉大さに負けない整備を行っていきたいと思っています。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

JR裾野駅ー（すそのバス　ヘルシーパーク裾野行）ーヘルシーパーク裾野バス停

■お車を御利用の場合

東名高速 裾野ICより約10分

邑の農地／田1ha
主な農産物／米、茶



少しずつ富士山に近づいて! さわやかウォーキング

目の前に広がる雄大な富士山に向かって一直線に伸びる「裾野パノラマロード」。季節折々の花を楽しみながら爽やかな空気の中をウォーキング。3月梅、4～5月桜・菜の花、6月ポピー・アジサイ、8～9月コスモスが咲き誇り、10～12月には一面のススキが風になびきます。ウォーキングの後は、富士山を眺めながら、温泉施設「ヘルシーパーク裾野」でゆったりとリフレッシュしては如何ですか。



裾野市のご当地グルメ! 裾野水ギョーザ

裾野市の特産品であり、食物繊維、ミネラルなどが豊富で栄養価の高いモロヘイヤを使った、どんな料理とも合う逸品です。モロヘイヤがたっぷり練り込まれた緑色の皮で作られる餃子は、ヘルシーで女性にも人気です。市内餃子取扱店だけでなく、冷凍食品でも販売されていて、各家庭でも親しまれています。



特産化を目指して! 愛鷹山麓裾野そば

裾野市須山地区の耕作放棄地を解消するとともに、新たな特産品の開発や愛鷹山麓の美しい農業景観の形成を目指し、平成23年度から取組が始められています。4万平方メートルのソバ畑から収穫され、市内の製粉工場で仕上げられたソバ粉は、25年4月中旬から、西地区にあるJAなんすん「ふれあい市」横でオープン予定の蕎麦店において、味わえることとなっています。



⑱駿東郡清水町

久米田（くまいでん）



条里制の面影残る農地で住民の憩いの場を創出

条里制の形跡が現在も残っている久米田の農地で、市民農園を開設しています。市民農園は、緑の景観を提供するとともに地域住民の憩いの場として、新たなコミュニティーの形成にも役買っています。四季折々の農産物は、町で開催する品評会に出展され、地産地消を実践しています。

町民農園を活用した地域コミュニティの形成



平成8年度に、柿田地区において、良好な都市環境の形成と農地の保全を図るため、町運営による町民農園が開設されました。

町民農園は、その後、徳倉（とくら）地区、そして民間による町民農園が久米田地区にも開設され、町民のレクリエーションの場、憩いの場として、町民農園を通じた町民同士のコミュニティが形成されています。

また、農作業を通じた子供たちの食育の推進や、障がい者や高齢者の生きがいづくりの場としても活用されています。

地産地消による地域経済の活性化

平成20年度の第35回農業祭から、品評会において家庭菜園奨励賞が設けられ、町民農園で優良な農作物を作っている人を表彰しています。品評会に出展することで、自分の作った作物の自慢話に花を咲かせたりすることにより、さらに意欲的に作物づくりを行うようになりました。



町民農園の耕作者は、自らが地産地消を実践し、地域野菜のおいしさを知り、地元の食材を購入することで、地域経済の活性化にも一役買っています。

町民の憩いの場として緑の景観を提供

当地区には、大化の改新以降、奈良時代にかけて碁盤の目のように土地の区画を整備した条里制の形跡が、現在も田のあぜや水路、道路として残っています。

地区内の農家は、後継者も少なく、農業経営の環境も厳しくなってきていますが、「リュミエルＹＡＭＡＭＯＴＯ」を始めとする民間や町運営による町民のふれあい農園がいくつか開設され、町民の憩いの場としての機能も兼ねた都市型の農業が営まれています。



邑の語り部



久米田地区 代表
山本 祐子さん

土と親しみ、家族みんなで健康的でゆとりある生活をしながら、合わせて農業の重要性も理解していただきたいという思いで、父が平成13年に開設しました。今は父に代わり、このふれあい農園を運営しております。日々変わる野菜等を育て、収穫する喜びと感動は経験した人にしか味わえません。ぜひ皆さんも土にふれ、あなたの手で作ってみませんか。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
JR三島駅ー（東海バス　柿田経由沼津駅行）ー清水小学校バス停

■お車を御利用の場合
東名高速 沼津ICより約20分
新東名高速 長泉沼津ICより約20分

邑の農地／田8ha、畑3ha
主な農産物／米（緑米）



東洋一の湧水と呼ばれる名水100選の川 柿田川湧水地

複数の湧水が集まって流れをつくる全長1200mの川で、「名水百選」「21世紀に残したい日本の自然100選」に指定されています。また、平成23年9月には国の天然記念物にも指定されました。柿田川公園内の展望台からは水量1日約100万トンもの水が湧出する様子を眺めることができます。8月第1土曜日に水の恵みに感謝するイベントとして湧水まつりを開催。また、平成15年に町制施行45周年を記念し、同日を「柿田川の日」と定めました。



柿田川の恵み・緑米で造った純米酒「大湧水」と米焼酎「大湧水」

純米酒「大湧水」 清水町特産の緑米を70%まで精米して静岡酵母で醸しました。米、水、酵母、原料はすべて静岡県産の郷土の地酒です。爽やかでフルーティーな香り、果実的な酸味が印象的な味わいに仕上がっています。 **米焼酎「大湧水」** 清水町特産の緑米で仕込む『清酒・大湧水』を造る過程で出る酒粕を蒸留して、熟成すること八ヶ月間、さわやかな口当たりとフルーティーな味わいに仕上がりました。
販売元:かのや本店　清水町新宿（☎ 055-975-0106）



柿田川のある町清水町で育てた古代種「緑米」

緑米とは、黒米、赤米と同様に縄文時代に中国から伝わったとされる古代米です。全国でも生産例が少ない貴重種で幻の米と言われています。緑米はもち米ですが、普通のもち米より粘りが強く、甘味があります。また、亜鉛やマグネシウム、繊維を豊富に含み、白米に混ぜて炊飯すれば白米に無い栄養素を補うことができます。



⑲ 駿東郡長泉町

上長窪地区

かみながくぼちく



愛鷹山麓に広がる肥沃な大地から多彩な農産物を届けます

大和芋、白ネギなどの露地野菜に加えて、四ツ溝柿、長泉メロン、あしたか牛…肥沃な大地は多くの農産物を育んでいます。
これらの資源を未来へ伝えるため、子供たちの農業体験や耕作放棄地解消にも取り組んでいます。

愛鷹山麓に広がる肥沃な土壌

上長窪地区は、愛鷹山東麓を流れる桃沢川流域の農業・畜産を主体とする純農村地帯でしたが、近年、沼津・三島地区の工場や東京都心へ通うサラリーマン家庭も急増し、農業者・非農業者が混住する地区です。

農家では、継承する子弟も少なく、農業経営の環境も厳しくなってきていますが、若い人を中心に農・畜産物のブランド化を進めており、肥沃な土壌を活かした露地野菜（大和芋、白ネギ葱等）や四ツ溝柿、長泉メロン、あしたか牛などの多彩な農産物を生産しています。



地域密着型の教育・食育の場

長窪地区では、以前から地域の共同活動が活発に行われており、平成20年度からは、桃沢川流域に位置する元長窪区、上長窪区、下長窪区、谷津区の4区が集まり、「農地・水・環境保全向上対策」を始めました。

上長窪地区では、地域にある遊休農地600坪を借り受けて、蕎麦の栽培を始め、地元幼稚園児を招待して蕎麦の花見・蕎麦打ち見学試食会を開催するなど地域住民交流活動を展開してきました。

この活動は、蕎麦打ちの普及と蕎麦の自家栽培の参画者の拡大へと展開し、地域密着型の教育や食育の場として定着しています。



愛鷹山麓の広大な大地からの贈り物

愛鷹山麓に広がる肥沃な大地は、多くの農産物を育んでいます。当地が原産とされる「四ツ溝柿」は、静岡県の多彩で高品質な農林水産物の中から、全国や海外に誇りうる価値や特長を備えた商品として、平成23年度の「しずおか食のセレクション」に認定され、「するがの柿」として販売しています。また、静岡県産農林水産物の魅力を活かした新しい加工食品を評価する「ふじのくに新商品セレクション」において、この「するがの柿」を使った新商品「長泉町四ツ溝柿ジュレ」が金賞を受賞し、好評を得ています。

さらに、大玉で甘さがのった「長泉メロン」、安全・高品質を最優先にし、統一した飼料で飼育を行っている、全国表彰を受けたブランド牛の「あしたか牛」等多くの農産物が生産され、地域の特産物として販売しています。

今後は、新東名の開通や東駿河湾環状道路の整備等による流通の強みを活かし、地域経済の活性化を図っていきます。



邑の語り部



上長窪地区
片山 秋好さん

農業者・非農家が一体となり、地域資源である農地、農業用水、農道の保全を図るとともに環境、景観を守る活動をしています。これらの地域活動を行う中で、地域にある遊休農地を活用し、蕎麦の栽培をはじめ、園児の畑作体験等体験農業による地域住民交流活動を展開しています。

これからも、地域密着型の教育や食育の場として、地域コミュニティが深まっていくことを期待しています。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
JJR御殿場線下土狩駅ー（富士急シティバス桃沢郷行）ー上長窪バス停

■お車を御利用の場合
東名高速 沼津ICより約10分
新東名高速 長泉沼津ICより約10分

邑の農地／田14ha、畑76ha
主な農産物／四ツ溝柿、長泉メロン、愛鷹牛
大和芋、白葱



耕作放棄地でのそば栽培

平成20年度から始まった耕作放棄地を活用した蕎麦の自家栽培は、蕎麦打ち愛好会が核となって参画者の拡大へと展開し、環境保全の一環から教育の場への活用に発展し、今後は、地域の特産としての定着を目指しています。



長泉町の特産品の旨みがギュッと詰まった「長泉あしたかつ」

愛鷹山麓の広大な大地、富士山の豊富な湧水のもと、丹精込めて育てられ、全国の舞台でも表彰された牛肉「あしたか牛」と長泉で採れた甘くて柔らかい「長泉白ネギ」の旨みが詰まった、ジューシーなメンチカツです。あしたかつという名前は、「明日はきっと勝つ」という未来への希望を込めて名付けました。

お問合せは、
長泉町産業振興課（☎055-989-5516）まで。



しずおか食セレクション認定「するがの柿（四ツ溝柿）」

愛鷹山麓が原産とされる四ツ溝柿は、その名のとおり、四つの溝があるとがったハート形の渋柿で果肉は緻密でやわらかく、独特の深みのある甘さが特徴です。広く全国の人に知ってもらいたいという願いも込めて、昔の静岡の地名である「駿河」から「するがの柿」と命名されました。お問合せは、長泉町四つ溝柿部会（☎055-986-1852）まで。



⑳ 駿東郡小山町

所領（しょりょう）

清流「鮎沢川」沿いに広がる農村風景

「鉄道・川・田」が望でき、農村風景を凝縮したような山間の景観が広がっています。私たちは農村環境の保全や景観形成を積極的に行い、都市農村交流による地域活性化に取り組んでいます。



「鉄道・川・田」の農村風景

周囲を富士山、丹沢及び箱根外輪山に囲まれた盆地状の地域です。かつては駿河国、甲斐国、相模国の分岐点になるなど平安時代から交通の要衝として栄え、平安時代末期の武将源頼光の家臣であり四天王の一人であった坂田金時（幼名、金太郎）の子供の頃の逸話が、金太郎伝説として数多く残る歴史の宝庫です。

地域の中央を通っているJR御殿場線は、明治時代に難所である箱根越えを北側に迂回することにより克服し東海道本線のルートとして誕生しました。その後、丹那トンネルが開通したことにより、御殿場線となって、現在のようなローカル線となりました。富士山の東麓から湧き出る水が多数の支流となって注ぎ込み、豊富な水量を誇る清流「鮎沢川」が中心部を流れ、その流れに沿って水田が広がっています。「鉄道・川・田」が一望でき、農村風景を凝縮した景観となっています。



「人」と「自然」と「ふれあい」あふれるふるさと

所領地区の人たちが中心となって「合同会社　金太郎」を設立し、農業生産活動を中心に協同活動も行なっています。地域の不作地に積極的に作付を実施する等の活動のほかに、農村交流にも積極的で、東京の小学生のとうもろこし収穫体験や稲刈体験、一般の人を対象にした田植え・稲刈体験等を行っています。稲刈り体験では、東京の小学生は、ほとんどが鎌を触るのは初めてですが、次第にコツをつかむと和気あいあいと目を輝かせて稲刈りします。また、地域の園児を対象にしたさつまいも掘りも行っています。園児たちはシャベルを使って、さつまいもを次々と掘り起こしては「わあでっかい」と歓声を上げます。このような活動を通して「人」と「自然」と「ふれあい」あふれるふるさとの実現に取り組んでいます。



新鮮野菜の直売

地域は「ごてんばこしひかり」の産地であり、農地は稲作が中心ですが、そのほかにトウモロコシやさつまいも、水かけ菜等の農産物も生産しています。近隣の道の駅「ふじおやま」の農産物直売所「みくりやの郷」で地域の農産物を販売しています。直売所内に並ぶ野菜のほとんどは、その日の早朝に収穫した新鮮野菜です。そのほかに地元農家の方がごてんばコシヒカリや地元産そば粉を使って作ったお弁当類、手作りまんじゅう、米粉パン、切り餅などの加工品も売られています。



邑の語り部



合同会社 金太郎 代表
岩田 好弘さん

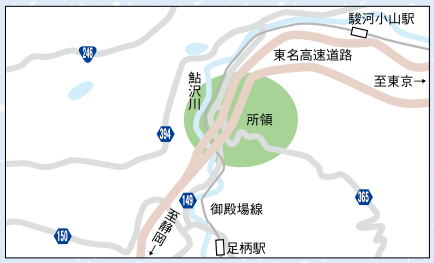
今後はより美しい農村景観をめざし、川沿いにアジサイの植栽や、ホタルの養殖、さらに水かけ菜のオーナー制度なども計画しています。地元で採れた農産物を金太郎ブランドとして町内の直売所などで販売し、より一層の活性化を図っていきたいと考えています。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
JR御殿場線駿河小山駅ー（富士急バス御殿場駅行）ー所領バス停

■お車を御利用の場合
東名高速 御殿場ICより約20分

邑の農地／田7ha
主な農産物／米、トウモロコシ、里芋、水かけ菜



合同会社　金太郎

小山町は金太郎伝説の土地です。勇猛果敢な子供であった金太郎の名にちなんで、平成22年、地域の農地を守るべく合同会社金太郎は発足しました。地域の遊休農地に積極的に作付けし、小学校等との交流活動にも取り組んでいます。地元で採れた農産物を金太郎ブランドとして直売所などで販売しています。



水かけ菜

この辺りでは、富士山の雪どけ水が湧き出した地下水が豊富で、年間を通して水温13度と安定した水温を保っています。冬季の水田に高畝を作り、湧水を流して保温し栽培する伝統野菜「水かけ菜」は、早春にしか味わえない御殿場・小山地域の特産物として多くの人たちに親しまれています。その大半は漬物に加工されて販売されます。しゃきしゃきとした食感とさっぱりした味が魅力です。加工された水かけ菜漬は直売所などで販売されています。



トウモロコシ

トウモロコシの栽培が盛んで、夏には収穫体験などのイベントも行っています。主力品種はゴールドラッシュです。ゴールドラッシュの特徴は、さわやかな甘さ、つやつやとした黄金色の粒、やわらかい粒皮で、とてもおいしいと評判です。



㉑ 富士宮市

柚野の里

ゆののさと

富士を仰ぐ人々が育む日本の原風景

富士山を背景に石積みで作られた水田を、芝川を源流とした清き水が潤します。重厚な歴史とこの絶景を創り出す田園や清流を守り次世代に残していきたい人々の集う里です。



富士山と農、水、緑の調和が最高

柚野地域は、雄大な富士山を背景に、清流芝川沿いに美しい田園景観が広がる地域です。地域一帯には、石積みなどで築かれた棚田群が見られ、清水が用水路を流れて田畑を潤し、豊かな自然の中で暮らす人々の営みが今も色濃く残っています。

太古の昔より富士山に抱かれるように人々が営営と暮らしてきたこの地は、近年、縄文時代草創期の国指定史跡「大鹿窪遺跡」が発見されたことで、大きな話題となりました。また、平家や織田信長に纏わる興味深い史跡のほか、江戸時代には身延道の要衝でもあったことから、由緒ある古寺や神社のほか、街道沿いには道祖神の姿も数多く見られます。一方で、棚田や傾斜地の畑は作業効率が悪いことから、中山間地域総合整備事業で次世代への農業・景観の継承に向けたほ場整備が行われています。

この棚田や農村の景観は、平成11年に「柚野の棚田群」が「静岡県棚田等十選」として選定され、平成23年には「富士山縄文の里～柚野の里の田園風景」として「静岡県景観賞」の表彰を受けています。





柚野好きの多様な人々が築く絆と喜び

柚野地区には、四季折々の富士山と田園景観をポイントとして多くの人々が訪れます。春には一面の黄色い菜の花や、田植え前の逆さ富士、秋には土手に咲く彼岸花など、自慢の景観が盛り沢山です。

この美しい田園景観を守るため、「若柚会」、「里山つなぎ隊」、「YUNOどんぐりの会」など多くの団体により、地区内外の住民、大学、企業と連携した農地や森林の保全活動が活発に行われています。活動団体の一つ「富士山縄文の里　久保幸区」では、農業者と地域の人たちなどが一緒に地域の資源と環境を守り育てる「ふじのくに美農里プロジェクト」の活動を実施しており、子供会やサラリーマン小作見習い集団「久保の棚田を楽しむ会」と協力して、春は田植え、秋は稲刈りなど棚田での米作りに取り組んでいます。



四季折々の景観、歴史文化、特産物を楽しむイベントで柚野の魅力を演出



柚野地区では、景観、歴史文化、特産物を楽しむ交流イベントを開催し、地場産品を利用した惣菜、お菓子などの特産品開発、普及、販売による地域活性化に取り組んでいます。

早春の3月には柚野産米と清水から生まれる銘酒「富士錦」の蔵開きが「柚野むらおこしの会」主催で開催されます。また、秋には大銀杏の黄葉が鮮やかな西山本門寺で「信長公黄葉まつり」が盛大に開催され、火縄銃の演武や大特産物市など、歴史と秋の味覚を魅力に多くの人々が訪れます。

平成24年度からは、農村の資源と文化を楽しむ農村交流イベント「芝川日和」として、6月に「梅の里」稲子まつり、10月に柚野の里まつりが開催され、農村地域の風情を楽しみながら、ウォーキングや様々な体験、採れたて野菜の販売などを楽しむことができます。



邑の語り部



柚野むらおこしの会 会長
佐野 進司さん

柚野の里は美しい富士山を背景とする田園景観と共に先代の住民がそれぞれの時代に築いてきた大変重く厚い歴史が刻まれた地区です。

今を生きる住民として、その素晴らしい歴史に育まれた地域の伝統を人々に伝え、残していきたいとの思いから「地域に根付いた資源を立ち上げる」発想でむらおこしの取組みを進めています。

柚野の里の人々が生まれ故郷を誇りに思い、また、多くの来訪者に柚野の里の素晴らしさを実感していただくことを願っています。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

JR西富士宮駅ー(富士急バス上柚野行)ー柚野支所バス停

■お車を御利用の場合

東名高速 富士ICまたは富士川スマートICより約35分
新東名高速 新富士ICまたは新清水ICより約35分

邑の農地／田235ha、畑120ha
主な農産物／米、白菜、大根、柚子、そば、トウモロコシ
梅、タケノコ



柚野のお母さんたちがつくる手打ち田舎そば

柚野地区では、地元のお母さんたちが作る絶品の手打ちそばを味わうことができます。下柚野地区の「柚野いづみ加工所」では地元産そば粉、季節の野菜や山菜の天ぷらが人気で、そば打ち体験も楽しめます。(要予約)また、西山地区の「そば処黒門」は、地元商工会の女性部有志が昨年3月に開店した手打ちそばのお店で、西山本門寺の散策時の食事処としても最適です。(金土日曜、祝日営業)



富士の湧き水で仕込む伝統の銘酒

地元にこだわり、柚野の米、清水で仕込んだ銘酒が人気の富士錦酒造は、柚野の地で酒造りを始め300年余の老舗です。早春の3月には、「柚野村おこしの会」が主催するイベントとして平成9年から「蔵開き」が開催され、早春の富士山を望む田園風景の中で新酒がふるまわれ、毎年多くの人々で賑わいます。地元特産の梅や柚子を使ったワインも人気で、これらは柚野産100%のむらおこしの逸品です。



西山本門寺

西山本門寺(にしやまほんもんじ)は静岡県富士宮市西山(旧富士郡芝川町)にある法華宗興門流の本山です。西山全体で360町歩の広さがあり、黒門から本堂裏手の墓地まで直線で2kmの広大な敷地があります。敷地内には西暦1582年(天正10年)6月、織田信長公の首を納めたと伝えられる首塚があり、そこに植えられているヒイラギの木は、推定樹齢450～500年といわれ、静岡県の天然記念物に指定されています。大銀杏が黄葉する11月には「信長公黄葉まつり」が盛大に開催されます。



㉒ 富士市

岩本山とかりがね堤を守る邑

いわもとやまとかりがねづつみをまもるむら

人々の英知が築いた造形と富士山が演出する「美のハーモニー」

一天茶園が広がり、富士市を一望する憩いの場である「岩本山」。度重なる富士川の洪水から農地を守るため、江戸時代に築かれた「かりがね堤」。先人が築いた2つのシンボルを守っています。



江戸からある「かりがね堤」

かりがね堤は、日本三代急流の一つに数えられている富士川の左岸にある大規模な堤防です。度重なる洪水から水田を守るため、江戸時代に古郡重高・重政・重年の父子3代が50年以上の歳月を費やし、全長2・7㎞に及ぶ堤防を完成させました。その姿が群れをなして飛ぶ雁（かりがね）の姿に似ていることからこの名前が付きました。このかりがね堤という自然と史跡が調和する、良好な茶園が形成されています。

また、富士山の眺望は美しく、四季を通じて多くの写真愛好家や行楽客でにぎわっています。



地域の共同活動

当地域は、畑地かんがい事業により組織された水利組合を母体に、本年度より「ふじのくに美農里プロジェクト」による、小学校、農協と共同した農業体験事業や地域環境保全活動を進めています。

かりがね堤を建設した古郡親子3代の偉業と、築堤や氾濫での犠牲者、工事完成の際に神仏加護のために人柱となった僧を弔う「かりがね祭り」に合わせてコスモスを植え、祭りを盛り上げています。毎年10月の第1土曜日に開催されます。



大茶園と多様な果物・野菜

会員（水利組合員）共同の水管理体制のもと、お茶の産地として健全な地域農業が展開されています。また、地域で行われるイベント（かりがね祭り等）の際には、会員が生産する果物や野菜による産直市を開催し、食の魅力の情報発信をしています。

富士山の撮影スポット

岩本山の山腹では、富士山の裾野まで見え、茶畑を前景にした撮影ポイントとして有名です。また、数多くの木々や花が植えられており、1年を通じて四季折々の花が楽しめます。

4月上旬には「富士山と桜」、5月上旬には「富士山と茶畑」の絶景が見事です。



邑の語り部



岩本山とかりがね堤を守る会 会長
小林 勲さん

地区のシンボルである「岩本山」、「かりがね堤」や優良な農地を地域の住民がみんなで守っていきたい、活かしていきたい、という思いから、平成23年に「岩本山とかりがね堤を守る会」を設立しました。小学校や農協とも協力して地域を守っています。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
JR身延線柚木駅
※岩本山に行く場合はJR富士駅から月～土運行のコミュニティーバス利用

■お車を御利用の場合
東名高速 富士ICより約20分 富士川スマートICより約10分
新東名高速 新富士ICより約20分

邑の農地／畑130ha
主な農産物／茶、柑橘、ブルーベリー、落花生



絶景の撮影スポット 岩本山公園

市の南西部に位置する標高 193m余の丘陵地を利用した自然公園。園内には芝生広場、梅園、ハイキングコースがあり、展望台からは西に富士川、南に駿河湾から伊豆半島、北に富士山を望むことができます。梅や桜の名所としても知られ、シーズンには花見客で賑わいます。また、夜景の絶景ポイントとしても有名で、富士市街から清水港まで美しいイルミネーションのような光景が見られます。



富士山のふもとで出来たお茶「富士やぶ北茶」

明治の中頃、静岡のある藪の北側の茶園から珍しい茶の木が発見され、改良が繰り返され、苦心の末、優良な新品種「やぶ北」が誕生しました。戦後、富士山麓の一帯の広大な土地でも栽培され、当地の地質はその育成にもっとも適し、発祥栽培の土地の名にちなんで「富士のやぶ北茶」と名付けられ、逸出した香りと味で、農林水産大臣賞に輝いています。



まちの駅「かりがね産直市」

雁公園の近くにある「かりがね産直市」では、地域で採られた新鮮な野菜や果物など、旬のおいしさがつまった商品を安価で提供しています。休憩場所や簡単な観光案内所等を設け、来客者に「おもてなし」の場を提供しており、天気の良い日に店の外のベンチに座れば、正面に大きな富士山を、裏手にはかりがね堤のコスモスをはじめ季節の花を楽しむことができます。住所:富士市松岡1078



Central part

中部地域



閑話・その2

「受け継がれる伝統・民俗芸能」

民俗芸能は、地域の歴史と文化が表現されている無形の民俗文化財です。

静岡県の各地には様々な民俗芸能が伝承され、その舞踊や音楽は、地域の生活・風土と結びつき、地域ならではの歴史・文化を物語る貴重な財産です。

これらの行事は、地域の密なる交流や世代間の連帯意識を強め、コミュニティの醸成につながっています。

また、災厄をはらい、豊穣を願い、祖霊を祭る歌や舞、踊りは、歴史的、文化的価値があるだけではなく、近年では都市の人々からも注目されています。



三熊野神社の地固め舞と田遊び



寺野のひよんどり

ふじのくに美しく品格のある邑にある国・県指定無形民俗文化財

清沢の神楽（清沢）
徳山の神楽（徳山）
寺野のひよんどり（大好き渋川）
三熊野神社の地固め舞と田遊び（とうもんの里）
徳山の盆踊（徳山）
有東木の盆踊（有東木）
戸田の漁師踊・漁師唄（戸田）
江浦の水祝儀（寿太郎みかんの里 西浦）
朝比奈大龍勢（殿）
女河八幡宮例大祭神事（新所水とみどりのプロジェクト）



徳山の神楽



有東木の盆踊

㉓ 静岡市清水区

原・新丹谷

はら・あらたにや

都圏から2時間 大都市とつながるみかん畑

平成24年に開通した新東名高速道路、清水いはらICのまわりには広大なみかん畑。私たちは、このみかん畑で都市農村交流による新たな農業の展開を目指しています。



平坦で広大なみかん畑

全国的にも珍しい大区画平坦なみかん園と、その中を貫く近代的な土木構造物の新東名高速道路が、本地区独特の農村景観を生み出しています。地区から望む富士山、駿河湾と一体となった景観は平成24年度の県景観賞の最優秀を受賞しました。また、港町清水も近く、新鮮な海産物も味わえることから、景色ともに、海・山の両方が満喫できる地域です。かつて急斜面であった段々畑は農地の区画整理事業によって、生産性の高いみかん園へと生まれ変わり、大規模化された農地では、みかん栽培はますます盛んになり、意欲ある若手後継者も多く育っています。



地域の将来像を検討

原・新丹谷地区では、新東名高速道路の開通をきっかけに、土地改良区が中心となり「都市農村交流」をテーマに農業と地域の将来について検討を始めました。また、プロ農家の集まりである土地改良区は、非農家の方と協力し、ふじのくに美農里プロジェクトにも取り組んでいます。プロジェクト組織の原農地保全会では、地元の子供達と一緒に地域内にある道路沿いに花を植栽するなど、環境創造活動にも積極的に取組んでいます。



新たな取り組み

平成24年からみかん農家の有志による「みかんの樹オーナー制」を開始しました。さらなる事業拡大や、都市農村交流に必要な道の駅等の拠点施設設置に向けた検討を地域一体で進めています。



また、港の見えるみかん園から新東名を望むコースなど、庵原地域の様々なコースを歩くイベント「アグリウォーキングしみず」を毎年11月に開催しています。

「みかんの樹オーナー制」などの最新情報は、JAしみずホームページをご覧ください。

http://www.ja-shimizu.org/



邑の語り部



新丹谷理事長
西ヶ谷 量太郎さん(談)

庵原地区はとても団結力があり、新東名高速道路に近いなど周辺環境に恵まれています。これからは、みかん畑をいかしつつも庵原全体の美しい邑づくりを通して、住民も来訪者もいきいき楽しく生きるようにしていきたいです。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
JR清水駅ーー(静鉄バス庵原線トレーニングセンターー行)ートレーニングセンターバス停

■お車を御利用の場合
東名高速 清水ICより約5分
新東名高速 清水いはらICより約5分

邑の農地／畑92ha
主な農産物／柑橘(はるみ、清美、デコポン)



ふれっぴー庵原店「清水野菜村」



JAしみず直営のふれっぴー庵原店内の「清水野菜村」は地産地消コーナーで、本地域で生産されたみかんも販売されています。また、みかん以外にもお茶やバラなどの花、いちごなど、本地域で生産されたものも並んでいます。

静岡市清水区庵原町1☎054-367-3228
9時～19時 休みは正月3日間

駿河湾の眺望と周辺施設

地域の西側の高山は新東名高速道路と原地区のみかん園を前景に、駿河湾が一望できる絶景スポットです。健脚の方なら、庵原球場裏から登り、富士山と駿河湾、原・新丹谷のみかん園を見ることができます。また、サッカーのトレーニングセンターとして有名な清水ナショナルトレーニングセンターに隣接した県指定史跡の三池平古墳も公園として整備されています。



しずおか食セレクション「はるみ」

本地域でも栽培されている「はるみ」は、清水生まれの清水育ちで2月上旬から3月中旬に出荷されます。ポンカンと清見の交配種で、むきやすく、甘くておいしい品種で全国的にも人気が高まっており、生産量も年々増えてきています。JAしみずで注文できるほか、ふれっぴー庵原店などで購入できます。



㉔ 静岡市葵区

有東木

うとうぎ

清流がわさびを育て、澄んだ空気が良質の茶をつくります。
農が育む美しい里の風景と、有東木神楽や盆踊りなどの伝統文化を守っています。



わさび栽培発祥の地

有東木の里を包む大らかでありながら凛とした空気。

豊かな自然と山葵づくり

70数戸のこの村の始まりは、戦に敗れた落人たちが追っ手を逃れるため、奥まったこの地に住み着いたとも、金の採掘のために先人が住み着いたとも言われています。

本地区はわさび栽培発祥の地であり、約400年前、有東木沢の源流に自生していたわさびを集落内の井戸頭という遊水池に植えたところ、繁殖に成功したことが栽培の始まりとされています。かつて、この地で栽培されたわさびを徳川家康に献上したところ、その珍味を賞賛され天下の逸品として村から門外不出の御法度品なったと伝えられています。徳川の家紋が葵の紋であったことからも珍重されていたことが伺えます。

四季を通じての豊富な湧水がわさび栽培を支え、現在も地区の主産業はわさびと茶栽培です。わさびと並んで地区の特産となっているお茶は、今でも大部分を手摘みで収穫し、味、香り、色で珍重されている高級茶です。安倍川から九十九折りの山道を登って来ると、わさび田と茶畑の緑に囲まれた天空の集落が現れます。標高も600m程あり新緑から紅葉、雪景色と四季折々の特徴ある風景が味わえる自然豊かなところです。



歴史ある伝統行事が盛りだくさん

有東木集落では、伝統行事が今日まで大切に受け継がれています。毎年8月14日、15日に国指定重要無形民俗文化財の「有東木の盆踊り」、4月と10月に市指定無形民族文化財の「有東木の神楽」(白髪神社奉納舞)が行われます。行事には老若男女がみな集い強い絆があります。活性化施設「うつろぎ」を運営する女性組織も積極的に活動しています。



地域の拠点施設「うつろぎ」

茶やわさびの販売を拡大するため、地域女性が中心となり「うつろぎ運営委員会」を設立し、各種加工品の開発から販売、また「うつろぎ」での食事提供やそば打ち体験等積極的に取り組んでいます。加工品は市内常設販売所の複数箇所で定期的に販売する等広域的に展開して売上増に努力しています。有東木の案内所としても気さくに対応してくれます。



邑の語り部



うつろぎ
白鳥 茂子さん

当たり前の反対は「感謝」。感謝を忘れないように生活しています。

これからも工夫と努力で有東木を訪れてくれる人たちが増えてくれることを願い、心を込めておもてなしていきます。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
JR静岡駅ー(静鉄バス安倍線有東木行)ー有東木橋バス停

■お車を御利用の場合
東名高速道路 静岡ICから約60分
新東名高速道路 新静岡ICから約35分

邑の農地／田3ha、畑24ha
主な農産物／茶、わさび



歴史ある祭りの舞台 白髪神社

神楽の舞台は白髭神社で、ここは村の鎮守様とされています。石段の先には、立派な神楽殿と社があり、高さ45m、市内随一の杉が10本囲んでいます。一方、盆踊りの舞台は東雲寺で、有東木散策道の突き当たりに位置します。境内には子安観音や大日如来が鎮座し、わさび田があるお寺としても有名です。



わさび田と茶畑の景観

第1回県景観賞に選ばれた有東木地区。谷間に広がるわさび田と茶畑、伝統行事などの文化との総合性が織り成す美しい景観が見事です。地区内には、散策ルートも整備されており、わさび栽培発祥の地やビューポイントなどが点在されています。



うつろぎ

有東木の集落の入り口に建つ、農林産物加工展示販売施設です。わさび漬けをはじめとするわさびの加工品、お茶、朴葉餅、手打ちそば、そして気さくなおばちゃんの笑顔が名物です。有東木の案内所としても御利用ください。営業は平日10時～15時、土日祝9時～16時、定休日は毎月第三火曜日、年末年始、農繁期です。

静岡市葵区有東木280番地の1
☎054-298-2900
http://www.utougi.com/utsurogi/index.htm



㉕ 静岡市葵区

清沢

きよさわ

お茶 レモン 棚田 挑戦する邑づくり

「よもぎ金つば」、「猪肉まん」の商品化！「清沢レモンの郷づくり」にも着手しました。古くから受け継がれてきた地域の暮らしを大切にしながら、新しいことにチャレンジしています。



棚田保全と新たなレモンの郷づくり

清沢地区は藁科川の中上流部に位置し、清流と豊かな緑に恵まれた農山村です。消えつつある棚田の保全に取り組み、また新たにレモンの郷づくりを目指した活動を展開している活気ある地域です。茶、椎茸、自然薯、鮎、蛍など特産物や地域の宝も豊富な素晴らしい地域です。



20年以上続く取り組み

NPO法人化した活動組織もあり、過疎地有償運送やデイサービス等地域内の活性化に取り組む一方、県が進める一社一村運動にも取り組み地域外との交流やマンパワーを活かした、地域の保全や活性化を進めています。

20年以上続く地道な取り組みは地域内での信用も得て、地域の団結力や若手育成にもつながっています。



邑の語り部



フロンティア清沢理事長
大棟 鉄雄さん

「素直にありのままでいること」とことん話し合い、納得したら共に動き、時にはケンカもして、仲直りし、楽しみながら活動しています。そのシンプルなパワーで様々な活動、新しいチャレンジを続けており、自らでいきいきした地域づくりを目指しています。

新たな商品開発

「よもぎ金つば」等積極的な販売を展開すると共に、中山間地の鳥獣被害を逆手にとり、駆除した猪の肉を使った新商品開発を進め、話題性のある商売を行っています。また、低迷する特産物のお茶に代わるものとしてレモンの植栽を進め、加工品の開発も進めています。



体験ツアーや文化活動

NPO法人フロンティア清沢が運営する交流施設「きよさわの里の駅」では、食堂、農産物・農産加工品の販売の他、農業体験などの活動の窓口になっています。様々な体験イベントを年間を通して実施している施設です。また、県指定無形民俗文化財「清沢の神楽」は駿河神楽のひとつとして毎年10月に実施されています。神楽にあわせて行われる1泊2日の田舎体験ツアーも毎年好評ですので、詳しくはきよさわ里の駅ホームページを御確認ください。



静岡市葵区相俣200
☎054-295-3783
月曜休み（祝日の場合は翌日）
http://www4.tokai.or.jp/satonoeki/index.html

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
JR静岡駅ー（静鉄バス 藁科線 きゅうのお行き）ー下相俣バス停

■お車を御利用の場合
東名高速道路 静岡ICから約60分
新東名高速道路 新静岡ICから約45分 静岡SAから約20分

邑の農地／田3ha、畑193ha
主な農産物／茶、しいたけ、自然薯、レモン



体験活動

年間を通して体験やイベントの参加募集をしています。例えば、当日申込可能なきよさわよもぎ金つば作りは通年できます。要予約で時期も決められているのは、そば打ち体験（11～翌3月）、茶つみ体験（5～8月）、味噌づくり体験（2月）、シイタケ菌打ち体験（3月）などです。お問合せは「きよさわ里の駅」まで。



きよさわ里の駅

国道362号沿いにある地域の女性陣の発案により設立され、運営されている施設です。地元で採れた新鮮野菜や果物、梅干や味噌などの手作り加工品が豊富で、中でも人気商品は「きよさわよもぎ金つば」です。食堂では、「猪焼肉定食」や野菜たっぷりの「田舎カレー」なども食べられます。



新たな取り組み レモン

レモンの植樹は現在、1,800本。この地域はお茶の生産が主でしたが、高齢化と価格の低迷で茶畑の耕作放棄地が多くなりました。そこで、鳥獣害に遭いにくいレモンで地域の活性化を図ろうと考え、将来に向けて加工品の開発や販売を進める予定です。清沢のレモンで作った新商品の食べる調味料「ぶっかけレモン」も販路拡大中です。



㉖ 島田市

神座鵜網

かんざうあみ

大井川の恵みを活かした高品質なみかん・茶の産地

神座、鵜網は、島田市の北部に位置し、清らかな大井川の水が香り豊かな茶、ハウスみかんなどを育て、ホタルが舞う良好な環境を創り、育てています。



子供から高齢者まで ～地域の絆～



20年ほど前から自治会や鵜網友の会が中心となって地域共同活動組織づくりが進められ、平成20年度に「神座鵜網環境美化の会」が組織されました。この会には学校などの団体も参加しており、子供から高齢者まで地域の絆と環境美化に一致団結して取り組んでいます。

住民一人ひとりがその価値を再認識し、資源や農村環境の良好な保全と質的向上を図り、地域の農地や水路などが持つ多面的機能の健全な発揮のためのまちづくりを進めています。

大井川の恵みを活かして



当地域では、大井川の朝夕の川霧が直射日光を遮るため、美しい色と上品な香りのある茶が生産されています。また、川沿いの砂れきの多い土壌は水はけが良く、良質のみかんやバラ、イチジクが栽培されています。初夏には茶摘み体験が、冬にはみかん刈りが楽しめ、神座みかんの木のオーナー制度も行っています。

大井川に抱かれる邑



大井川河口扇状地の扇頂部にあたり大井神社の発祥地である神座は、かつては洪水のたびに田畑は大きな被害を受けていました。そのため、明治期に地元の士族が土地の有志や有力者の協力を仰ぎ、着工から30年の年月を経て大堤防を完成し40haに及ぶ耕地が開きました。そして今、地区内に張り巡らされた大井川用水の豊富な水と緑豊かな山に囲まれ、ホタルやドジョウのいる小川がある閑静な農村風景が広がっています。

邑の語り部



島田市神座手づくり紙芝居グループ　代表
北川　忠雄さん

平成12年に、「故郷を愛し、郷土の歴史を子供達に紙芝居を通して伝えて行きたい」という思いで、紙芝居グループを発足、平成18年には静岡県地域文化活動奨励賞を受賞。93歳と高齢ながら郷土愛に燃え、地区の発展のために数々の功績を残された地域の〝生き字引〟です。

神座の歴史と大井神社

大井川の水流が激しくぶつかる集落の北端に位置する大井神社の起源は、昔大きな台風が通過した時に、上流より立派な社が流れ着き、それを祀ったことから始まったと言われています。この大井神社の祀られる崖により集落は守られています。快い秋晴れの日に、年に一度のお祭りに子供からお年寄りまでが参加して、長い行列のお供をする伝統が続いています。



「大井川水路橋」

正式には大井川用水「小笠幹線水路橋」といい、上流の島田市川口で取水された水を掛川市、菊川市などの大井川右岸側の水田に運ぶために架設されました。この橋は2代目で平成18年に完成し、長さ732m、幅4mもあり、最大で毎秒10トンもの水が流れます。水路の上を通行することもでき、時間帯別の一方通行となっています。



上品で優雅な花の女王「バラ」

神座地域のビニールハウスではバラ栽培が行われ、色鮮やかで花形の良い高品質なバラを生産しています。静岡県のバラ出荷量は全国2位、このうち島田市のバラは約16%を占め、島田市は全国的なバラの生産地となっています。



アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

JR島田駅ー（島田市コミュニティバス　伊久美線）
ーJA島田北支店～北鵜網バス停

■お車を御利用の場合

東名高速 吉田ICより約40分
　　相良牧之原ICより約40分
新東名高速 島田金谷ICより約10分

邑の農地／田20ha、畑95ha
主な農産物／柑橘、茶、バラ



㉗ 焼津市

中の島

なかのしま

荘園小杉御厨の面影を地域で守り育てる

中の島は、焼津市西部の旧大井川町に位置する水田地帯です。平安・鎌倉の時代には、伊勢神宮の荘園「小杉御厨（こすぎみくりや）」があったと言い伝えられており、その面影を地域で守り育てています。



古の姿を思い田植えかな

本地区に広がる水田は、小杉御厨と呼ばれた平安・鎌倉時代の荘園（伊勢神宮領）跡であり、この美田を次世代に引き継ぐため、平成19年からふじのくに美農里プロジェクト事業による保全活動を行っています。

また上小杉八幡宮では毎年10月に神相撲と流鏑馬を伝統行事として守り続けています。流鏑馬は、地元の青年1名が綿の袴姿で徒歩による流鏑馬式を行い、流鏑式の後奉納される神相撲では、その年に生まれた男子が金時の腹がけをして2人一組となり、親の介添えが付いて神宮の行司で立ち合います。





夏の小さく可憐な白い花

町内会や子供会、部農会などが連携し、河川清掃や田植え稲刈り体験、まちをきれいにする運動などの活動を行っています。

地域の河川沿いの遊歩道整備や雑草の抑制を目的として、春から夏には白い花を咲かせるヒメイワダレソウを毎年継続して植栽しています。

住民一人ひとりがその価値を再認識し、資源や環境の保全と質的向上を図り、地域の農地や用水路などが持つ多面的機能の健全な発揮のためのまちづくりを進めています。



消費者と農家の交流活動

水田地域に住む子供たちも、近年では田んぼに入ることは少なくなってきています。中の島地域環境保全活動組織では、毎年、地元の小学生を対象に田植えや稲刈りなどの稲作体験を行っています。この体験を通じて、子供たちに「食」について見つめなおしてもらうだけではなく、田んぼが生き物の住処となり、水を貯留するという様々な機能を持っている地域の財産であるということを学べるようにしています。

また、ファーマーズマーケット（直売所）での出荷販売を通じ、地元農産物等の生産拡大と地域農業の振興を目指すとともに、消費者と農家の交流活動を進めています。



邑の語り部



中の島地域環境保全活動組織　代表
岡村 正嗣さん

「歴史ある水田を守っていきたい」「子供達に生き物の住むきれいな環境を残していきたい」という思いから、平成19年に中の島地域環境保全活動組織を設立しました。地域の草刈りや泥上げなどの地道な活動のほか、稲作体験を通じた環境教育・食育なども行っています。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

JR藤枝駅ー（静鉄バス　藤枝吉永線）ー静浜基地入口バス停ー（徒歩10分）

■お車を御利用の場合

東名高速 吉田ICより約15分
新東名高速 藤枝岡部ICより約35分

邑の農地／田14ha
主な農産物／米



実用的な白い花「ヒメイワダレソウ」

5月終わりごろから9月初めに白い小さな花をカーペット状に咲かせます。葉も小さく、あまり背が高くないので、雑草の抑制のために使われます。接道緑化、法面緑化、畦畔管理などに利用されています。



大井川のお米

平安の時代から続く歴史ある水田では、現在でも大井川の水の恵みを受けて、水稲栽培が盛んです。焼津市内では、県内でも珍しい古代米（赤米・黒米）やミルキークイーンなどの品種も生産されています。



荘園跡「小杉御厨」

この付近では、平安・鎌倉の荘園開発が盛んであった時代の遺構が複数個所で発見されており、有力者を中心とした集落形成が進んでいたと考えられます。



㉘ 藤枝市

殿 との

コスモス 大龍勢 虫送り みんなが楽しむ邑づくり

一面に咲いたコスモス畑の中を、勇壮なロケット花火が秋空に昇っていく、「朝比奈大龍勢」の舞台となっているのが、藤枝市殿地区です。後世に残していきたい伝統儀式や、コスモス畑づくりに地域全体が参加することで、地域が結束し、地域の振興と農地の保全を支えています。



コスモス畑

平成15年からサッカーグラウンド5面分（3～4 ha）の広さの休耕田を利用してコスモスの植栽が行われています。種まきでは子供から大人まで170名ほどの参加者があり、町内会挙げての行事となっています。コスモスが見頃となる10月の土日・祝日には写真コンテストや採れたて野菜の販売等のイベントも開催されますので、ぜひ一度辺り一面のコスモス畑へお越しください。



虫送り

虫送りは、かつて松明を焚いて火の中に飛び込む害虫を駆除し、虫の供養を行った農行事ですが、農薬などの普及により一時はなくなってしまいました。しかし、昭和58年頃、元禄時代から虫送りに使われていた青銅の鐘が見つかり、地元有志の呼びかけにより、伝統行事として復活しました。毎年8月23日、松明を焚き、「田の虫おーくーれー」という掛け声と鐘の音とともに、地元の子供たちが行列となって虫送りをする様子は、殿の夏の風物詩となっています。



玉露の三大産地

岡部町朝比奈は京都の宇治、福岡の八女と並んで玉露の日本三大産地にかぞえられています。その歴史は古く室町時代に端を発し、お茶の栽培技術や手もみの製茶技術は、時を超えて受け継がれています。特に朝比奈玉露は、全国茶品評会で農林水産大臣賞、産地賞を受賞し、甘味をおびたまろやかな味と香りは、日本一と称されています。



邑の語り部



殿ふるさと会 会長
大石 久志さん

多様な主体が連携し、コスモス栽培や農地・施設の適正管理による景観形成、伝統文化の継承などにより、美しいふるさとをつくり、守っています。今後も殿ふるさと会の各団体の連携を深めていくとともに、コスモス栽培などの継続的な活動を目指していきます。

「玉露の里」

殿地区から200mほど先にある、お茶文化を体験できる施設です。道の駅「玉露の里」には玉露や地元素材を取り入れた料理が味わえる「味処　茶の花」と地域の特産物が並ぶ「物産館」からなる「茶の華亭」があり、朝比奈川を渡ると庭園のついた本格的茶室「瓢月亭」があります。「瓢月亭」では作法や正座が苦手な方でも気軽に玉露や抹茶を茶菓子とともに楽しめます。



静岡産酒米「誉富士」と純米酒「岡部丸」

殿では、地元の初亀醸造株式会社と提携し、「初亀純米酒岡部丸」の原料となる静岡産の酒造好適米「誉富士」を栽培しています。
「初亀純米酒岡部丸」は、「誉富士」を掛米、麹米ともに100%使用した純米酒で、香りは穏やか、やわらかい口あたりとほのかに米の旨みが感じられるのが特徴です。



朝比奈大龍勢

五穀豊穣の願いと感謝の念を込めて打ち上げられてきたのが、巨大ロケット花火の「朝比奈大龍勢（あさひなおおりゅうせい）」。日本三大龍勢のひとつで、県の無形民俗文化財にも指定されており、2年に一度、殿地区を含めて朝比奈地域で計13連の大龍勢が打上げられます。打ち上げ時の「口上」と小学生が行う「呼び出す口上」が、見どころ・聞きどころです。



アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
JR焼津駅ー（静鉄バス　焼津岡部線）ー藤枝市役所岡部支所バス停ー（藤枝市自主運行バス）ー殿バス停

■お車を御利用の場合
東名高速 焼津ICより約20分
新東名高速 藤枝岡部ICより約10分

邑の農地／田18ha、畑4ha
主な農産物／米、茶



㉙ 牧之原市

菅山原

すげやまはら

見渡す限りに広がる茶園 開拓の精神を受け継ぐ

牧之原台地の南部、菅山原は明治の時代に旧相良藩士により開拓されました。この景色を後世に引き継ぐための子供学習会の実施や、かんがい施設の保全や防火用水としての利用訓練を行っています。



未来に引き継ぐために

ふじのくに美農里プロジェクトに取り組み、農道・水路の草刈り・清掃や、農業用施設の診断・維持管理等の地域資源の保全活動を行っています。また、地域の環境をさらに良くするため、景観植物の植栽や農業用水の多面的利用・管理といった活動も実施しています。菅山小学校と連携し、お茶生産に欠かせない牧之原農業用水の大切さや農業施設の役割について理解を深めてもらうための、水源と施設を巡るツアーを実施しています。地域内の環境美化の意識が少しずつ高まり、今では多くの花壇の整備や管理も行っています。



ブランド茶「望」

牧之原地域で情熱とプライドをかけて栽培しているブランド茶「望（のぞみ）」は、摘採前に6日前後、茶園を遮光ネットで覆い、うま味と色が高まるように栽培したお茶です。JAハイナン独自の基準をクリアした味の品格と鮮緑色の色合いを重んじた格調高いお茶です。ここ菅山でも、栽培面積拡大に向けて、技術力向上に取り組んでいます。





武士に開拓された茶園

明治時代に開拓された牧之原台地の菅山原。現在では大井川からくみ上げた牧之原農業用水を使い、大切に育てられた美しい緑の大茶園が広がっています。のんびり歩いて散策しながら、茶畑越しに富士山や伊豆半島、海を望む場所を見つけることもできます。駐車場とトイレは、車で3分、徒歩10分の「油田の里公園」をご利用いただけます。



邑の語り部



菅山原27会 代表
高塚 敏秀さん

一見、何もない風景に思われるが、この景観を保つために畑を勝手につぶさないなど皆で大切に守っている。

茶どころ静岡の象徴的風景、みんなもっとお茶を飲んで、この風景がずっと守られるように応援してほしい。

アクセス方法

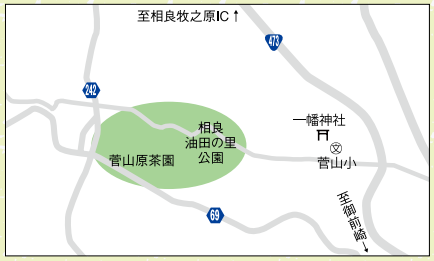
■公共交通機関を御利用の場合

JR金谷駅ー（自主運行バス相良行）ー西中バス停ー（徒歩10分）

■お車を御利用の場合

東名高速 相良牧之原ICより約15分
新東名高速 島田金谷ICより約40分

邑の農地／畑50ha
主な農産物／茶



一幡神社の御榊神事

一幡神社で行われている御榊神事は昭和61年に県無形民俗文化財に指定されている特殊神事で、農民が豊作を祈る祈願祭です。この神事は28名が永代制で鎌倉時代以前より連綿として数百年間代々伝承されているものです。2月8日には、神酒造り、御仮屋作りが、9日には餅つきが行われ、10日の12時すぎに一幡神社への奉納が行われます。祭典終了後、新年番の本名宅にて夜を徹して御榊様を作り、一年間奉祀します。



相良油田

相良油田は、明治5年に発見された太平洋岸唯一の石油坑です。現在では昭和25年に開坑した機械堀井戸(相良油田最後の石油坑)が1つ保存されています。周辺には「相良油田の里公園」が整備され、手堀井戸の小屋や相良油田に関する資料館が設けられています。利用時間:午前9時～午後4時　資料館の休館日:火曜日(祝日の場合は翌日が休館)、年末年始　駐車場70台



牧之原用水

牧之原の茶園は水源を持たない台地上にあるため、水には恵まれず、畑地かんがいは茶農家の切実な望みでした。このため、長島ダム(特定多目的ダム)から大井川の水を導水する畑地かんがい事業が実施されました。牧之原農業用水は、島田市外4市にわたる牧之原台地の茶園、砂丘地の普通畑など約5,000haに対し、貯水槽やスプリンクラーを用いた多目的かんがいという高度な水利用を行っています。



30 榛原郡吉田町

吉田たんぼ

よしだたんぼ

条里制遺跡の景観を水田の高度利用で次代に継承

奈良・平安時代に条里制が行われた吉田たんぼでは、裏作の冬レタスの栽培など水田の高度利用が進められています。一面に広がる農地は、季節によって様々な顔を見せてくれます。



条里制遺跡吉田たんぼ

吉田インターチェンジから吉田町役場方面へ車で10分ほど、小山城の南側に広々と開けた水田地帯「吉田たんぼ」があります。「吉田たんぼ」の歴史は古く、奈良・平安時代には条里田として利用されていたと考えられています。

現在も、一級河川大井川を水源とする「大井川用水」の恩恵を受け、夏から秋には稲作、冬にはレタス等の葉物の栽培と、豊かな農地となっています。

北側には「太平洋岸自転車道」があり、「吉田たんぼ」の脇を自転車で走り抜けることができ、夏には一面の緑の田面、秋には黄金の稲面の風が心地よく、冬にはビニールシートの白、レタスの緑、サニーレタスのあずき色と色とりどりのレタス畑を楽しめます。



未来の担い手

地元の小学校の生徒に、田植え体験や大井川用水などの農業水利施設の重要性を伝える出前講座を行っています。次世代を担う子供たちに地域の宝を伝えることで、歴史ある水田を守る未来の担い手を育てています。



レタス栽培に歴史あり

吉田地域では、昭和30年頃、県内でもいち早く冬のレタス栽培が始まりました。栽培開始当時、レタスはまだ日本人になじみがなく、なかなか売れませんでしたが、第2次世界大戦後にアメリカ人の目に留まり、駐留米軍の清浄指定産地として指定を受けることとなり、よく売れるようになりました。

昭和44年には、志太・榛原地域のレタスとして国の野菜指定産地認定を受け、レタスの産地として50年以上の歴史があります。

平成4年、吉田たんぼ営農組合を設立し、水稲の作業受託を進めることで歴史あるたんぼを守っています。

農業経営振興会では、吉田たんぼ産の米やレタス、地場産のシラスを使用した地元飯「レタス丼」を考案し、毎年11月3日開催の町産業イベント「小山城まつり」において来場者に振る舞われ、レシピの配付も行っています。生サラダだけではなく、炒めて、茹でて食べてもおいしいレタスをPRし、地場産品の更なる消費拡大を目指しています。



邑の語り部



吉田たんぼ営農組合 組合長
吉永 有司さん

吉田たんぼの豊富な日照量と温暖な気候が、おいしい米とレタスを作ります。

特にレタスは戦後から歴史もあり、生産者それぞれが工夫をしながら作っています。組合が作業受託や賃借を進めることで、歴史ある農地を守っています。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

JR静岡駅ー(静鉄バス　特急静岡相良線)ー吉田町役場バス停　JR藤枝駅ー(静鉄バス　藤枝相良線)ー吉田町役場バス停

■お車を御利用の場合

東名高速 吉田ICより約10分
新東名高速 島田金谷ICより約45分

邑の農地／田22ha
主な農産物／米、レタス



小山城まつり

毎年11月能満寺山公園(小山城駐車場)周辺で、「小山城まつり」が開催されます。吉田町の地場産品の販売や、フリーマーケット、特設ステージのイベントも多数行われます。吉田たんぼの特産品レタスを使った地元飯「レタス丼」にも注目です。
能満寺山公園:吉田町片岡2519-1



町文化財指定「条里制遺跡」

「吉田たんぼ」は湯日川と坂口谷川にはさまれた沖積地であり、大化の改新(645年)以来、条里田がありました。条里田は古代の田地の制度で、人々はここで稲作りをし、税を納めて生活していました。郷土の古代史を解く史跡として、昭和39年に町文化財指定を受けています。



50年の歴史が生むシャキシャキ食感「レタス」

吉田たんぼのレタス栽培は、50年以上の歴史があります。温暖な気候と豊富な日照量、そしてきれいな水で育つレタスは、新鮮で安心、シャキシャキとした食感が楽しめます。
シーズン11月～翌4月



㉛ 榛原郡川根本町

徳山

とくやま

鹿ん舞 ヒーヤイ 狂言 神楽 農山村文化を未来に継承

徳山浅間神社の奉納舞や川根茶の製法などの伝統文化を次世代に継承し、「ときどんの池」という新たな魅力を創造しています。住民自らがつくった「ときどんの池」は、四季の植物が色づき、夏にはホタルが乱舞、多くの人を楽しませる憩いの場となりました。



「ときどんの池」が象徴する地域力

徳山自然観察公園「ときどんの池」は、地域住民が自分たちで作り上げた地域の象徴ともいえる公園です。この場所は、かつてホタルが無数に飛び交う美しい水田でしたが、減反政策の影響で耕作がされなくなり、草が生い茂る湿地帯へと変わってしまいました。

これを、地域の憩いの公園として整備し、再びホタルの舞う景観を取り戻そうと、住民たちが立ち上がりました。

平成9年から始まったこの公園整備は4年をかけて進められ、現在の「ときどんの池」を作り上げました。平成20年からは、ふじのくに美農里プロジェクトを活用し、地域全体が一体となり、ホタルの保護などの環境保全活動を進めています。地域の美化活動には次世代の若者たちも参加し、中高一貫郷土愛活動として、地域内の中高生と草刈り等を実施しています。



甘さと渋みが調和した川根茶

川根本町は、大井川から立ちのぼる川霧や山霧が茶葉を日光からさえぎり、昼夜の温度差が大きく、良質なお茶が育つ理想的な環境となっています。さらに、継承されたすぐれた製法がおいしい川根茶を生み出します。澄んだ香りと美しい水色、甘さと渋みが調和した山間地茶特有の味わいが川根茶の特徴です。

徳山では、耕作放棄された茶園を品評会の実証圃場として活用することで、地域の住民の交流を図るとともに、すぐれた茶技術の伝承を目指しています。



蒸気機関車を彩る四季折々の景観

良質茶として有名な川根茶の生産地である徳山は、大井川の中上流地域にあります。地域の中心部を通る大井川鐵道はSL（蒸気機関車）が走り、山々と茶畑が織りなす四季折々の景観が楽しめます。

春には、川根高等学校と町営サッカー場の間に約150mにわたって植えられたしだれ桜が華やかに咲き、徳山のしだれ桜の並木道として広く知られています。桜の季節には県内外から多くの花見客が徳山を訪れます。

地域の憩いの場である「ときどんの池」は、耕作放棄地を解消して整備した自然観察公園で、遊歩道や東屋が整備され、公園脇には大井川鐵道が通り、地域の内外の方が遊びに来る観光スポットとなっています。

徳山地域の北側には徳山浅間神社があり、国指定重要無形民俗文化財「徳山の盆踊」や静岡県指定無形民俗文化財「徳山神楽」の奉納が有名です。社殿の真正面には樹齢600年の大杉が2本あり、鳥居杉（夫婦杉）と呼ばれ、静岡県指定天然記念物に指定されています。



邑の語り部



元徳山区長・ときどん池発起人
橋本 務さん

徳山区長を務めていた時代に、耕作放棄された水田を荒れたままにしておくのは寂しい、みんなが憩う場所を作りたい、昔のように子供たちが水辺で生き物たちと触れ合える場所にしたいという思いから、公園（「ときどん池」）整備を提唱し、地域のまとめ役として尽力した邑人です。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
大井川鉄道 駿河徳山駅

■お車を御利用の場合
東名高速 吉田ICより約85分
新東名高速 島田金谷ICより約60分

邑の農地／畑57ha
主な農産物／茶



国指定重要無形民俗文化財（芸能）「徳山の盆踊」



徳山の浅間神社では、毎年8月15日の夜、徳山の盆踊が行われます。この盆踊は、鹿の面を付けた少年たちが躍動的に踊る「鹿ん舞」、小唄にあわせ少女たちが踊る優美な「ヒーヤイ」、成人男子による能狂言風・地狂言風の「狂言」の3部構成になっています。
徳山浅間神社：川根本町徳山2893

農家自慢の川根茶を味わう「川根茶縁喫茶」



川根本町では、訪れたみなさまにおいしい「川根茶」を飲んでいただきたいと、自園自製で日々上質なお茶をつくることに情熱を注ぐ農家が、丹精込めて作ったお茶を無料で振る舞う「川根茶縁喫茶」をオープンしています。お茶畑の景観のなか、お茶談義に花を咲かせながら、農家自慢の川根茶とお茶請けを楽しむことができます。詳しい情報は川根本町ホームページをご覧ください。
http://www.town.kawanehon.shizuoka.jp/default.asp

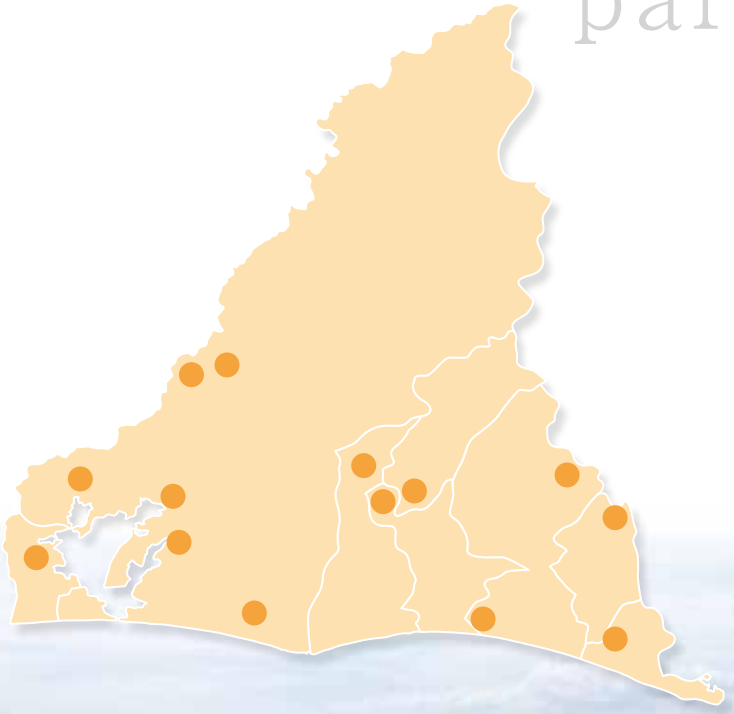
川根茶の和菓子「銘茶羊羹」

川根茶の風味と羊羹の甘みが絶妙な地元菓子店光林堂の茶羊羹「銘茶羊羹」、銘茶処ならではの贅沢な味わいです。厳選した角寒天にこだわりの井戸水、最高級の川根茶を使用しています。その他にも茶餡を使用した「川根路最中」などがあります。
光林堂徳山店：川根本町徳山816-7
☎0547-57-2606



Western part

西部地域





閑話・その3

ふじのくに「食の都」のとっておき「しずおか食セレクション」

「食材の王国」静岡県の多彩で高品質な農林水産物の中から、全国や海外に誇りうる価値や特長を備えた商品を、県独自の認定基準に基づいて「しずおか食セレクション」として認定しています。

認定した商品は、食の都しずおかを代表するまさに“とっておき”の逸品です。

ふじのくに美しく品格のある邑にある「しずおか食セレクション」

- 野菜
  - 三島馬鈴薯　わさび　三方原馬鈴薯
  - クラウンメロン　アローマメロン
- 果樹
  - するがの柿　はるみ（柑橘）
  - スルガエレガント（柑橘）
  - JA伊豆太陽ニューサマーオレンジ（柑橘）
  - 寿太郎プレミアムゴールド（柑橘）
  - ミカエース（温州みかん）
  - 本貯蔵青島誉れ（温州みかん）
- 米
  - 富士山からのおくりもの
- 畜産物
  - オラッチェ低温殺菌牛乳
- 茶
  - 静岡牧之原茶「望」　御前崎つゆひかり

しずおか食セレクション認定のポイント
・セールスポイント　・流通・販売戦略 ・安全　・品質　・評価







しずおか食セレクション　検索

http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-110/shizuoka_syoku_selection/

32 磐田市

敷地村

しきじむら

四季折々の自然が織り成す車窓からの原風景

田んぼ、柿園、森が調和する豊かな里山
天竜浜名湖線から望む四季折々の景観は、様々な表情を見せてくれます。



子供達の教育と地域住民との協働

NPO法人「しきじ土曜倶楽部」では、土曜の午前中、みどりに囲まれた自然豊かな学校で、楽しく遊びながら、歌やゲーム、工作、また体操や踊りの中から英語を学び、また、「自然観察会」や「お年寄りとの交流会」も計画するなど子供達への総合学習活動を実施しています。

また、㈱ポッカとの提携による「一社一村しずおか運動」や「ふじのくに美農里プロジェクト」により、草刈りや遊休農地への花の植栽など里山の環境保全活動に取り組むなど、様々な協働活動が盛んに行われています。



こだわりの米と新鮮野菜がどっさり

地域の特産物のアンテナショップ「白壁館」では、新鮮野菜、手作り加工品、特産の柿、メロン（フランス娘）など地場産品の販売や、すし酢として評価の高い敷地米の「卵かけご飯」等の食事の提供をしています。

また、遠州地方に古くから伝わる念仏踊り「遠州大念仏蝉しぐれの盆」、獅子ヶ鼻トレッキング等の各種イベントの開催により、多くの集客があり、賑わっています。

白壁館　磐田市敷地456-1
☎0539-62-5461





ほのぼの農村の原風景

磐田市敷地地区は、磐田市最北端の位置にあり、戸数は約340戸の小さな地区です。中央には敷地川が流れ、谷底平野には水田や集落が形成され農村の原風景を形成していています。

敷地川沿いの桜並木や四季折々の自然や眺望、ハイキングなどが楽しめる獅子ヶ鼻公園もあり、農村資源を活用した都市との交流が活発な地域です。





邑の語り部



磐田市自治会連合会
豊岡支部東地区協議会　会長
乗松 洋一さん

東地区協議会では、ワークショップによる地域資源を掘り起こし、「敷地村エコミュージアム構想」策定をはじめとした地域づくりに取り組んでいます。都市と農村の交流は、自治会への新しい風と活力を供給し、元気を取り戻してくれます。敷地川沿いには彼岸花が群生していますが、「100万本の彼岸花を育てて地域を飾ろう」と、周辺自治会や各種団体が彼岸花の球根30000球を植栽しました。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
天竜浜名湖鉄道 敷地駅

■お車を御利用の場合
東名高速 磐田ICより約20分
新東名高速 森掛川ICより約20分

邑の農地／田51ha、畑102ha
主な農産物／米、柿



みんなで創ろう! 桜回廊

平成24年4月15日（日）に、獅子ヶ鼻トレッキングコースオープン記念「里山ウォーク『春』山笑う編」が開催されました。300名余の皆さんが参加され、桜咲く里山を楽しみながらウォーキングしました。あわせて80本余の「桜の植樹」も行いました。



遠州大念仏蝉しぐれの盆（農村の文化と歴史を辿る）

「遠州大念仏」は戦国時代、遠州三方ヶ原合戦に於ける徳川・武田両軍の戦死者を弔う為の念仏踊りに由来しています。昔からこの地域の初盆の家では夕方からかがり火を赤々と焚き、遠州大念仏踊りや子供念仏を庭先にお迎えをし、霊を供養します。梵鐘・笛・太鼓のリズムが夕闇にせまる山里に木霊し哀愁漂う真夏の夜が始まると、その荘厳な雰囲気に思わず鳥肌が立ちます。



「しきじの次郎柿」「枯露柿（ころがき）」

「しきじの次郎柿」は、上品な甘さと果肉のやわらかさが自慢の逸品です。また、敷地地区は、山から吹く冷たい空気により枯露柿（干し柿）づくりが盛んで、柿本来の甘みを凝縮した旨さを引き出しています。（敷地地区では、干し柿を枯露柿と呼んでいます）



㉝ 掛川市

茶文字の里 東山

ちゃもじのさとひがしやま

「農業生産性」と「生物多様性」の共存

私たちの地域では、昔からススキや笹を刈り取り、茶の木の根元や間に敷いていました。刈草はよい肥料となり、おいしい茶が育つことが自慢です。この伝統農法が、豊かな里山の自然環境も守っているのです。



地域のランドマーク「茶」文字



「茶の字」は、昭和6年に先人が計画したもので、松ノ木を植栽して文字を形作りました。昭和60年に松くい虫により枯れてしまったので、ヒノキに植え替えられ、現在に至っています。

「茶」文字は、おおよそ縦横130mの大きさを誇り、美しく個性的な景観を創出しています。また、茶文字の周辺は、茶草場として管理され、茶文字とともに今日まで守られています。

新幹線の車窓や富士山静岡空港からもはっきりと眺望することができ、地域のシンボルとなっています。

至高の逸品「生粋東山茶」



東山は、標高が高く適度な温度差があり、お茶にとって最高の生育環境にあります。

その東山茶を作っているのはわずか90軒の農家だけ、伝統を継承しながら、さらに品質を高めるため切磋琢磨が続きます。

生粋東山茶のブランドは土地とそれを生かす人でなくては作れないのです。

伝統的農法で生産された「東山茶」は、農林水産大臣賞を幾度となく受賞し、その高い品質は全国の茶産地からも認められています。

伝統の茶草場農法 茶畑が環境を保護



掛川市東山では、伝統農法である茶草場農法がいまもなお行われており、高品質な茶が生産されています。

茶草場には、ススキや笹等の山の草が繁茂します。山の草を冬に刈り取って、茶園の畝間に敷くのは、乾燥や雑草を防ぎ、肥料にもなるという農法です。

茶草場で、毎年草を刈り取るというお茶農家の営みが結果として、里山を保全し、多くの生態系が育まれてきました。

絶滅危惧種の「カケガワフキバッタ」などの珍しい昆虫や「カワラナデシコ」「キキョウ」「ササユリ」等の希少種が生育しており、里山の良好な環境が保たれています。



邑の語り部



東山区長
杉山 光夫さん

日頃やっていることで東山の名が売れれば今後も頑張れる。「お茶イコール東山」という宣伝の意味も大きい。

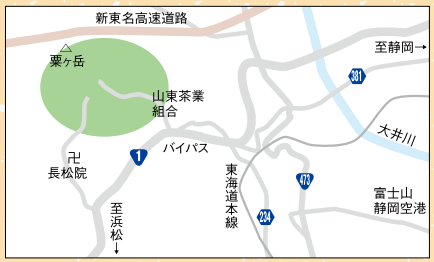
農家は今まで他人の力を借りてやってきたが、これからは東山茶のブランド化のため、自己PRが必要と意気揚々。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
JR掛川駅ー(掛川バス 東山線)ー東山バス停

■お車を御利用の場合
東名高速 掛川IC 菊川ICより約20分
新東名高速 島田金谷ICより約15分

邑の農地／田25ha、畑143ha
主な農産物／茶



粟ヶ岳とハイキングコース

粟ヶ岳は、明応年間(西暦1492～1501)に、山頂の井戸から、潮の干満によって高く湧き出た様が、龍が立ち上る白雲のように見えたので「泡ガ巌」と呼ぶようになったと言われています。

ハイキングコースとして人気があり、明るく開けた山は女性にも安心感があります。



茶文字まんじゅう、東山「いっぷく処」

東山いっぷく処では、東山のシンボルである「茶」文字を用いた「茶文字まんじゅう」や、昔の在来茶を復刻させた深蒸し茶も販売しています。



「にごり」「旨み」「苦み」すべてはこの一杯に

東山のお茶は、普通煎茶よりも蒸し時間を2～3倍長くし、じっくりと蒸した「深蒸し茶」です。高温・短時間でさらっと淹れても、ぬるめのお湯でじっくり淹れてもおいしくいただけます。



㉞ 袋井市

源氏とひまわりの里

げんじとひまわりのさと

源朝長公ゆかりの地から多彩な農産物をお届けします

鎌倉幕府を開いた源頼朝公の兄、源朝長公ゆかりの地「友永」。温室メロン、お茶、水稲が盛んで農地の高度利用化を実現。麦の収穫後の種まきするひまわり畑は、県下一の呼び声も高い。



お祭りをとおして地域の良さを伝承

源朝長公は源頼朝、義経の義母兄で平治の乱で平清盛に敗れ東国へ落ちる途中で現在の岐阜県大垣市で亡くなったと伝えられています。朝長の亡骸は、丁重に埋葬されましたが、平氏により墓は暴かれ、首のみ京都の六条河原にさらされました。しかし、朝長の守役であった大谷忠太が奪い返し、故郷のこの地に埋葬したといわれています。忠太の館のあったところは、「殿ケ谷」と呼ばれていましたが、その後「朝長」という地名になり、現在「友永」となったということです。

毎年8月15日の夜には、朝長公を偲ぶお祭り「御礼祭」（市指定無形民俗文化財）が行われます。お祭りでは、住民が提灯を片手に昔の「子守り唄」を歌いながら無病息災を祈願して練り歩きます。

また、平成14年度から始まった「源氏の里ひまわり祭り」は、地域のお祭りとして定着し、市内外から多くの人々が訪れています。



新東名で農産物を販売

平成24年念願の新東名が開通し、地区に近い遠州森町ＰＡで農産物を出展。このＰＡにはスマートインターも併設される予定（平成26年3月）で、この地域へのアクセスが今まで以上によくなり、訪れる人が増え、地域経済が活性化されることが期待されます。



農業体験

夢の里三川グリーンツーリズムで県内外から参加者が民泊し、四季を通じて農業体験を行っています。

お問合せは、（袋井市農政課☎0538-44-3167）まで。

多彩な農産物が織りなす農村景観

袋井市の北部に位置し、温室メロン栽培、お茶、水稲等の多彩な農産物を生産しています。

袋井ＩＣにも近く、流通に適した地域です。減反政策によりコメの生産調整が行われていましたが、小麦や大豆、加工用米等の転作作物の導入により、農地の高度利用化を進めています。

基盤整備された農地での生産活動から創られる多彩な農作物が織りなす農村景観が魅力です。



邑の語り部



源氏とひまわりの里 代表
袴田 政義さん

古くから地域に伝わる文化と新しい文化や農業技術の融合により、地域の活性化を図っています。

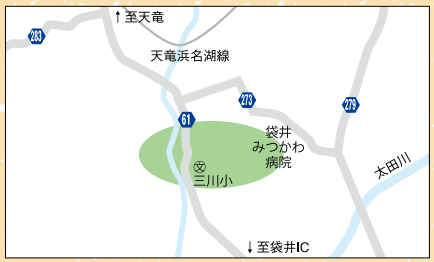
農家の枠を超えて地域全体が一丸となり、邑の良さを再発見し、守っていく活動を行っています。また、農業生産では新しい技術も積極的に取り入れ、次世代に残していける農業の実現を図っています。是非一度いらしてみてはいかがでしょうか。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
JR袋井駅ータクシー20分

■お車を御利用の場合
東名高速 袋井ICより約10分
新東名高速 森掛川ICより約20分

邑の農地／田50ha、畑8ha
主な農産物／米、小麦、大豆、メロン、茶



源氏の里ひまわり祭り

平成14年から始まったひまわり祭りでは、ひまわり油を利用した焼きそば、農産物の販売、メロンの試食、餅つき、ミニコンサート等が行われます。



源朝長公のお墓

松尾芭蕉の句にも詠まれ、能の演目にもなっている源朝長公のお墓があり、毎年8月には、朝長公を偲ぶお祭り「御礼祭」が行われます。



温室メロン

ガラス温室では、主に、温室メロンの栽培が行われています。一つの木に1つの実を実らせ丹精込めて育てるメロンは、地域の特産品の一つとなっています。



㉟ 掛川市・袋井市・磐田市

とうもんの里

とうもんのさと

抜けるような青空と田面（とうめん）の風 人と自然が創る食文化

稲の葉が風に波打つ様を、この地方では「とうもんの風」と呼ぶ。とうもんの自然・文化を育む多彩な農業と来訪者と地域住民との〝ふれあい〟を私たちは創造しています。



地域文化を発信・継承

とうもんの自然、文化を育む多彩な農業生産活動と、来訪者と地域住民との〝ふれあい〟を創造するとうもんの里では、地域の誇りである自然、食、暮らしを尊重し、年間約100回の体験講座や刊行誌の発行などにより地域文化を発信・継承しています。

平成20年度からは、田んぼの生き物調査を継続し、子供たちが自然環境について経年学習する機会を設けたり、江戸時代に造られた農業用水路にまつわる話をミュージカル「十内坏物語」として伝えています。



地産地消の取り組み

とうもんの里では、「朝採り市」を開設し、農家の特権である取れたてのおいしい野菜を、多くの人々に食べていただけるようにしました。また、地域のおいしい農産物を子供たちにも食べてもらおうと、学校給食センターへも計画的に食材を提供しています。

平成21年度からは、一社一村静岡運動により漬物会社と提携して、子メロン漬けを開発し販売しています。



とうもんの里イベントスケジュール

とうもんの里では、農業体験をはじめいろいろな講座を開いています。詳しい情報やお申し込みはホームページからご覧ください。

http://toumon-s.jp/

県下最大の穀倉地帯

掛川市・袋井市・磐田市にまたがる平野部では、広大な水田が広がり、古くから稲作が行われ、稲が風に気持ち良く揺れる田んぼを人々は親しみを込めて、とうもん（稲面、田面）と呼ぶようになりました。しかし、かつては湿田地域であり、冬には遠州の空っ風と呼ばれる北西からの強風に悩まされてきた地域でした。この地域を人々は何年もかけて命がけで改良し、守ってきましたが、近代化の中で少しずつその知恵が失われようとしています。小高い丘陵地では茶畑が広がり、近くには遠州灘の砂浜もあり、イチゴやメロンなどの栽培も盛んで、遠州南部地域一帯の美しい景観の中で農業が営まれています。



邑の語り部



とうもんの会 理事長
名倉 光子さん（談）

とうもんは後世に残したい静岡県の宝物だと思います。景観はもちろん、そこに暮らす人々のつながりやその地域らしさというものが、最近忘れ去られようとしているのではないでしょうか。とうもんに来て人の暖かさ、農業のすばらしさ、心の安らぎを体験してみてみませんか。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

JR袋井駅ー（秋葉バス　秋葉中遠線）ー石津バス停

■お車を御利用の場合

東名高速 掛川IC 袋井ICより約30分
新東名高速 森掛川ICより約40分

邑の農地／田1,866ha、畑1,215ha
主な農産物／米、茶、メロン、サトウキビ



国指定文化財「横須賀城址」

横須賀城址は戦国時代末期、武田と徳川が激しく衝突する勢力争いの舞台となったことで有名です。天正9年に徳川が武田を下し、その後この城は明治維新で廃城となるまで約300年間、20代もの城主を数えるほど繁栄しました。



よこすかしろ

さとうきびは、江戸時代に横須賀城主が産業を興そうと考え、土佐から栽培・製糖の技と種を家臣に持ち帰らせたのが始まりです。よこすかしろ（砂糖・糖蜜）として販売されています。



温室メロン

ガラス温室では主にマスクメロンの栽培が行われています。「静岡温室メロン」としてブランドが確立されたメロンは、一つの株に一つの果実が愛情いっぱいに育てられ、地域の特産品の一つとなっています。



36 御前崎市

カカシ祭りの里 新野

かかしまつりのさとにいの

稲面が広がる平野から、丹精された茶園にそよ風が吹きわたる。秋にはコスモスや彼岸花が咲き誇り、ユニークな手作りカカシたちもお出迎え。古道、塩の道、多くの歴史と文化が行き交った農村。歴史や文化と自然を大切に思う人たちが守っている田園の風景。



水田から茶園に連なる 緑の丘陵

季節の野菜が育てられ、春には桜、夏にはホタルが舞い、秋には彼岸花やコスモスが彩を添え、四季折々の農村の風情を醸し出しています。

四季折々の農村風景

カカシ祭りの里新野は、広大な牧之原台地の南斜面にある温暖な地域で、御前崎市の特産であるお茶畑と田んぼが連なる緩やかな丘陵に、緑の農村空間が広がっています。



新野の自然と野鳥

新野は広大な地域ではありませんが、田んぼや茶畑、川やため池、鎮守の杜や森林など、変化のある環境がいっぱいです。このため、野鳥にとってはそれぞれ異なった生息環境がある大切な場所。新野の自然は、野鳥を守り、育てているのです。（「新野未来塾」ホームページより）



地域が誇る茶「御前崎つゆひかり」

邑の経済を担う茶園は、基盤整備やかんがい施設が整っており、温暖な気候を活用した県内で一番早く摘採される品種「つゆひかり」への改植が進んでいます。静岡県内で栽培されるお茶の多くは、「やぶきた」という品種ですが、御前崎市では他産地に先駆けて新品種「つゆひかり」の生産、販売を行ってきました。御前崎のお茶「御前崎つゆひかり」は食材王国静岡県の認定ブランド「しずおか食セレクション」にも認定されています。

平野部には水田地帯が広がり、県の奨励品種であるコシヒカリが大規模農家を中心に栽培されています。また、20年ほど前から水稲の二毛作としてレタス栽培が導入され、現在は市内有数のレタス産地となっています。



働き生活する「新野」の誇り

地域を守る活動は、かけがえのない歴史や文化、自然環境に誇りを持つ人たちが集まり、「新野未来塾」が中心となって進めています。

地域の宝左馬武神社は地域コミュニティーと切り離すことはできません。春のお花見の頃は、手もみ新茶を献上し地域と茶業の発展を祈り、実りの秋の祭典ではカカシ祭りコンテストと、遠方からも多くの人々で賑わいます。



邑の語り部



新野未来塾 会長
佐藤 陽一郎さん

地域固有の歴史や文化、自然環境を大切にした街づくりを考えている人が集まり、イベントの企画や実施、史跡の整備や保全を、公民館を中心に行っています。

カカシ祭りの実施、地域への誘導看板の設置、ハイキングマップによる地域案内など、肩に力を入れず、農村の暮らしに根付いたまちづくりを行っています。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

JR菊川駅ー（静鉄バス 御前崎線）ー中尾バス停（徒歩40分）

■お車を御利用の場合

東名高速 相良牧之原IC 菊川ICより約35分
新東名高速 島田金谷ICより約45分

邑の農地／水田115ha 畑181ha
主な農産物／米、茶



地域の新しい寄り合いどころ!「よってかまい」

「よってかまい」とは、遠州地方の方言で「寄っていこうよ」。NPOが運営するこのお店は、地域の高齢者や子供たちなどに、人と人とがふれあうコミュニケーションの場として、食料品や日用品、野菜や惣菜、駄菓子を売っている、人々が集う場所なのです。



しずおか食セレクション「御前崎つゆひかり」

静岡県生まれの「つゆひかり」は、御前崎の温暖な気候に適した早生品種です。お茶をいれたときの色が一般的な「やぶきた」比べて鮮やかな緑色を示し、やさしい渋みの中に旨味と甘味が引き立つ爽やかな味わいが特徴で、スイーツともよく合います。



ハイキングに最適! 史跡と農歳時記を巡るワンデイトリップ

新野は、古くは塩の道、塩買坂へ通じる要衝として、八幡平の城跡や多くの遺跡が点在。その他にも医者墓様など近世の伝承にまつわる史跡、軽便鉄道の軌道跡など、見どころ満載。地の神様、節分や田打講など、農村の暮らしと農歳時記に根付いた行事も残っており、多くの人がハイキングに訪れています。



37 菊川市

千框の棚田

せんがまちのたなだ



「せんがまち」を子どもたちに

「せんがまち」とは、「千枚の田んぼ」という意味です。この言葉のとおり、かつては斜面一面に広がっていた景観が、人々の力で少しずつ復元され、倉沢の地にたくさんの生きものと、子どもの笑顔が戻ってきました。

「私たちはこのせんがまちの景観に誇りを持って、これからも棚田を守っていきます。」

――人々の決意が胸に深く響きます。

取り戻される風景

菊川駅から北東へ約7㎞、牧之原台地の西斜面、田んぼが階段状に連なり、面積約10ha、最盛期にはその数3千枚以上、毎年5百俵余の米を生産されていました。1枚1枚の面積が小さく、昔、「1枚足らないと探したところ、蓑の下に隠れていた」という笑い話も伝わっています。

しかし、近年、農業をとりまく厳しさが続く中で、休耕田が増加し、棚田がもはや消滅の危機に陥っていました。

このような中、厳しい地形条件のもと、先人たちのたゆまぬ努力による開墾により、もたらされた豊かな実りと素晴らしい風景をもう一度取り戻そうと、人々はNPO法人を結成し、様々な人たちと手を取り合い、棚田の復元や保全、また、貴重な動植物の保護の活動を続けています。

現在復田できているのは、最盛期から比べてまだ10分の1程ですが、棚田の恵みを若い世代に受け継いで行くため、みんなでがんばっています。

復田された棚田を展望台から眺望すると、かつて、「メロンの皮のよう」と表現されたすばらしいロケーションが一望でき、人の営みの中に生きものたちの息吹が感じられます。



広がる協働の力

棚田の復元と維持活動は、地域の人たちが中心となり、多くのボランティアの力も借りながら「NPO法人せんがまち棚田倶楽部」が進めています。

「棚田オーナー制度」によるオーナーをはじめ、教育・研究のフィールドとしても幼稚園・保育園児から大学院生まで活用しており、大人から子供まで賑わいを見せています。

「一社一村しずおか運動」のパートナー企業も参加して、重機作業やホームページ、ブログによる情報発信も行っています。



棚田の里のお茶

「千框（せんがまち）の棚田」がある菊川市倉沢はお茶どころでもあります。地域の人たちの手で丹精込められたお茶は、棚田の里「せんがまち」の深蒸し茶をはじめ、紅茶や水出し茶など、ラインナップも豊富です。

棚田米も好評で、加工食品としても棚田米を使った五平餅や抹茶入りきな粉餅、また、静岡大学棚田研究会による古代米を使ったクッキーや蒸しパン、ドーナツの試作なども始まっています。



棚田オーナー募集！

「せんがまち棚田倶楽部」では、棚田オーナーを募集しています。農業体験の特典として、棚田米と新茶が贈呈されます。詳しい情報やお申し込みは「棚田行こうよ．net」のホームページをご覧ください。

http://www.tanada1504.net/

邑の語り部



NPO法人せんがまち棚田倶楽部 理事長 **山本 哲さん**

「棚田は我々の先祖が、汗と涙で、何代にもわたって守ってきた貴重な財産だと気づいた時には、すでに9割近くが葦原と化していました。先人たちの築いたこの美しい風景を残したい。」そんな思いから平成7年より棚田の復元と保全活動に取り組んできた山本さん。生きものがにぎわう美しい棚田を目指して活動を続けています。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

JR菊川駅ー（菊川市コミュニティーバス）ー上倉沢公会堂バス停

■お車を御利用の場合

東名高速 相良牧之原ICから約20分
菊川ICから約15分
新東名高速 島田金谷ICから約20分

邑の農地／水田3ha、畑7ha
主な農産物／米（棚田米、古代米）



先祖が残した宝物！ 昔の面影を保存

「せんがまち棚田倶楽部」では、日本の原風景棚田を守り、先人の苦労を肌で感じ、子ども達に伝えていこうと、「メロンの皮のよう」と表現された当時の写真を大切に保管しています。詳しくは「棚田行こうよ.net」のホームページをご覧ください。

http://www.tanada1504.net/



棚田であぜみちアート！ 初夏に出現する幻想空間

菊川市の写真愛好家たちにより、棚田のあぜ道にローソクを立て、水を張った田んぼに映りこむ灯りを楽しむイベント。日が落ちるごとに色合いが変わる美しい景色がとても幻想的です。お問合せは、菊川市観光協議会（☎0537-36-0201）まで。



生物多様性の宝庫！ 茶草場と棚田の生物多様性

棚田周辺の草地は、茶畑にススキやカヤを敷き込み良質なお茶をつくる伝統農法を支える「茶草場」と呼ばれ、そこには茶室に生けられる「茶花」の多くが見られます。棚田でも土壌を豊かにする「冬みず農法」の伝統があり、今では希少となった水生植物やカエル類でにぎわう生物多様性空間となっています。



38 周智郡森町

森町南部

もりまちなんぶ

肥沃なほ場 レタス スイートコーン農作業体験しながら邑づくり

太田川の豊かな流れにより形成された肥沃な大地の歴史は古く、弥生時代には河川周辺に邑々が造られました。そして今日まで人の営みは途切れず脈々と農業は受け継がれています。



若者の活躍

年間を通じて休むことなく農業生産活動が行われ、就農する若者が増加しています。

地域農業者が属するJA青年部の活動も一層活発化し、森町農業小学校と題して、親子の体験学習を平成12年より開設し、今ではすっかり定着しました。



森のスイートコーン

森町南部の平坦できれいに区画整理されたほ場は、機械化を可能にし、農業後継者にも恵まれています。

この環境下においてレタス、スイートコーン、水稲を効率よくローテーション化した水田3毛作農法が実現できました。これにより森町全体の農業生産額は約40億円を維持しており、森町経済の屋台骨を支えています。

スイートコーンは朝に収穫しそのまま直売している農家が多く、新鮮な甘みが消費者に受け入れられ土日には県内外から多くのお客様が直売所を訪れます。

平成24年開通した新東名高速道路「遠州森町PA」でも当地域の特産物を販売しています。





水田3倍活用農法

森町南部地域の水田地帯は昭和40年代より、かんがい用水や区画整理などの基盤整備が進められてきました。

生産性の高い肥沃な農地が一面に広がり、冬季にビニールで覆われたレタス畑は夕日に照らされると銀色に輝き、冬の風物誌となっています。

昭和44年にレタスの指定産地となり以降、スイートコーンが導入され、水稲、レタス、スイートコーンの年3作「水田3倍活用農法」が確立し、四季折々の農村景観は躍動感にあふれています。



邑の語り部



森町農業委員会 会長
鈴木 晃さん

我が邑は太古より水稲栽培が営まれ、県内随一の穀倉地帯が広がるみのり豊かな農村です。将来を担う若い農業者も多く、邑全体が活力に満ち溢れております。

豊かな土壌で育んだ取れたての食材を是非ご賞味ください。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
天竜浜名湖鉄道 円田駅

■お車を御利用の場合
東名高速 袋井ICより約15分
磐田ICより約20分
新東名高速 森掛川ICより約5分

邑の農地／田407ha、畑8ha
主な農産物／米、レタス、トウモロコシ、柿



特産物の直売

6月に入り初夏を迎えると、当地域の街道沿いに地元の農産物の直売所が立ち並び、初夏にはスイートコーン、冬はレタス、柿が販売されます。とれたて新鮮な特産物を購入できると評判になり、早朝から購買客の行列ができるほどです。



治郎柿

甘柿の代表種「治郎柿」は、遠州森町原産で、その誕生は、江戸末期に森町村五軒丁の百姓「治郎(松本)」が太田川の川原で柿の幼木を見つけ、これを持ち帰り自宅に植えたのが始まりです。原木が今も現存し、県の天然記念物に指定されています。まろやかな風味で「甘柿の王様」として知られており、毎年秋に皇室に献上している逸品です。



冬レタス

シャキシャキとした食感で、サラダの必須アイテム。ミネラル、食物繊維が多く含まれ、栄養バランスの良い野菜です。

冬期レタスは冬暖かな地域でしかできないため、静岡は冬レタスの一大産地になっています。その中で森町のレタスは品質で全国1位の折り紙つきです。



㊴ 浜松市南区

地域いきいき共生！恩地町環境みどりの会

ちいきいきいきさきょうせいおんぢちょうかんきょうみどりのかい

家が建ち、耕作放棄地が増え、排水路、道路の法面は草が茂り、地域の風景は荒れ、さびしい気持ちでした。昔から住んでいた住民を中心に何とかしたい、子供に農業、地域環境の大切さを伝えたい、住民に生きがいを与えたいと、「地域いきいき共生」を目指し、毎年新しいことに挑戦しています。



都市農業としての新たな活用

混住地域で農地の価値を再確認！

浜松市南区恩地町周辺は市街地に隣接する、住宅、農地、工場などが混住する平坦な地域です。農村が市街化するにつれて年々耕作放棄地が増えていきました。

地域の環境・景観の悪化に危機感を抱いた地元住民が立ち上がり、平成19年、「農地・水・環境向上対策事業」に参加するため「恩地町環境みどり会」（以後、みどり会）を発足。「安全・安心・温か恩地」を目標に耕作放棄地を解消して、菜の花・コスモス・向日葵などの花の植栽で地域の環境を向上させ、さらにサツマイモやジャガイモの栽培を通して子供達への食育も実現、結果、都市化の中にあっても地域住民と農地の価値を十二分に共有できるまでに発展してきました。



地域みんなが活き、生き！

恩地町の活動は、遊休農地の解消、農業用施設の点検・管理・除草、芳川堤防の除草、幼児・小学生対象の農業体験学習、地区のいたる所への花の植栽、月1回の朝市、など多岐に亘ります。

活動計画はみどり会が年度計画を立て、様々な団体と協力しながら活動を進めています。

平成19年から始まった活動は徐々に軌道に乗り、荒廃農地もなくなり、地域は見違えるほどに景観も環境も良くなりました。それと同時に参加者も増え、活動の幅も広がっていきました。



平成23年度には静岡県コミュニティづくり推進協議会が行う「コミュニティ活動賞」に応募し、優良賞を受賞するなど、外からの評価も活動の励みにしています。農地を活かして環境がよくなっていくことでそこに生きる住民が自分たちの地域に愛着や誇りを持ち、世代が変わっても活動は変わらず続いていく、そんな邑を目指しています。

農業の後継者不足の解消に向けて

農業の後継者不足は恩地町でも例外ではありません。後継者がいないために放棄されてしまった農地が増える中、みどり会が農地として耕作できる状態に戻した後、農業参入した地元の企業「アイファーム」が参入し、ブロッコリー、カボチャの栽培をおこなっています。少しずつ面積を拡大し、南区を中心に17haにおよぶ耕作放棄地解消に貢献しています。



邑の語り部



恩地町環境みどり会 代表
見野 閏一郎さん

耕作放棄地が増え、地域の景観・環境が悪くなっていくのが許せませんでした。チャレンジ精神旺盛で、新しいことにどんどん挑戦します。次々に課題を見つけ、様々な組織や人に働きかけ解決に向かって皆を引っ張ります。恩地町を誰よりも愛しています。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
JR浜松駅ー（遠鉄バス 遠州浜蜆塚線）
ー芳川西バス停（徒歩5分）

■お車を御利用の場合
東名高速 浜松ICより約20分
新東名高速 浜松浜北ICより約15分

邑の農地／田7ha、畑10ha
主な農産物／米、ブロッコリー、花卉（菊）



食育にも貢献!さつまいも作り

遊休農地を借りて、幼稚園児や小学生を対象にじゃが芋やさつま芋の栽培・収穫体験を行っています。子供達は苗植えから雑草の刈り取り、つる上げ、収穫まで一連で野菜を育てる大変さや収穫の喜びを体験します。自分たちが育てたお芋の味は格別!子供たちはみどり会にお礼の手紙を届けます。



大人気!「みどり朝市」

畑の恵みを地域みんなで共有するため、月に一回「みどり朝市」を開催しています。市に農産物直売所登録し、「地産池消、新鮮・やすい・うれしい」をモットーに出店者15名程、利用者80名前後が毎月楽しく交流しています。
開始時間前から、農産物や加工品を買い求める人たちが集まります。



「菊花」

浜松市は全国でも屈指の菊の産地です。温暖な気候を利用し、市内全域で栽培されています。当地区でも農作物は米や野菜とともに菊花が生産されています。菊生産の歴史は大正の初期に芳川地区で夏菊が栽培されたことから始まりました。はままつフラワーパークでは毎年11月に「浜松菊花大会」が開催されています。



㊵ 浜松市西区

和地ふるさと会

わじふるさとかい

地域と企業の力で農村の風景が復活！

市街化とともに、年々耕作放棄地が増えていました。「昔のきれいな風景を戻したい」と地域住民が立ち上がり、企業の協力も得られ、昔の風景、ホタルやトンボも戻ってきました。次世代に残すために子供達への教育にも力を入れています。



地域の団結力！

和地地区は、かつては田畑が広がる農村でしたが、市街化が進むとともに年々耕作放棄地が増える状況にありました。荒れる農地に危機感を抱いた地域住民が立ち上がり、平成19年に農業者・自治会・花の会（「フラワータウン和地」）により協議会が設立され、農地・水・環境保全向上対策事業により、耕作放棄地解消の活動が始まりました。耕作放棄地は農地へ復元されるだけではなく、ビオトープや花畑など多様な形に姿を変えていっています。その後、花木の植栽活動、道路側溝等の清掃活動、蛍の生態講習会や観察会、お祭り、幼稚園児への農業体験など活動の幅を広げ、都市住民の協力も得ながら、少しずつ昔の農村風景を取り戻しつつあります。協議会の活動に賛同し、新たに参加する地域住民も現れています。



平成23年からは、協議会と地元企業の㈱知久との「一社一村しずおか運動」への取組も開始され、和地ふるさと会の新たな展開が期待されます。



農業用水の活躍

水に恵まれなかった三方原台地では、昭和30～40年代に天竜川から取水する三方原用水が整備され、その農業用水を利用して農業が発展してきました。現在では馬鈴薯、キク、ガーベラ、トマト等の栽培が盛んです。和地地区も三方原台地の一部として、野菜・花キの重要な産地の一部を担っています。

和地ふるさと会では、用水路等の農業用施設も次世代に残していかなければならない和地地区の大切な財産として保全管理や長寿命化を行っています。

動植物の宝庫



浜松市西区和地町、湖東町、和光町、大山町にまたがる和地地区は、ホタル（源氏・平家・姫蛍）や野鳥（川蝉・青鷺・白鷺・雉等）の生息が多く見られます。赤蛙・イモリ・メダカなどの希少な生き物については保護活動も行われています。

また、和地地区環境保全対策協議会（以後、協議会）により、川津桜・寒緋桜や梅・紫陽花等の並木作り、道路沿い等への花壇の設置、遊休農地や河川堤防への花の植栽などの活動が継続され、「フラワータウン」＝花のあふれる風景がひろがっています。

協議会は多様な動植物を保護・育成し、地域の良好な景観を保全する活動をしています。



邑の語り部



和地地区環境保全対策協議会 会長
山下 邦彦さん

年々増える耕作放棄地、そこに生い茂る雑草…なんとかしたいとみんなに呼びかけ、強いリーダーシップで地域を引っ張ってきました。その思いに皆も賛同し団結力につながりました。これからも邑の人たちに支えていただき、新たな挑戦、新たな喜びを分かち合います。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

JR浜松駅ー（遠鉄バス　舘山寺線）ー赤坂～和地町バス停

■お車を御利用の場合

東名高速 浜松西ICより約5分
新東名高速 浜松浜北ICより約35分
浜松SAより約30分

邑の農地／田41ha、畑284ha
主な農産物／馬鈴薯、トマト、花卉（菊、ガーベラ）、梅



自然の再現！「アソガ谷地区のビオトープ」

不耕作で荒廃していた水田を利用して、かつての生き物を取り戻すため、ビオトープが作られ、トンボ池と呼ばれる池では、絶滅が危惧されているニホンアカガエルのたまごが確認されました。蛍の里づくりにも力を入れ、6月には源氏蛍の乱舞も見られ、生息数も増加しています。メダカやホタルの観察会も行われ、ビオトープを活用した希少生物の保護活動が続けられています。



㈱知久との「一社一村しずおか運動」

平成23年9月に協議会と地元で惣菜・食品の製造販売、農業事業を展開している（株）知久と「一社一村しずおか運動」の協定を結びました。地域での環境整備活動、遊休農地の解消活動、交流体験活動、蛍の里づくりの推進、地域農産物の活用に対する検討など一緒に様々な活動に取り組んでいます。さらに今後は地区に植栽した270本の梅を使って特産品の開発を検討します。



しずおか食セレクション「三方原馬鈴薯」

三方原台地の粘土質で酸性土壌のやせている赤土と豊富な日照量によって育った三方原馬鈴薯は、ホクホクの食感とジャガイモの旨み・甘みが特徴で、全国でその品質は高い評価を得ています。美しい肌の色艶も大きな特徴です。また、出荷時期である春から夏にかけては期間限定の「三方原ポテトチップス」も販売され、静岡の土産物として定着しつつあります。



㊶ 浜松市天竜区

夢未来くんま

ゆめみらいくんま

強い絆で結ばれた地域 定住者希望の方お待ちしています

かつて、宿場町として賑わった面影を残し、過疎化が進む我が故郷を、自分たちの手で再生したいという熱い思い、強い絆、大きな夢で結ばれた地域。そこには、いつまでもそこにいたくなる穏やかな空間に囲まれた世界があり、新たな挑戦を続ける人々が暮らしています。



邑づくりグループ

昭和51年に神沢生活改善グループの発足から、NPO法人「夢未来くんま」へと引継ぎグループの活動は、県内外で高く評価されています。昭和63年には、第28回農林水産祭「むらづくり」部門の農林水産大臣受賞同天皇杯を受賞し、平成23年には地域再生大賞、東海北陸ブロック賞を受賞しています。

独居高齢者への夕食宅配、棚田ウォーク事業、しずおか森の体験講座など、さまざまなイベントに子供から大人まで、地域のみんなが楽しんで取り組んでいます。

生き物調査体験



ホタルの幼虫を見つけちゃった

地元NPO法人「夢未来くんま」の活躍

道の駅「くんま水車の里」では地場産品の購入できるほか、食事処で田舎料理が味わえます。

農家民宿、各種交流イベント等を企画して、都市との交流拡大に取り組んでいます。

一人暮しの高齢者のために、食事等の出張サービスや1日をみんなで楽しく過ごす生きがいデイサービス「どっこいしょ」の運営などさまざまな支援活動により邑のモチベーションが向上しています。

小学生そば打ち体験



そばってこんなに伸びるんだー！

天竜美林と清流阿多古川に囲まれた棚田

天竜美林の名称で呼ばれ、良く手入れの行き届いた杉檜の人工林に囲まれ、清流阿多古川の源流にある地域です。ホタル、ギフチョウ、カタクリ、山シャクヤク、遠州細葉シャクナゲなどの貴重な自然が残され、地域で大切に保存されています。

地元組織「棚田保全倶楽部」の地道な活動で、美しく整備された棚田が景観を引き立てます。そこには美しい空間の中に人々の素朴な生活が溶け込んでいて、何とも言えない安らぎという膜で私たちを包み込んでくれます。



邑の語り部



特定非営利活動（NPO）法人「夢未来くんま」理事長

大石 顕さん

熊婦人会が「くんま生活とその文化」を発刊したことがきっかけとなり、我が故郷を再生したいと強く思いました。

アイデアと実行力で挑戦した取り組みは、評価をいただいています。これからは、定住者を積極的に受け入れます。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

遠州鉄道西鹿島線西鹿島駅ー（遠鉄バス　阿多古線）ーくんま水車の里バス停

■お車を御利用の場合

東名高速 浜松ICより約60分

新東名高速 浜松いなさICより約30分

邑の農地／田8ha、畑63ha

主な農産物／米、茶、山のふき



名物! くんま沢庵

現在商品として流通している大多数の沢庵漬けは、日干し大根の代わりに塩や糖液に漬けて水分を除いた塩押し大根や糖絞り大根を使用しています。ここくんまでは、大根を寒干ししてから容器に入れて米糠と塩で1～数か月漬ける伝統的な製法で手間暇かけて作りこんでいます。これにより大根本来の味が濃縮され、その食感は一度食べると忘れられません。



アルプホルンセミナー

地元音楽家がボランティアでアルトホルンの講習会を開き、多くの受講者が集まり、今では邑の名物企画となりました。

将来は全国発表会に出場できるようただ今猛練習中です。



道の駅「くんま水車の里」

お茶、椎茸、加工丸太、花木等の地場産品の販売やそばを中心としたお食事処「かあさんの店」が人気です。

8月には夏祭り、2月に邑の大イベントである大寒謝祭が開催され、お茶や五平餅等の地場産品の販売や食の文化の伝承普及としてそば打ち・餅つき体験等盛り上がっています。



㊷ 浜松市北区

銅鐸と水田のふるさと中川

どうたくとすいでんのふるさとなかがわ

弥生時代の銅鐸が出土する 由緒ある田園風景！

地域で協力しよく管理された田は、耕作放棄地が非常に少なく、貴重な水生動物も生息するきれいな水で育った美味しいお米は、「まいひめ」の名で販売されています。地域では、土地改良区、自治会、子供会が連携し、由緒ある田園風景を残そうと取り組んでいます。



水田を守る人々の活動



道路沿線の草刈とアジサイの手入れや、水田地帯を流れる用水路等の施設の維持管理や点検そして施設周辺の環境整備が、農業者だけでなく、中川小学校区内の自治会・子供会・土地改良区などの各団体の連携により行われています。富士常葉大学の学生たちも、細江地域特別栽培米研究会のメンバーとともに、地域内にビオトープを設置する活動に取り組んでいます。



環境を守る農業



中川地域で生産されるお米の中に、「細江まいひめ」と言うブランド米づくりが始まっています。細江地域特別栽培米研究会が有機肥料100%で農薬も県基準を5割以上削減した特別栽培米で、平成22年には、お米日本一コンテストinしずおか2010で入賞もしました。生き物に配慮した水管理なども行われており、このお米が人気を集めることで、水田の保全や、生態系の保全にもつながっていくことが期待されます。



水田が地域の生態系を保全





姫街道が2級河川都田川を渡る橋の東側に広がる水田地帯が中川地区です。

昭和21年耕地整理組合を設立して水田250haが整備されました。昭和26年には土地改良区を設立し、大雨により作物が水に浸かることでおきる被害を防ぐ湛水防除事業や水質保全対策事業などに取組みながら、水田を守ってきました。平成20年度からは、地元の小学校も参加した田んぼの生き物調査も行われ、メダカやコイなど多様な生き物の生息も確認されています。

邑の語り部



伊東 真英さん

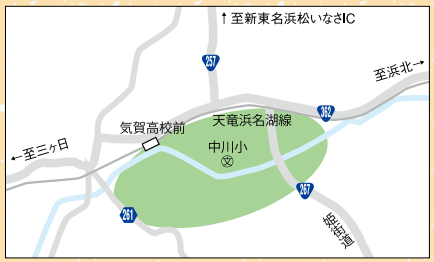
先代が、都田川の氾濫等の水害が頻繁に起こる地域で水稲栽培を行ってきました。戦後、都田川ダムの建設、湛水防除事業によるポンプ排水設備の建設で安定した水稲栽培が実現しています。この田園風景は、地域の誇り。地域住民と地域外の皆さんのご協力により、守り続けます。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
天竜浜名湖鉄道 気賀高校駅

■お車を御利用の場合
東名高速 浜松西ICより約20分
新東名高速 浜松浜北ICより約35分
浜松SAより約20分

邑の農地／田165ha、畑8ha
主な農産物／米、柑橘（温州みかん、ネーブル）



排水機場

大雨による水害は、お米を作るうえで大変な被害をもたらします。この被害から守るために作られた排水施設がこの地域には3箇所あり、地域の方々により守られています。



白玉星草

以前は各所で見られ、「ほっそー」と呼んで子供たちが指輪などにして遊んだ「白玉星草」。どうたく公園では、NPO法人ラブネーチャーズの皆さんが、近年生育条件にあう場所の減ってきたこの花の保全活動を行っています。9月には白玉星草の白いかわいい花を見ることができます。



銅鐸のふるさと

中川地域には、多くの銅鐸が出土しています。浜松市北区細江町気賀にある「浜松市姫街道と銅鐸の歴史民俗資料館」では、出土した銅鐸7点や地域の歴史にかかわる資料を見ることができます。



㊸ 浜松市北区

大好き！渋川

だいすきしぶかわ

自然の恵み 伝統文化を継承し 守る！

朝一番に外に出ると、澄んだ空気と気持ちよい自然風景が広がる。渋川に魅せられた人たちは、茶園、森林、寺野ひよんどり、渋川つつじ、ギフチョウ等の伝統文化や自然の恵みを守りながら暮らしています。
その気持ちが「大好き！渋川」です。



貴重な自然と伝統に触れあえる





正月に行われる国指定重要無形民俗文化財「寺野ひよんどり」。桜が咲くころには市指定天然記念物のギフチョウ。5月には傾斜地の茶園で萌黄色の新芽、続いて県指定天然記念物の渋川つつじが咲き、6月には蛍が舞い、秋には秋祭りと、四季を通じてみんなが継承し、守り続けている豊かな自然と伝統芸能にたくさんふれあうことができる渋川です。

寺野のひよんどり

数百年の伝統を誇る寺野のひよんどりは、毎年1月3日に寺野三日堂で、五穀豊穣などを祈願して舞が披露されます。お正月にいくのはちょっと難しいという方は、てんてんゴーしぶかわのそばにある親水公園でからくり人形によるひよんどりはいかがでしょうか。1日4回（10:30、12:30、15:00、17:30）見られます。



五平餅

「てんてんゴーしぶ川」では、五平餅を各地のイベントで販売しています。いろいろな地域で五平餅は作られていますが、それぞれに特色があり、てんてんゴーしぶかわでも味噌に工夫があります。食べ比べて秘密を探ってみてはいかがでしょうか。串も手作りです。



渋川つつじ

ここ渋川は、蛇紋岩という岩石がある地域のため、独特な植生が見られます。県指定天然記念物の渋川つつじもその一つで、樹高が5、6mにもなり、紅紫色の花が咲く3つ葉のつつじです。約4000本ものつつじが群生する渋川つつじ公園では、見ごろとなる毎年5月下旬から6月上旬にかけて渋川つつじまつりでが開催されます。



地域住民の生きがいと幸せづくり



国登録有形文化財の凱旋紀念門が残る渋川地区では、「特定非営利活動法人大好き渋川」が、渋川地区の自然や農林業を通して都市と農山村との交流、地域福祉、青少年の健全育成、環境の保全などの活動を推進し、地域住民の生きがいと、しあわせづくりに寄与することを目的に活動しています。
田舎暮らしに興味がある人を受け入れるための橋渡しを行い、渋川地域の魅力をアピールし、新しい人、新しい風を吹き込む挑戦をしています。

森の体験施設「てんてんゴーしぶ川」



「てんてんゴーしぶ川」の〝てんてん〟は、キャンプ場運営10周年記念と、将来20年に亘る発展を願たもので、渋川の方言で「揚げる」という意味や、「南天公園」造園の夢も込められたネーミング。〝ゴー〟は故郷の〝郷〟やGOの意味で、渋川の発展への願いが込められています。
「てんてんゴーしぶ川」では、キャンプやバンガローへの宿泊や、焼杉工芸品作りや薪作り、鮎のつかみ取りやしいたけ狩りなどの体験ができるほか、2千体のお雛様が並ぶてんてんの雛祭りが開催されています。



邑の語り部



理事長 **山本 培代**さん

特定非営利活動法人「大好き渋川」は、渋川地域住民の願いを込めて設立され、てんてんゴーしぶ川を中心とした、地域の住民サービスの拠点を目指し、都市住民と交流し渋川地域の良さを分かっていただき、定住していただくことを目的に活動しています。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
JR浜松駅ー（遠鉄バス　市役所渋川行）ー渋川バス停下

■お車を御利用の場合
東名高速 浜松西ICより約45分
　　三ヶ日ICより約50分
新東名高速 浜松いなさICより約15分

邑の農地／田44ha、畑84ha
主な農産物／茶、シイタケ



㊹ 浜松市北区

三ヶ日みかんの里

みっかびみかんのさと

よく管理され 浜名湖と調和したすばらしい景観の三ヶ日みかん園

三ヶ日みかんの里は浜名湖の北部に位置し、みかんが植えられている南向きの丘陵地斜面からは浜名湖を眺めることができます。里がある浜松市は日照時間が２３８６時間と全国１位（気象庁「全国気候表２０１１年」）であり、太陽の恵みと農家の愛情をいっぱいに受けて育ったみかんが基幹産業です。



みかんのある農村風景

三ヶ日でのみかんづくりの歴史は古く、江戸時代中期に三ヶ日町平山地区の山田弥衛門が紀州から持ち帰った「紀州みかん」の苗を一本植えたことが始まりとされています。先人たちのみかんづくりが継承され、現在は、温州みかんの品種の一つである青島みかんを中心とした全国有数のみかん産地となっています。



みかん畑は5月になると白いみかんの花が咲き観光客やハイカーらを美と香りで楽しませてくれ、晩秋から冬にかけては、みかんが黄色く実るとともに舌を楽しませてくれます。よく管理された丘陵地のみかん園は浜名湖とともに風光明媚な景観を作り出しています。



近年は新東名高速道路（連絡道）が開通し、地域住民が一丸となって三ヶ日みかんブランドの知名度向上に取り組んでいます。

邑の語り部



三ヶ日みかんの里 代表
山口 喜見さん

三ヶ日みかんのかわいいキャラクター「ミカちゃん」。みかんの効果で肌のキメ・ツヤもよくかわいいです。ミカン箱にはもちろん、三ヶ日みかんポテトチップス、三ヶ日みかんジュース、等の販促品に登場し、お店で待ってます。様々なＪＡのポータルサイトにミカちゃん豆知識というコーナーがあり、みかんに関する豆知識を教えてくれます。

みかんの里資料館“まなぼうかん”

みかんの里資料館（愛称:まなぼうかん）は平成11年3月に廃校となった三ヶ日町立西小学校大福寺分校を改装した施設です。建物内部の教室や黒板は当時のままで、教室内には懐かしい農機具や三ヶ日みかんの歴史、栽培方法が展示されており、ここに来れば、三ヶ日みかんの全てがわかるとともに、ノスタルジーな気分が味わえます。



冷凍みかん“氷美柑”

三ヶ日みかんを使った加工品で今一番の注目は氷美柑（こおりみかん）。青島みかんを特殊な技術で新鮮なまま冷凍したプレミアム冷凍みかんです。暑い夏にも冷え冷えの三ヶ日みかんを味わえます。お問合せは、ＪＡみっかび（☎053-525-1011）まで。



ミカンの王様「ミカエース」

ミカエースは三ヶ日みかんの全生産量のうち約5%にあたる最上級品のみかん。三ヶ日みかんは、光センサー選果機を通過し、サイズや糖度、形などの品質を厳しく選別されます。ミカエースは外観と糖度の両方に抜き出た特選品であり、まさにみかんの王様です。



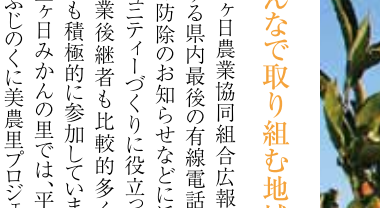
アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合
天竜浜名湖鉄道　三ヶ日駅・都筑駅

■お車を御利用の場合
東名高速 三ヶ日ICより約5分

邑の農地／畑1,743ha
主な農産物／柑橘（三ヶ日みかん）





みんなで取り組む地域づくり

三ヶ日農業協同組合広報センターが運営する県内最後の有線電話は、行事の広報や防除のお知らせなどに活用し、地域コミュニティーづくりに役立っています。若い農業後継者も比較的多く、自治会活動にも積極的に参加しています。

三ヶ日みかんの里では、平成19年度より「ふじのくに美農里プロジェクト」に5組織がとりくみ、それぞれがみかん畑に水を運ぶためのパイプラインなどの農業用施設等を適正管理するとともに、遊休農地へコスモスや菜の花など植栽し、地域の環境や景観を守ることにより快適な地域形成を行っています。

みかんで地域おこし

三ヶ日みかんのブランド化への取組みの一環として、三ヶ日みかんを活用したみかんジュースやみかんゼリーといった様々みかん製品の開発が行われています。ＪＡみっかび加工グループの「オレンジ母ちゃん」は、無添加をうたったミカンジャムやみかん果汁入り焼肉のたれや、みかんソースなどの加工品を年間４０００本販売しています。

また、毎年5月には「みかんの花咲く三ヶ日ウォーク」が行われ、秋には特産品の物産展やウォーキング大会、ステージイベントが行われる「みかんの里まつり」が開催されています。地域の農業・商業・観光が連携して市内外に向けて「みかんの里」のアピールに取り組んでいます。



ミカちゃん

㊺ 湖西市

新所水とみどりのプロジェクト

しんじょみずとみどりのぷろじぇくと

地域の環境や景観の保全 継承を目的とした「新所あじさいまつり」開催！

浜名湖の西側に面する新所地域では、昔からの農村環境や景観を守りつつ、地域を活性化させる方法を模索しています。

住民自らがあじさいを植栽し、植物や水生動物の観察会を行うなど、次世代の子供たちに継承されていく取組も活発に行っています。



浜名湖のさざ波に包まれて

湖西市新所は、浜名湖の西側に面した、浜名湖のさざ波の音が常に聞こえる地域です。浜名湖畔には女河浦海水浴場があり、毎年7～8月には海水浴客でにぎわいます。

湖畔から少し離れると、田んぼや畑の広がる農村風景が広がり、浜名湖からの風を感じながらゆったりとした時間を過ごすことができます。

水路や道路沿いには約2kmにわたってあじさいが植栽され、初夏には、紫や桃色の花が田植えの終わった水田を彩ります。



あじさいがつなぐ地域の力

地域の環境や景観を守り、地域活性化を目指したいと、平成19年度に賛同者が集まりふじのくに美農里プロジェクト活動組織「新所水とみどりのプロジェクト」を立ち上げ、勉強会や先進地の視察など積極的な活動を行っています。

平成20年度から住民参加で水路や道路沿いへのあじさいの植栽を行い、現在では新所地域の初夏の風物詩となりました。平成23年度からは、開花時期に合わせて「新所あじさいまつり」を開催しています。まつりでは、湖西フロンティア倶楽部の方々の協力のもと、植物や水生動物などの観察会、草笛体験、木を使った工作等を行い、子供達が地域の自然に触れられるようにしています。

また、新所地区の環境や景観を守り、次世代へ継承するため、小学校での出前授業などを行っています。



多彩な農産品

昭和41年から5年をかけたほ場整備により区画の整った農地が広がり、水稲のほか、畑ではキャベツなどの葉物野菜やスプレーぎくなどの花きの栽培が盛んな地域です。

温州みかんの栽培、施設園芸も行われており、四季を通して多彩な農産品を生産しています。



スプレーぎく

邑の語り部



新所水とみどりのプロジェクト 代表
菅沼 徳一さん

「農村環境を守り、子供たちに受け継ぎたい」農業に携わる人たちの共通の思いでした。平成19年度「新所水とみどりのプロジェクト」を立ち上げ、水路や農道の維持管理を行うと同時に、勉強会を開催し、環境に関心を持ってもらうための方法を検討した結果、あじさいを植えることになりました。平成23年から、新所あじさい祭りを開催できるまでになり、活気が出てきました。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

JR鷲津駅ー(遠鉄バス　浜名湖電装・入出行)ー新所バス停

■お車を御利用の場合

東名高速 三ヶ日ICより約25分

邑の農地／田13ha、畑38ha
主な農産物／米、キャベツ、花卉(スプレー菊)



浜名湖

浜名湖は、静岡県の西部に位置し、本湖と、猪鼻湖や庄内湖など周りに突き出たような支湖からなる手のひらのような形をしています。「湖」という名前ですが、南部の「今切口」で遠州灘に続いており、海水が入ってくるため、湖水に塩分を含む、潮の満ち引きがあるなど、海に近い性質を持っています。



女河八幡宮例大祭神事

毎年10月に開催される「女河八幡宮例大祭神事」は、県無形民俗文化財に指定されています。地元で「じゅうれんじ」、近畿地方では「とおつらのちご」と呼ばれている「十列児」や「流鏑馬(やぶさめ)」など、近畿地方からの影響が特徴であり、地域住民の楽しみになっています。



スプレーぎく

静岡県西部地域では、温暖な気候のもとスプレーぎく栽培が盛んです。スプレーぎくとは、上部で数多く分岐して花をつけるタイプの菊で、様々な形、色の多彩な品種があります。他の花とも組み合わせやすく、洋風、和風どちらのフラワーアレンジメントにも合います。



伊豆地域

下田市 加増野（かぞうの）

自然と歴史が織りなす里山の邑づくり

加増野は下田と松崎を結ぶ県道下田松崎線沿いの市境にある集落で、婆娑羅（ばさら）山麓にあり、水や緑そして歴史あるのどかな里山です。「加増野ポーレポーレ」を拠点にゆっくりのんびり邑づくりを行っていきます。



歴史を感じる緑豊かな里山

加増野は、アユが遡上する清流稲生沢川の水源や、下田を象徴する婆娑羅山などの緑豊かな自然に囲まれた、のどかな田園が広がる里山です。同地域の自然に魅せられた絵本作家で、鳥の巣研究第一人者の鈴木まもるさんは、加増野に移住し、この田舎暮らしについて著した作品も刊行しています。

また、地域の拠点となっている、一四二一年開創の婆娑羅山報本寺には樹齢数百年といわれる枝垂れ桜（下田市指定）や大木のオガタマノキ（静岡県指定）があり、共に天然記念物に指定されています。



邑の語り部



加増野ポーレポーレ従業員

現在、地場の農産物を加工し、なんとかブランド商品化したいと頑張っています。加増野ポーレポーレを活動拠点に地域の農業振興と都市住民との交流の場として、今後とも区民の団結力で美しい加増野の邑づくりに取り組んでいきたいと考えています。

集落ぐるみの邑づくり

稲生沢川の起点に位置する加増野富田原地区では、平成12年から「中山間地域等直接支払」制度を活用し、集落ぐるみで水田の多面的機能の維持に取組んでいます。

また、加増野小学校跡地にある農産物加工所「加増野ポーレポーレ」は、地域の拠り所として長年親しまれてきた旧加増野小学校の木造校舎を取り壊し、地域活性化の新たな拠点として建設されました。地元住民が運営に携わり、大豆・米・小麦粉等の地場産品を活用した加工販売のほか、そば処や食の体験プログラム等を展開しており、子供から大人までゆっくりのんびり楽しめる地域振興拠点です。



つるくび（鶴首）かぼちゃで地域おこし

加増野ポーレポーレでは、地域の耕作放棄地解消と6次産業化も視野に入れた商品開発を行っています。付近の遊休農地を実証実験ほ場とし、「つるくびかぼちゃ」の栽培と加工品の開発に取り組んでいます。

つるくびかぼちゃは日本南瓜の一種で、開花から収穫までの期間が長くつる丈が20ｍから30ｍに成長するほど樹勢が旺盛で、病害虫や雑草にも強いとされています。果肉は水分が多く、オレンジ色で甘みがあります。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

伊豆急行下田駅－（南伊豆東海バス　田子上行）－加増野バス停

■お車を御利用の場合

東名高速 沼津ICより　約130分

新東名高速 長泉沼津ICより 約140分

邑の農地／畑60ha

主な農産物／つるくびかぼちゃ



婆娑羅山の伝説

下田市と松崎町の市町境に位置する婆娑羅山（608m）は、弘法大師が婆娑羅三摩耶（さんまや）を修得した山をその名の由来とした説や、姥捨て山伝説が残る場所です。婆娑羅とはサンスクリット語（古代インドの言語）でダイヤモンド・金剛という意味があります。



ゆっくりのんびり「加増野ポーレポーレ」

ポーレポーレとは、スワヒリ語（東アフリカの言語）で「ゆっくりのんびり」という意味です。水源のおいしい水でねった手打ちそばを、伊豆産鰹節でダシをとったそばつゆで味わうことができます。お問い合せは、加増野ポーレポーレ（☎0558-28-0002）まで。



報本寺山隋権現例祭「幡廻し」

毎年8月11日に開催される「幡廻し」は400年以上も続く歴史ある例祭です。元々は領主の霊を祭る行事でしたが、現在は五穀豊穣の意味も取り入れて行われています。竹を倒すことなく廻し切れば豊作で、厄病が退散すると言われています。



伊豆地域

賀茂郡河津町

伊豆見高入谷高原

いずみだかいりやこうげん

温泉と自然と美しい農村風景

温泉と高原の中の農村風景を楽しめる中山間地域です。邑人たちは、来訪者に気持ち良く過ごしていただけるよう、自発的に美しい景観保全に努めています。都市住民とのふれあいを大切に、感謝の気持ちを忘れず、地域の活性化に取り組んでいます。



地場産品を地域の宝に

伊豆見高入谷高原では、地域の新鮮な農作物や加工品を温泉の休憩施設の直売所で販売しています。直売所を設けることにより、荒廃農地の増加防止や遊休農地の利用につながっています。また、今後はコテージ宿泊者を対象にした農作業体験も計画されています。

さらに、平成19年に「伊豆見高入谷高原温泉」、平成21年に「伊豆見高入谷高原温泉コテージ」をオープンさせました。この温泉は、河津町の秘湯として訪れた人に喜ばれています。

平成19年からは、日頃温泉施設を利用している人々に感謝するとともに、広く地域の魅力を知ってもらうため、「紅葉ふれあいまつり」を開催し、都市住民との交流の場をひろげています。

少子高齢化による農業の担い手不足の問題は見高入谷地区においても例外ではありません。温泉施設と豊かな高原の自然を武器に、地場産品を地域農業の活性化につなげるべく、地元の活動は続いていきます。



中山間地域の王道

河津町の東端、東伊豆町との境に位置する美しい中山間の農村集落です。温州ミカン、ニューサマーオレンジなどを中心とした多種な柑橘やイチゴ、野菜などの栽培がおこなわれています。

地域の魅力を知ってもらうために

少子高齢化の波が押し寄せる中、地域の活性化を目的として地域住民が立ち上がりました。

まず、平成17年に「見高入谷地区活性化推進委員会」を設立。その後「伊豆見高入谷高原温泉管理組合」に移行し、地域内の農道や水路の整備や農地の保全などに取り組んできました。



邑の語り部



伊豆見高入谷高原温泉管理組合　組合長
遠藤　照之さん

昔のような活気と農村風景を次世代に残していくため、地域区民が団結、協力しあい、地域の活性化に取り組んでいます。温泉施設を拠点に、自然を求める都市住民とのコミュニティーの場として、更なる活性化を図っていきます。皆様もぜひお立ち寄りください。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

JR伊東駅－（伊豆急行線　下田行）－今井浜海岸駅（約60分）

■お車を御利用の場合

東名高速　沼津ICより　約85分

新東名高速　　沼津長泉ICより　約80分

邑の農地／田2ha、畑8ha

主な農産物／温州みかん



人気の加工品

柑橘類や地場野菜とともに、地元で手作りした田舎寿司、饅頭、おこわ、こんにゃくなどが人気です。温泉施設内の販売ブースや紅葉ふれあいまつりなどで入手できます。季節の新鮮な野菜と、里山の素朴な味わいが堪能できます。



伊豆見高入谷高原温泉

源泉かけ流しの良質な温泉で、施設内では軽食・弁当や地場産品も販売されています。木造長屋式コテージ（1棟3室）も併設されており、格安で宿泊ができます。河津町の秘湯で高原のさわやかな空気を満喫してみてはいかがでしょうか。



紅葉ふれあいまつり

毎年11月23日開催。イノシシ鍋のサービス、餅つき大会、地場野菜や加工品の販売などが行われています。販売ブースはスタート直後から大盛況です。地域住民の温かいもてなしと、自然豊かな秋の一日を楽しむことができます。



賀茂郡南伊豆町

伊浜地区

いはまちく



マーガレットの里「伊浜」

昭和47年に開通した南伊豆町と松崎町を結ぶ南伊豆道路（国道136号線）は「マーガレットライン」の愛称で親しまれています。名前の由来となったマーガレットは伊浜の特産品で、マーガレットを通した邑づくりが行われています。

南伊豆町のマーガレットは昭和3年から栽培が始まり、現在も町の特産花卉であるとともに、全国有数の産地となっています。中でも、伊浜地区はその主産地であり、段々畑での栽培が盛んに行われています。平成20年からは、地区の人々と生産者が協力し、観光花卉園「マーガレット狩り園」をオープンしました。4月中旬から5月中旬にかけて一般開放されています。また、静岡県オリジナルの品種の導入を図るなど、新しい試みや地域振興に取り組んでいます。

伊浜海中クリーン作戦

伊浜地区では、区の主催による海中クリーン作戦を開催しています。このイベントは、平成24年までNPO法人の主催により、数地区の持ち回りで開催されていました。



伊浜区の主催となって第一回目の「海掃除二〇一三」では、ダイバーやシーカヤックなど百八十名以上が参加しました。参加者は、波勝崎の海中や海浜を清掃し、約四七〇kgのゴミを集めました。メインはダイバーによる海中清掃ですが、海浜の清掃は当日受付をすれば誰でも参加が可能です。

マーガレット栽培の取り組み

伊浜地区は南伊豆町の北西に位置し、人口三百人ほどの駿河湾に面した海沿いの集落です。伊豆半島のなかでも温暖な土地で、「長寿の里」として知られています。

集落では、海岸斜面につくられた段々畑でのマーガレット栽培や漁業、民宿営業が盛んです。近くには野猿とふれあうことができる波勝崎苑（はがちざきえん）や海水浴場があります。綺麗な海と花に囲まれた集落で、のんびりと時間が過ごせます。



邑の語り部



伊浜区長
地引 安信さん

地区の活動として、国道へ繋がる生活路線や区内道路を始め、農地や海岸線等の維持清掃作業を行っています。今後も区民の協力を受けながら交流を深め、住み良い地域づくりに務めていきたいと思います。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

伊豆急下田駅－（南伊豆東海バス　下田～伊浜）－伊浜バス停留所

■お車を御利用の場合

東名高速沼津ICより　約100分

新東名高速長泉沼津ICより　約110分

邑の農地／畑6ha

主な農産物／マーガレット



普照寺

集落中腹の坂にある普照寺は、行基作とされる観音像を本尊とする寺です。伊豆国七福神巡拝の一つにもなっています。
紙本墨書大般若経、わに口、梵鐘の3点は、県指定文化財となっています。



野猿の楽園「波勝崎苑」

波勝崎苑は、東日本最大の野猿公園として知られています。昭和32年に伊浜の肥田与平氏が餌付けに成功したことから始まった野猿の楽園です。現在300匹ほどの野猿が生息し、いろいろな表情やしぐさを見ることができます。☎0558-67-0050



「落ちない花」マーガレット

マーガレットはカナリア諸島原産のキク科の花です。JA伊豆太陽では、花が咲ききっても花びらが散らないことから、「マーガレットは落ちない花」として受験生向けにPRしています。



東部地域

御殿場市

沼田ロマンチック街道

ぬまたろまんちっくかいどう

四季の花と霊峰富士を仰ぎ見る沿道づくり

広域農道沿いの休耕田・遊休地を活用して、四季折々の花木を植栽した地域の環境改善に取り組んでいます。



地域活動で活発な世代間交流

地域活動には、部農会や自治会を中心にロマンチック街道育成会や子供会、老人会など幅広い世代が参加し、交流を深めています。

また、県無形文化財の湯立神楽は地域の重要な伝統文化として、次世代へと継承されています。

さらに、早稲田大学学生の発案で「ロマンチック街道フォトコンテスト」を平成15年から5年間開催し、優秀作品を集めた写真集も発行されました。



ブルーベリーの収穫体験とジャムづくり

富士山を望む遊休農地を利用したブルーベリー栽培は、収穫体験やジャムづくり体験に地域内外から多くの参加者が集まります。集まった参加費は、ブルーベリー園の維持費用等に活用されています。

また、地元の小学生を招いた植樹体験も行っており、植えた苗には名札を付けることもできます。このように、地域住民の関心を高める取り組みも行っています。

また現在は、地域の高齢者による農産物直売所の建設を地域独自で進めています。



沿道は四季折々の花木がいっぱい

世界文化遺産富士山を望む水田地帯で、広域農道「ロマンチック街道」沿いに富士山を借景に美しい農村景観が広がっています。

遊休農地にブルーベリーやアジサイを植えたり、箱根山系からの清涼な水路に棲むホタルを保全したりする活動に、地域が一体となって取り組んでいます。



邑の語り部



沼田ロマンチック街道育成会　会長
根上　孝吉さん

「地域づくりは人づくりから」を基本に地域内の休耕田・遊休地を活用し、地域の環境改善に取り組んでいます。ブルーベリーは毎年植栽し、今では多くの人々に摘み取りを楽しんでもらえるようになりました。豊かな自然に恵まれた沼田へ、ぜひ足を運んでください。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

JR南御殿場駅から徒歩約20分（ブルーベリー園まで）

■お車を御利用の場合

東名高速御殿場ICより　約10分

邑の農地／田18ha、畑8ha

主な農産物／ブルーベリー



沼田ホタルねっと

沼田ホタルねっとは、農村環境の大切さを地域の人々に伝えるため、小川にホタルの幼虫を放流し、その生息環境や周辺の環境保全に努めています。

毎年6月頃開催されるホタル観賞会では、地域の子供たちがホタルとの触れ合いを楽しんでいます。



沼田の「湯立神楽」

沼田地区の子之（ねの）神社で、10月に行われる伝統の「沼田の湯立神楽」。湯立は神前の大釜で沸かした湯を神に献じ、その聖なる湯を振りかけて無病息災や豊作を祈願する神事で、沼田の湯立は県指定無形民俗文化財に指定されています。



沼田ブルーベリー園

園内には数種類の大粒のブルーベリーがたわわに実っていて、入園料500円で食べ放題を楽しむことができます。

8月～9月の約1か月半営業していますので、夏休みの思い出にいかがでしょうか。1,000本のブルーベリーがお待ちしています。



伊豆市

桂流コシヒカリのふる里

けいりゅうこしひかりのふるさと

四季清流桂川に育まれた田園空間とブランド米

豊かな自然、伝統ある温泉街、歴史的資産の３つを兼ねそろえた魅力ある地域です。近年、清流桂川の恵まれた水源を活用し、従来の地場産品に加え、ブランド米の生産に力を入れています。



地域独自の食材でおもてなし

平成22年度に生産者組合「農事組合法人グリーンファーム桂谷」が設立され、安心でおいしい米づくりをモットーとした特別栽培米の栽培が広がっています。

中でも食味スコアが有名ブランド米と比べても引けを取らない水準である「桂流コシヒカリ」は、生産者と修善寺温泉の旅館とが連携し、食材として宿泊客に提供されています。地域で採れたものを訪れたお客様にその場で味わっていただくという地産地消のお手本です。

また、弘法芋や黒米などの地域独自の食材も栽培されています。弘法芋は修善寺温泉を発見した弘法大師にちなんで名づけられ、肉質が密で粘りが強いという特徴があります。黒米はこの地方では薬膳として食べられており、ほんのり甘く香ばしいお米です。





深い歴史が息づく邑

桂谷八十八カ所巡拝や奥の院のイベント時には、地場野菜や地産食材を使ったお弁当の販売が行われています。

地域周辺には、源範頼（源頼朝の異母弟）の墓や、多くの石碑、寺院が残り、温泉と豊かな自然に深い歴史が溶け込んでいます。

農業と観光の融合

伊豆半島の中心部に位置する修善寺温泉は県下屈指の温泉街で、全国から観光客が訪れます。温泉街を西に進むと、「桂流コシヒカリのふる里」の美しい田園空間が広がります。棚田景観の残るこの地域では、清流桂川を水源として、良質なコシヒカリが栽培されています。

また、初夏には清らかな水と空気のなかでホタルの舞う姿も見られます。

美しい景観を守るため、地域が一体となって活性化に取り組んでいます。



邑の語り部



北又中山間事業委員会
代表
杉原 由樹さん

私達が自慢とする緑豊かなこの地域の景観を守ると共に、自然のダムとも言える農地を保全活用する事が私達に課せられた使命と受け止めています。そのため、安全で安心してできるお米作りや遊休農地対策、歴史資産を活用したイベントによる地域外交流に取り組んでいます。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

伊豆箱根修善寺駅－（バス10分）修善寺温泉－徒歩20分

■お車を御利用の場合

東名高速　沼津ICより　約60分

新東名高速　長泉沼津ICより　約60分

邑の農地／田38ha、畑30ha

主な農産物／弘法芋、黒米



修禅寺奥の院

修禅寺は、平安初期に弘法大使が開創したと言われています。本寺から桂谷地区を抜けて西に4.6kmほどの所にある奥の院は、若き日の空海（弘法大使）が修業した場所と伝えられています。春と秋に「春の静寂」「秋の静寂」、冬至には「星まつり」が行われます。



桂谷八十八カ所めぐり

修善寺地域に点在する礼所（石碑）を、毎年11月7日～9日の3日間を掛けて巡ります。四国八十八カ所の霊場の土を桂谷の八十八カ所に埋め、石碑を建立しており、四国八十八カ所巡りと同じ功徳が受けられるとして、毎年多くの巡拝者が訪れます。



ブランド米桂流コシヒカリ

清流桂川で育まれたブランド米です。平成25年度に初めて桂流コシヒカリを「お米日本一コンテストinしずおか」に応募したところ、金賞を受賞しました。

近年は有機肥料米への取り組みが急速に広がっており、さらに安全で美味しくなることが期待されています。



伊豆地域

伊豆の国市

韮山金谷

にらやまかなや

歴史遺産を残す農村環境

世界文化遺産富士山を望む水田地帯。金谷地区は昔ながらの里山の風景が見られ、地域の人々と多くのボランティアにより景観のの保全に取り組んでいます。



都市住民との協働活動

平成21年、神奈川県内で竹林整備等の活動を行うNPO法人「日本の竹ファンクラブ」と、地元団体である韮山金谷の里夢くらぶが協働活動を開始しました。

主に放置竹林の伐採・整備活動を行い、両団体合わせて、年間延べ四百人以上の人が活動に参加します。竹林整備、景観活動を継続的に行っています。



さらに、竹林を間伐する際に発生する竹材を活用して竹灯籠を製作し、約四千本の灯籠で江川邸内の竹林、中庭や池をライトアップする韮山竹灯籠まつりを毎年開催しています。イベントの際は、中庭でのコンサート（尺八、オカリナ、ハーモニカ、合唱）や、竹のオブジェの展示、竹製品やカッポ酒（竹徳利の熱燗）等の販売などが行われ、来場者に竹の素晴らしさと竹林の保護をPRしています。

この協働活動は、静岡県の「一社一村しずおか運動」事業として平成23年に認定を受けました。



悠久の時と歴史ロマンを感じさせる史跡

邑が誇る国の重要文化財である江川邸は、平成25年9月に世界遺産国内推薦資産に決定した韮山反射炉を造った江川坦庵の住居として、江戸の佇まいを残しています。

江川邸に近接する、ため池「城池」を囲む城池親水公園は、野鳥や魚類の宝庫となっており、地域住民の憩いの場となっています。

さらに、平清盛の継母池禅尼の命乞いによって一命をとりとめ、韮山へ流罪になった源頼朝が、14歳から34歳の旗揚げまでを過ごした蛭ケ小島など、数々の史跡を訪れることができます。



邑の語り部



韮山金谷の里夢くらぶ
代表　宇野　眞敏さん

当地区は管理されていない放置竹林の整備を平成21年から行っています。その竹を利用した「韮山竹灯籠まつり」を毎年実施しています。竹灯籠の温かみのある灯りが醸しだす幻想的な世界をご覧ください。

また、竹林ボランティアも随時募集中ですので関心のある方はお気軽にご参加ください。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

JR三島駅－（伊豆箱根鉄道　修善寺駅行き）－伊豆箱根鉄道韮山駅　徒歩20分

■お車を御利用の場合

東名高速　沼津ICより　約30分

新東名高速　長泉沼津ICより　約30分

邑の農地／田5ha、畑5ha

主な農産物／米



城池親水公園

北条早雲居城の韮山城の塀の一部が残る緑豊かな公園です。富士山を眺めながらのウォーキングがおすすめです。 春には桜、初夏には菖蒲を楽しむことができます。野鳥観察小屋ではバードウォッチングも楽しめます。



韮山反射炉

韮山反射炉は、代官江川坦庵が手がけ、後を継いだその子英敏により完成しました。反射炉とは、金属を溶かし大砲を鋳造する炉であり、現存する唯一の稼働した反射炉として、平成25年9月20日に世界遺産国内推薦資産に決定しました。



重要文化財「江川邸」

江戸時代に代官としてこの地を治めた江川家の住宅で、広い敷地の中には主屋や蔵が現存しています。国の重要文化財にも指定され、NHK大河ドラマ「篤姫」などの時代劇のロケ地にもなっています。



東部地域

富士市

富士山のふもとの郷を守る邑

ふじさんふもとのさとをまもるむら

継続した活動で未来の担い手を育てたい

富士山南麓に広がる「浮島ヶ原」。元々、沼地や葦原を開墾した土地であったため、かつては生産性の低い地域でした。
現在では、先人の苦労により農地を改良し、富士山を借景とする広い水田景観が広がっています。



地域企業との協働

建設会社などの地域企業と、地域住民の協働活動も活発に行われています。
景観形成のための地域清掃やレンゲソウなどの植栽、ため池、用水路の草刈作業、不法投棄ゴミ処理作業などに、企業と住民が一体となって取り組んでいます。

地域ぐるみで未来の担い手を育てる

地域では、ふじのくに美農里プロジェクトに取り組む組織「富士山のふもとの郷を守る会」を中心に、未来の担い手に農業に興味をもってもらうための活動も行っています。
富士市立須津小学校では、社会科の授業の時間を使って、農業者の話を聞いたり、鎌を使った稲刈り体験を実施しています。



また、須津幼稚園では、れんげの種まきと花の摘み取り、トウモロコシの収穫体験を体験学習に取り入れ、農業者の指導の下に行っています。

先人の苦労で生まれ変わった農地

この地域は、かつては浮島沼と呼ばれ、富士山を眺望できる風光明媚な場所として旅人の疲れを癒していました。しかし、田植えや稲刈りの際には、泥深い水田に腰まで浸り、田舟で苗や稲を運搬しなければならず、農業を営むには劣悪な環境でした。
そのため、江戸時代から治水、排水工事が行われました。近年になって沼川排水路が完成すると、急速に乾田化が進み、現在では優良農地となっています。



邑の語り部



富士東部土地改良区
理事長
渡邉　利明さん

かつて生産性の低い低湿地であったこの地域を、先人が苦労して土地を改良したことにより、多角的な農業経営が可能な農地となりました。
富士山を背景にした自慢の田園景観を守りつつ、浮島ヶ原の自然や歴史にふれながら吟行を楽しめるような地域を目指していきたいです。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

JR吉原駅－（岳南鉄道　岳南江尾駅行き）－岳南鉄道神谷駅

■お車を御利用の場合

東名高速　富士ICより　約20分
新東名高速　新富士ICより　約25分

邑の農地／田262ha、畑36ha
主な農産物／米、富士梨



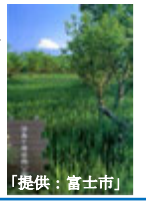
岳南電車（鉄道）

JR吉原駅から北東に10Km足らずのローカル鉄道で、1948年に設立、1953年に全線が開業しました。
線路際まで建物が迫る市街地や、パイプなどの配管がめぐる工場の間を縫うように、のんびりと走ります。


「提供：富士市」

浮島ヶ原自然公園

浮島ヶ原の湿原には、環境省レッドデータブックに記載されている貴重な植物が分布しています。浮島ヶ原自然公園では、貴重な植物や自然風景を身近に観察できます。
浮島固有種とされるナヨナヨワスレナグサなど貴重な動植物と出会うことができます。


「提供：富士市」

富士梨

明治初期に富士地区で植え始められた梨です。糖度が高く、みずみずしい富士梨は、7月下旬から9月下旬にかけて収穫されます。栽培農家が直接販売していることが多く、市場やスーパーなどの店頭にはあまり並ばない希少な特産物です。


「提供：富士市」

静岡市葵区

大沢地区

おおさわちく

「大沢に帰ろう！」

戸数23戸の小さな集落ですが、みんな元気です。顔を合わせれば声をかけ合い、作業を手伝ったり、野菜を分け合ったり。昔は当たり前にあった助け合い「結」のこころ。ほっとする温かな人のつながりがここにはあります。



山と茶園に囲まれた小さな集落

大沢は玉川地区内にあり、安倍川の支流である西河内川上流部に位置します。全方位を霧深い山と茶畑に囲まれた、戸数23戸の小さな集落です。

清流と豊かな緑に恵まれた農山村で、お茶の生産には特に力を入れており、茶園の総面積は9ヘクタールにもおよびます。

さらに、地区内のほとんどの世帯でお茶を作っており、全世帯数23戸の小さな集落にもかかわらず、13軒もの茶工場があります。



霧深い霧が育む香り高いお茶

大沢は香り高く味の引き締まったお茶を生み出す名産地です。朝晩の寒暖差が大きく、深い霧がよく降りるという特有の気候条件がその味を育んでいます。

毎年地区内でお茶の品評会を開催し、最優秀賞を受けた人にトロフィーが授与されます。また、品評会の席では、栽培や製茶について、どんな工夫をしたのか等情報交換をしながら、地域全体の品質向上に努めています。



邑のおもてなし「縁側カフェ」

平成25年6月より始まった「縁側カフェ」は、町内全戸の協力の下に運営されています。市街地からお客を招き、交流を楽しみつつ、緑茶に親しんでもらうことができる“おもてなし”の取り組みで、季節ごとのお茶請け、自慢の柏餅、大沢で採れた新鮮野菜料理なども楽しむことができます。

毎月2回の開催時には、地区の人口より多くの人が訪れます。

「縁側カフェ」は大沢のお年寄りに元気を与え、地域の活性化につながっています。



邑の語り部



大沢老人クラブ
会長
内野　辰男さん

主産業である茶業をうまく盛り上げていかなければならないと思い、縁側カフェを企画しました。多くの方に大沢のお茶や地元の産物のおいしさを実感してもらいたいと考えています。今後は地区全体でエコファーマーを取り、お茶の輸出に繋げていこうと考えています。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

JR静岡駅－（しずてつバス安倍線横沢行）－しずてつバス「大沢入口」下車徒歩20分

■お車を御利用の場合

東名高速　静岡ICより　約40分

新東名高速　新静岡ICより　約30分

邑の農地／茶畑9ha

主な農産物／茶、わさび



豊富な山の幸

春先にワラビ、タラの芽、沢フキ等、美味しい山菜がたくさん採れます。天ぷらよし和え物よし煮物よし。椎茸は露地栽培で春先と晩秋のみ収穫します。

そのため香り豊かな椎茸本来の味が楽しめます。大沢の清水で育つ山葵の豊かな香りと辛味は絶品です。



公式ホームページとfacebookで情報発信中！

大沢地区では、公式ホームページやfacebookを活用し、積極的に情報発信を行っています。

ホームページでは、「縁側カフェ」の開催情報や地区マップを見ることができます。

大沢振興会の公式ホームページ

http://tsunagari-osawa.com

おおさわ
里ながらのつながりを。

ドキュメンタリー映画「ちいさなあかり」

今の時代の“豊かさ”とは何か？という問いに、若き映画作家2人が最小限の機材で大沢地区の人々と暮らしを記録しました。「人の幸せなくらし」をテーマとした本作は大沢地区の住人が出演し、邑のありのままの生活を垣間見ることができます。



中部地域

静岡市葵区

奥藁科・大川

おくわらしな・おおかわ



清流が流れ、歴史が息づく山あいの郷

藁科川の上流部に位置し、静岡に茶をもたらした「聖一国師」（しょういちこくし）の誕生をはじめ数々の昔話が継承されています。清らかな水と豊かな緑に囲まれた個性的な8地域からなる、茶や椎茸などが特産の山あいの静かな郷です。

豊かな自然と歴史に育まれた農村

奥藁科・大川地区は、清流・藁科川沿いに広がる坂の上、栃沢、日向、諸子沢、湯ノ島、崩野、楢尾、大間の集落で構成されています。茶祖が生まれた地であることを誇りに、本山茶の生産が古くから盛んに行われてきました。

また、七ツ峰を最高峰に周囲をぐるりと山で囲まれた緑豊かな山村では、椎茸の他、寒冷な気候を利用した赤カブの栽培も手掛けられ、茶、椎茸と並ぶ地域の特産品となっています。



地域農産物を生かした特産品

聖一国師生家のお膝元として品質の良いお茶づくりに古くから取り組むとともに、地域の冷涼な気候を生かした赤カブ漬けや椎茸羊羹、地元で栽培した大豆を使った豆腐やおからドーナッツを生産しています。

最近では、大川産の在来ソバと地域の小麦粉を使った蕎麦づくりを行い、湯ノ島会館などの観光拠点と併せPRし、地域の活性化を図っています。



お山の陽だまりスペースでおもてなし

県の文化財に指定されている日向の七草祭りをはじめ、春の大川お茶祭り、地区毎に伝承されている神楽など、地域の強いつながりが感じられます。

地域が一体となって中山間地域の振興に取り組んでおり、特に、毎月第1・3日曜日に開催される「大間・縁側お茶カフェ」では、雄大な眺めと、はずむ会話で、街中では味わえない“ちょっぴり贅沢な時間”を楽しむことができます。大間集落の5世帯が縁側を解放し、緑茶と手作りのお茶請けでお客さんをおもてなしします。



邑の語り部



大川地域振興協議会
会長
牧野　力雄さん

毎年役員が交代するため継続性がなかった組織を平成23年に再編成し、継続的に活動できる体制を作った。地域に子供が少ないので、若夫婦が移住してきてくれることをめざし、移住促進活動に力を注いでいく。子育てにやさしい地域づくりが目標です。ぜひ当地域へお越しください。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

JR吉原駅－（伊豆箱根鉄道　修善寺駅行き）－伊豆箱根鉄道韮山駅

■お車を御利用の場合

東名高速　静岡ICより約60分

新東名高速　　静岡SAスマートICより約30分

邑の農地／田5ha、畑15ha

主な農産物／茶、椎茸、赤カブ



日向の七草祭り

県の無形民俗文化財に指定され、旧暦の1月7日に福田寺観音堂にて行われます。祭りは午前中の日の出の祈祷と、田遊びが行われる夜祭りで構成されます。メインの夜祭りは、にぎやかにかつおごそかに行われ、毎年多くの見物客で賑わっています。



大間・縁側カフェ

集落の5世帯の農家が自宅の縁側を開放して開催しているお茶カフェ。用意されているのはおいしいお茶とお茶うけ、そして地域の人との楽しい会話。

のんびりと縁側に座って、景色を眺めたり、おしゃべりをして、陽だまりの中、癒しの時間を楽しんで下さい。



茶祖聖一国師と本山茶

聖一国師が禅宗の修行のために宋に渡った後に帰国し、故郷の栃沢に立ち寄った際、中国から持ち帰ったお茶の実を足久保にまいたことから、静岡で茶の栽培が始まったと伝えられています。

邑では、本山茶のブランドで地域の特産となっています。



中部地域

島田市 越地 こえじ

飽きるほどの自然に恵まれた越地

農業に欠かせない水が豊富で、茶、米を中心に今では懐かしい田圃のレンゲ畑を再現し、そこで遊ぶ子供たち、山菜や木の実、カモシカ等の動物に触れあうことができ、朝は野鳥のさえずりで目を覚ます。そんな自然があふれる地域です。



レンゲ畑からとれた米

地域の農村資源や環境を守るべく、自治会を中心とした4つの町内会により地域活動が計画されています。

現在は、井水の会、子供会、花の会、消防団、老人会などの組織と自治会が連携し、農業用施設の管理や補修、地域の花壇への植栽、レンゲ畑での保育園児との交流などの活動が行われています。



地域の自然やレンゲ畑を通じた地域住民の交流は、新たな農作物の導入や従来品の発展などの取り組みに繋がっています。

最近では、レンゲ畑でとれた米を「レンゲ米」と名付け、販売も行っています。レンゲ米を契機とした今後の地域の農業の変化が期待されます。



越地の開田と切り割り

越地地域は、大井川の支流家山川の畔に位置した自然に恵まれた地域です。しかしこの自然は元から存在したものではありません。江戸時代末期までは、大雨が降るたびに川の水があふれ、家や田畑が流されていました。

この状況を憂いた家山地区の医師村松周庵は、2年の歳月をかけて岩山を砕き、川の流れを変えました。さらに、三千メートルほどの堤防を築いたり、10ヘクタールほどの新田を作ることで、水害の苦しみから村人を救ったと伝えられています。



邑の語り部



越地 環境保全の会
会長 松下 光雄さん

先人達が、川の流れを変えて開拓した田畑に今ではポンプアップして水を引き、美味しい米作りに取り組んでいます。荒廃させる事のないよう地域みんなで活動を始めました。その一つがレンゲの種まきによる有機質の土壌作りです。春には園児達にレンゲ畑で楽しんでもらっています。地域みんなで、緑豊かな素晴らしいふるさとを残せるよう努力していきたいです。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

JR金谷駅－(大井川鉄道　千頭駅行き)－大井川鉄道家山駅

■お車を御利用の場合

東名高速　吉田ICより　約50分
新東名高速　島田金谷ICより　約35分

邑の農地／田 6ha、畑13ha
主な農産物／茶、米、レンゲ米



昔懐かしい火の見櫓

家山トンネルを越えて300mほど行った道沿いに、屋根が三角形で見張り台が円形の櫓があります。

半鐘や螺旋状のはしご階段、ホースを干すための滑車などが現存し、村にノスタルジックな雰囲気をかもし出しています。



栃下の夜番地蔵

川根の奥の大日山の山裾近くにあった栃下という小さな村で、畑を荒らす熊や猪を見張る夜番となった一人の村人が道端の地蔵に願をかけたところ、畑への被害がなくなったという逸話から、地蔵は「夜番地蔵」と呼ばれ地域で信仰されています。



野守の池

大井川の三日月湖で、島原の遊女野守太夫（のもりだゆう）と夢窓国師（むそうこくし）の悲恋物語が伝えられています。春には桜がと花菖蒲が美しく咲き乱れ，ヘラブナ釣りや散歩を楽しむ家族連れが多く訪れます。毎年8月15日には「野守まつり」が開催されます。



焼津市 西島 にしじま

偉大な流れ大井川と報徳精神が育むコスモスの里

大井川の下流左岸に位置する西島地域では、平成11年から地域内外の人々に楽しんでもらうため、コスモスの植栽をはじめました。さらに、「ふじのくに美農里プロジェクト」を通して活動を広げ、地域住民と一緒にコスモスの栽培やビオトープでのメダカの飼育を行っています。



偉大な流れ「大井川」の水防の歴史

大井とは「偉大な流れ」という意味ですが、一旦洪水ともなれば下流の住民にとってはそれは恐ろしいものでした。

現在の堤防は明治29年に完成しましたが、それまでは志太南部を奔流していたため、人々はその間の微高地に田を開き民家を点在させていました。

西島や下流の飯淵地区は、大井川の流れが特に激しい地域であったため、大井川の氾濫に備えて、自分の家屋敷を洪水から守るための「舟型屋敷」が点在していました。現在では強大な堤防の建設、土地改良事業や道路網の整備により、舟型屋敷はほとんど見られなくなりました。

西島報徳社

明治41年に報徳精神のもと、西島報徳社が地区の農業の活性化を目的として創立されました。

明治中ごろに現在の大井川の堤防が建設されたことは、地域の発展に大きく貢献しました。

平成25年に国の財団法人組織の見直しの通達により解散となりましたが、創立率先者の斉藤伝一郎氏の功績をたたえた頌徳碑が建立されています。



コスモスの里

平成11年、西島まちづくり委員会は、夏から秋にかけて空いてしまう小麦田を活用し、少しでも人々を楽しませようとコスモス栽培に取り組み始めました。

平成19年には、地域ぐるみの組織として西島地域環境保全活動組織が設立され、コスモス栽培のほか、地域の子供が参画する「めだかの育成事業」によるビオトープづくり、水路や農地の草刈や泥上げによる地域の環境保全活動を行っています。

西島地域はコスモスの里として定着し、平成23年には周辺名所旧跡などの地域資源を巡るバスツアー「地域再発見の旅」のコースにもなっています。特にコスモス畑は参加者に大変好評で、口コミにより年々コスモスが咲く時期の訪問者が増加しています。



邑の語り部



西島地域環境保全組織
代表
村田 忠夫さん

時代の変革に伴う農業後継者不足は深刻ですが、お陰様で現在耕作放棄地はありません。子供たちに稲作体験などを通じて何かを掴んでもらえればと思います。三世代交流にも力を入れており、自分たちで植えたもち米で餅つき大会を開催するなど、幅広い世代の間の交流が盛んです。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

JR藤枝駅南口-静鉄バス 藤枝相良線-富士見橋バス停-徒歩10分

■お車を御利用の場合

東名高速　吉田ICより　約10分

新東名高速　藤枝岡部ICより　約30分

邑の農地／田17ha

主な農産物／米、小麦



大井川の恵「うめえぞこれは 」



焼津市(旧大井川町)の農家が丹精込めて作った小麦や、大井川水系の伏流水を使用したこだわりのしょうゆです。駿河湾深層水をブレンドして、再仕込み製法で熟成させることにより、うま味の窒素成分は1.98を超える「超特選」となっています。

「大井追っかけ音次郎」歌碑

県内の地名が散りばめられた歌詞が印象的な、氷川きよしのヒット曲「大井追っかけ音二郎」の歌碑が旧大井川町民の有志の募金によって大井川陸上競技場の構内に建立されました。



笑山句碑

俳人笑山、秋富、雪岡らがつくった同人組織「六鯨舎」。その笑山の辞世の句碑が西島自治会館敷地の福寿院廃寺墓地にあります。この句碑は六鯨舎の同人が寛文十年(1798年)に建立し、俳句碑としては志太地区でも最も古いもののひとつです。



中部地域

榛原郡川根本町

池の谷・閑蔵

いけのたに・かんぞう

川根茶最北産地の山間の桃源郷

大井川上流に注ぐ寸又川に生きづく箱庭のような集落では、お茶と人がやさしくもてなしてくれます。



自然を満喫できるキャンプ場

集落は全7戸で形成されていますが、全戸で農林道、簡易水道等のインフラ管理を行っています。また、池の谷キャンプ場の運営・管理も集落が行っています。

キャンプ場には、約2ヘクタールのテントサイトと7棟のバンガローがあり、年間約2千人の利用者が訪れています。



おもてなしあふれる高品位な川根茶

本邑は川根茶の産地としては最も北に位置しています。川根山地特有の自然の恵みを生かし、減農薬に努めた循環型農業で高品位な川根茶を生産しており、全国茶品評会では産地賞を受賞するなど、高評価を得ています。

また、平成24年からは、自園自製で日々上質な茶を作ることに情熱を注ぐ農家が、丹精込めて作った川根茶を無料でふるまう「川根茶茶縁喫茶」を実施しています。

人手不足の解消と都市農村交流を進めるため、平成12年より援農隊「ボラバイト」受入を開始し、これまで北海道から沖縄まで多くの若者が自然と人に触れ合いながら農作業に参加しました。

奥大井の箱庭池の谷・閑蔵集落

山に囲まれた箱庭のような2つの集落は、大井川の支流寸又川の最下流部に位置しています。川の蛇行後に形成された池の谷集落と対岸の閑蔵集落は吊り橋によって結ばれています。

寸又川の蛇行切断による河道跡の上流部はキャンプ場、下流部は農地として利用されています。

映画の舞台ともなった山村景観は、心地よい緑のシャワーと、爽やかな風を五感で感じる空間です。



邑の語り部



池ノ谷キャンプ場
代表
海野　善久さん

春は山々の新緑と新茶の香り。夏は緑陰からの涼しく清らかな風と、川から聞こえるせせらぎ。秋は錦に染まる山々、鹿やサルの鳴き声。冬は縁側の陽だまりと、コタツで暖をとる里山。ゆったり流れる時間と、心地よい清風の空間。池ノ谷キャンプ場が皆様をお待ちしています。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

JR金谷駅（75分）- 井川線南アルプスアプトライン

土本駅（徒歩25分）

■お車を御利用の場合

東名高速吉田IC　約95分

新東名高速島田金谷IC　約75分

邑の農地／畑4ha

主な農産物／茶



南アルプスあぷとライン

アプト式とは。歯車を利用して急勾配をの坂を登る鉄道で、スイスなどの山岳鉄道で活躍しています。大井川鉄道井川線の1.4km区間には日本では唯一のアプト式鉄道が採用され、今日も力強く走っています。池の谷・閑蔵集落の最寄駅の土本駅まで徒歩20分程です。



千頭森林鉄道

千頭から池の谷、閑蔵集落をとおる寸又峡までの林道に、材木や住民を運搬する千頭森林鉄道が通っていました。木材運送や、発電所やダムの維持管理の為に使用していましたが、自動車の普及や道路の整備などにより、1968年に全線が廃線となりました



池の谷の吊り橋

池の谷の吊り橋は池の谷集落と閑蔵集落の懸け橋となっており、長さ104m、高さが13mと大井川の吊橋の中では平均的な規模ですが、通行する際の揺れ度は大きくスリル性は他の吊り橋に引けを取りません。



西部地域

磐田市 とんぼの里 岩井

とんぼのさと いわい

山、水、花に囲まれた自然豊かな里

見渡す限りの菜の花畑は地域内外の人々に親しまれ、訪れた人に美しさと安らぎを与えてくれます。



地域の自慢・菜の花循環システム

「菜の花循環システム」とは、美しい花を見て楽しむだけでなく、搾油し、菜の花から油を搾った「なたね油」を精製したり、古い菜種油から精製した燃料でトラクターを稼働させ、来年の菜の花畑を耕したりといった地域完結型の循環システムです。

毎年3月には「菜の花環境まつり」が開催され、都市住民と農村の交流だけでなく、循環型農業についての紹介の場にもなっています。



食農教育の推進

地域の幼稚園や小学校では、収穫から食することを体験することによる「食農教育」を推進しています。

向笠地区菜の花環境システム推進協議会が主体となり、幼稚園や小学校で作物を自ら栽培し、収穫、加工、調理し食します。地域を再発見し、想いを深めることを目的としたこの活動により、「育て、穫り、食すまで」の一連活動を通じ、自然の力に驚き、収穫の喜びや自然に感謝する気持ちを育てています。

水辺の田園の里

邑には、水稲を中心とした農地と森林が調和した自然豊かな里地・里山景観が形成されています。春先に、地域の南部の桶ケ谷沼南側の畑一面に菜の花が咲く風景は圧巻です。菜の花以外にも、四季折々の自然や景観をハイキングをしながら楽しむことができます。

また、桶ケ谷沼は、日本有数のトンボの生息地としても知られています。絶滅危惧種のベッコウトンボをはじめ、国内に生息するトンボの約3分の1にあたる70種が確認されています。



邑の語り部



向笠地区菜の花環境システム推進協議会会長 青島 一彦さん

岩井では、春に地域の南部に位置する畑一面に菜の花が咲き乱れ、そこでは「菜の花環境まつり」も開催されます。また、隣接する桶ケ谷沼は日本有数のトンボの生息地として知られており、四季折々の自然や景観、ハイキングなどが楽しめます。是非、いらしてみませんか。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

JR磐田駅ー（遠鉄バス　見付磐田営業所行）ー磐田営業所下車徒歩20分

■お車を御利用の場合

東名高速袋井ICより　約20分

新東名高速磐田ICより　約20分

邑の農地／田15ha、畑41ha

主な農産物／なたね油



桶ヶ谷沼ビジターセンター

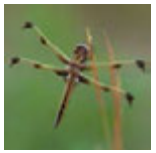
桶ケ谷沼の自然環境を保全するとともに、自然環境や自然を利用した体験学習活動を行い、自然保護意識の啓発を図ることを目的に設置されました。

入館は無料で、週末には、自然観察会や講演会などの各種イベントが実施されています。



ベッコウトンボ

桶ケ谷沼は、本州で最東端のベッコウトンボ生息地であり、国内では唯一の安定した多産地といわれています。環境省が公表したレッドリストにおいて絶滅危惧Ⅰ類とされ、自然保護団体や磐田南高校によるベッコウトンボの人工的な増殖計画が進めています。



菜の花環境まつり

毎年3月に開催される菜の花環境まつりでは、菜の花を見ながら中学校の吹奏学部の演奏を聴いたり、つきたてのお餅や 甘酒、さらになたね油で揚げた菜の花などを無料で楽しむことができます。



西部地域

掛川市

高天神の里

たかてんじんのさと

歴史の里、高天神の里

戦国時代、武田・徳川の合戦の舞台となった高天神の本丸あとから地域の全貌を眺め、戦国ロマンを、体験してはいかがでしょう。



戦国を垣間見る風景

高天神城は、菊川下流域の平地部からやや離れた北西部に位置し、小規模ながら、山城として堅固さを誇り、戦国時代末期には武田信玄・勝頼と徳川家康が激しい争奪戦を繰り広げました。

優美な山の形から鶴舞城の別称を持ち、国の史跡にも指定されています。



地域のまもりびと

土方地区に工場を置く、下着で有名なトリンプインターナショナルジャパン株式会社は、田植えから収穫までの稲作体験を実施しています。従業員参加型の環境活動「Triumph. comeプロジェクト」に農業者や地域住民が参加し、田植え、案山子づくり、稲刈りなどを行い、地域交流を深めています。

土方小学校では、学校に隣接した田んぼでの田植えの体験学習を20年以上継続して行い、地域農業との交流活動を根づかせています。

邑の語り部



高天神里の会
代表
松下 正志さん

史跡「高天神」のふもとに位置しており農村の原風景維持の活動をしています。地域の高齢化という難題を抱えながらも「高天神」をコアとして、素朴と自然の中で、地域の人が観光者が優しく温かく接し会い、明るく元気に動き回るような地域になったら嬉しいです。

地域の恵み

邑では、ブランド米「高天神こしひかり」や高天神で育てた酒米「誉富士」から作られた幻の美酒「花の香」の地域ブランドの普及および販路拡大に取り組んでいます。

さらに、水田汎用化に伴う露地野菜の栽培面積拡大により、農家の経営安定を図っています。



また、ふじのくに美農里プロジェクトにも積極的に取り組み、農業用施設の共同管理や自治会等と連携した景観形成活動を行っています。

農地や農業用施設の保全管理のほか、地区内の花壇や緑地帯の手入れも行っています。



アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

JR掛川駅－（しずてつジャストラインバス掛川大東浜岡線）－土方バス停

■お車を御利用の場合

東名高速掛川ICより　約15分

新東名高速磐田ICより　約20分

邑の農地／田20ha、畑1ha

主な農産物／高天神コシヒカリ、レタス



高天神こしひかり

高天神城跡にちなんで命名された「高天神こしひかり」。平成10年に県内で初めて全国穀物検定協会から減農薬・減化学肥料米の認定を受け、有機100%栽培にした平成12年には皇室献上米にも選ばれました。



高天神社例大祭

高天神社は、高天神城跡にあり、かつての高天神城を守護する神社です。祭礼は、毎年3月の最終日曜日に東峰の社に神様が里帰りされる行事として行われます。祭礼は桜の見頃とも重なるため、毎年多くの見物人客で賑わいます。



高天神をめぐる戦い

高天神城趾のある鶴翁山は三方が絶壁で、「難攻不落の名城」と呼ばれていました。武田信玄・勝頼と徳川家康の両軍はこの地で約10年に渡る「高天神城の戦い」と呼ばれる攻防戦を繰り広げました。



御前崎市

朝比奈

あさひな

田んぼと茶畑の織りなす里山風景

静岡県を代表するお茶と田んぼのコントラストが美しい自然豊かな里山「朝比奈」。ふるさとを感じさせる、何かほっとさせてくれる景色がここにはあります。



朝比奈ふれあいの里クラブ

「朝比奈ふれあいの里クラブ」は、地区の人たちがイベントを通して互いにふれあい、住んでいてよかったと思える地域づくりを目指して活動しています。刈り取りを終えた水田に撒いたコスモスが見頃を迎える11月上旬には、毎年「ふれあいコスモスまつり」が開催されます。



地元農産物の直売施設「ほい！かって家（やー）」

あらさわふる里公園内の直売施設「ほい！かって家」では、地元の農家が精魂込めて育てた旬の食材を販売しており、新鮮でおいしい野菜を求めて訪れる人々との交流が図られています。

直売施設に並んでいる食材を見ていると、思わず手に取ってしまいます。

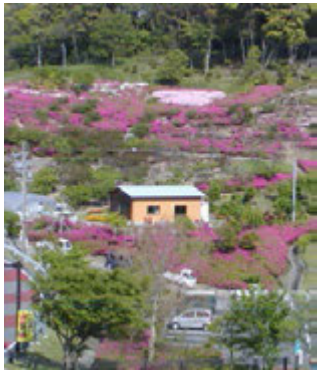


ふるさと交流拠点施設

地域の交流拠点である「あらさわふる里公園」は、山間の懐かしい風景が広がる中に、ビオトープエリア、農業体験エリア、バーベキュー広場、多目的広場、「味工房わらび」、直売施設「ほい！かって家」など様々な施設が充実しています。お花見や茶園ピクニックなどに遠方から多くの人が訪れます。

また、園内の棚田では毎年浜岡北小学校の5年生児童が稲作体験をしており、6月に田植え、10月に稲刈りを行っています。





邑の語り部



（有）グランパークあらさわ 代表取締役
河原﨑 静夫さん

官民が一体となって公園整備が進められた「あらさわふる里公園」は、平成13年にオープンしました。この公園施設を住民の交流や活力の供給の場、また、農産物の直販やバーベキュー、自然とのふれあいや学習の場として、住民参加による地域の活性化を図っています。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

JR菊川駅ー（しずてつジャストラインバス菊川浜岡線）ー木ヶ谷バス停

■お車を御利用の場合

東名高速菊川ICより　約20分

相良牧之原ICより　約20分

邑の農地／田158ha、畑269ha

主な農産物／イチゴ、メロン、遠州夢咲牛



御前崎茶

御前崎市は、日本屈指の日照量を誇り、太陽の恩恵を最大限に取り入れることができます。朝比奈地区では、牧之原農業用水を利用した茶栽培が大規模に展開されており、新品種「つゆひかり」の導入が積極的に進められています。



遠州夢咲牛

遠州地方の全国有数の快適な環境の中で良質な飼料を与えられ、徹底した飼養管理により愛情を込めて育てられています。第7回全国和牛能力共進会での内閣総理大臣賞と農林水産大臣賞のダブル受賞をはじめ、数々の賞を受賞しているブランド牛です。



あらさわふる里公園

園内には桜や梅、ツツジやアジサイなど　四季折々の花が植えられており、1年中いろいろな花が楽しめます。

バーベキュー広場では、しずおか食セレクションにも認定された「遠州夢咲牛」を堪能できるので、家族で楽しんでみてはいかがでしょうか。



周智郡森町

天方

あまがた

歴史と自然が織りなす里山の風景

太田川源流にあるこの地域には、豊かな自然と地域の伝統が息づく里山が現存しています。
日本の原風景と現代が交差する魅力あふれる場所です。



地元産自然薯が人気「山里の市」



秋の訪れとともに、森町の食卓を飾るのが「芋汁」です。自然薯をすり下し、サバやシイタケのみそ汁で薄め、お酒のおつまみやご飯にかけていただく森町の伝統料理です。「山里の市」では、地元でとれたこの自然薯が売られ、人気の商品となっています。

地域外との交流



平成18年に地元地区振興会や地区内の観光施設などが参加して、森町ツーリズム研究会が組織されました。子供たちの農業体験や地域ぐるみでのオープンハウス、空き家めぐり等を実施し、農村の古民家の良さや周辺の環境を体験してもらうことで積極的に地域交流や定住化の推進に取り組んでいます。

特に、ふるさと子供夢学校では、県外からの小学生を招くとともに、韓国からの農業大学生との交流も行っています。

歴史あふれる豊かな自然

邑には、清流吉川、三倉川が流れ、夏はアユ釣りや川遊びに多くの人が訪れます。お茶、シイタケ、自然薯などの栽培が盛んで、特産品となっています。

また、天方城主の墓がある「蔵雲院」、曹洞宗の古刹「自得院」など由緒ある神社や仏閣があり、歴史的にも魅力のある地域です。

観光施設アクティ森では、地域で採れた新鮮な野菜を「山里の市」で販売しています。「手づくりそばほっとり」では、そば打ち体験や、地元のおかあさんの手料理を楽しむことができます。また、オープンハウス「ぷぶふの日」を開催し、都市と地域の交流を図り、住民の暮らしなどを紹介しています。



邑の語り部



森町ツーリズム研究会　会長
安間　紀雄さん

森町ツーリズム研究会は、森町北部の天方三倉地区の活性化を図ろうとする人達の集まりです。子供農山漁村交流プロジェクト、韓国ベンチャー農業大学との交流をはじめ、昨年は、3月と11月にお茶とシイタケのおもてなしでオープンハウスを開き、大勢の人が訪れました。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

天竜浜名湖鉄道遠州森駅ー（町営バス/予約制）ーアクティ森

■お車を御利用の場合

新東名高速森掛川ICより　約10分
東名高速袋井ICより　約30分

邑の農地／田41ha、畑112ha
主な農産物／茶、シイタケ、自然薯



国指定文化財「友田家」

平家の落人が、元禄13年（1700年）に現在の地に移築したとされ、当主は現在47代目に当たります。家の造りは、「片喰違い型」と呼ばれる遠州地方の古農家に使われた型式で、中世の建物をそのままに残された建物として昭和48年に国の重要文化財に指定されています。



葛布の滝

滝のいわれは、古来よりこの地方に葛（くず）が多く自生しており、これで葛布を製造したことからこの地名の由来となりました。明治の頃には、製氷地として知られ、「赤牛と黒兵衛の伝説」が残されています。



森町体験の里アクティ森

コテージやキャンプ場の宿泊施設がある他、マウンテンバイクのレンタルを利用もでき、サイクリングで巡るアウトドア体験ができます。また、一流シェフによる「森のレストランかわせみ」や、遠州地方の名産や特産品を集めた「よんな市」も人気です。



西部地域

浜松市東区

中郡地区

なかごおりちく

蕎麦の花、菜の花が咲き、住民参加意識の向上を目指す

宅地と宅地の間の、狭い農地や荒れた農地が点在しているのを見た住民が団結し、かつてのけっこい（きれいな）景観を取戻すために活動しています。



美農里プロジェクトそば部会の活動

「けっこい中郡」が会長を務める美農里プロジェクトそば部会は、平成23年度から浜松市内各地で、「そば栽培による耕作放棄地や遊休農地の再生利用」に取組んでいます。

そば栽培を通じて、地域の環境保全や住民同士の交流に大きな効果が現れています。



平成25年12月7日に開催された市内二百アールの畑で収穫したそばを、地域住民に振舞うイベントには、出世大名家康くんやふじっぴーが迎えるなか60名が参加しました。

取組規模を拡大し、安定的なそばの生産が出来るようになれば、「浜松産ソバ」として売り込みたいとの意見や、そば栽培による耕作放棄地及び遊休農地の再生利用、地産地消に関心のある企業や団体との連携を望む声も上がっています。



昔からの肥沃な土地

東名高速道路浜松ＩＣの北側、浜松市東区の旧浜北市に接する農地と住宅が混在した地域で、農地の区画は狭く、宅地と宅地の間に農地があるといった環境です。

徳川家康が浜松城に入城した頃は万斛村（まんごくむら）と呼ばれ、穀物が多く取れる肥沃な土地に恵まれた村であったと記録されています。地域の耕作放棄地を解消し、蕎麦や菜の花を栽培することにより、「けっこい」中郡を目指しています。



邑の語り部



けっこい中郡
代表
村木　正彌さん

農業を通じて地域の活性化を図るため、地元の子供会、福祉センター、医療機関等に農業体験の場を提供しています。

中でもそば栽培に力を入れており、浜松市産そばの地産地消に興味のある団体や企業との連携を広げて行きたいと考えています。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

新浜松駅ー（遠州鉄道西鹿島行）ー遠州鉄道 西ヶ崎駅

■お車を御利用の場合

東名高速浜松ICより　約15分

新東名高速浜松浜北ICより　約40分

邑の農地／田30ha、畑61ha

主な農産物／そば、なたね油



甘露寺

弘仁年間（810年～824年）に内乱によって亡くなった多くの武士や農民たちの霊を供養するために創建されたのが始まりとされ、観音堂や地蔵堂、弁財天などのほかに塔頭12坊を擁し、真言宗の寺として栄えました。



鈴木権右衛門邸

鈴木家は室町時代から万斛（まんごく＝浜松市東区中郡町）に屋敷を構え、江戸時代には庄屋の中でも地位の高い独礼庄屋として栄えました。現在は、地域ボランティアによる邸内の見学会が開催されています。



なの花便り

中郡産の菜種だけを使用し、昔ながらの釜炒圧搾製法で精製したなたね油 「なの花便り」は、化学処理をしていないため、原料の持つ独特の色や香りが感じられ、その奥深い風味や味わいに圧倒されることでしょう。



西部地域

浜松市東区

中ノ町地区

なかのまちちく

旧東海道（江戸から京都）の真ん中「中ノ町」

旧東海道（江戸から京都）の真ん中に位置するため中ノ町として名づけられ、東西（東海道）と南北（東側を流れる天竜川）の流通の交差点として栄えた歴史と文化が息づく町です。




金原明善の生家

また、農業用水路兼船の物流として、現在の天竜川下流農業用水と三方原農業用水の構想を立てました。その計画は後世に引き継がれ、浜松市及び市の農業が大きく発展しました。地域では、天竜川農業用水を親しみと感謝をこめて「明善用水」と呼んでいます。

そばが地域をつなぐ



邑では、そば栽培を通じて、各自治会、老人クラブ、小学校が活発に交流しています。そば栽培は、食育教育や遊休農地の再生利用の取組として、多くの支持を得ており、コミュニティの結束力強化を促しています。

耕作放棄地や遊休農地の再生利用や保全管理を目的に、栽培が始まったそばですが、中ノ町環境保全会は、これを地元発進のそばブランドとして育てる意気込みです。

地域で守る環境・景観

一級河川天竜川に面し、北は東名高速道路、南は国道バイパスに囲まれた、都市近郊の地域です。農地と住宅が混在しているこの地域では、水田、施設園芸、露地栽培が各所で行われており、地域住民と農家の交流が盛んです。

また、遊休農地を活用した、コスモス畑は、度々メディア等で紹介されています。



郷土の偉人、金原明善

江戸時代後期の一八三二年（天保３年）に現在の浜松市東区安間町に生まれた金原明善は、「暴れ天龍」こと天竜川の洪水に苦しんでいる人々のため、自らの財産で堤防を築いたり、天竜川の上流部に植林をするなどの治水事業を行い、大きな功績を残しました。

邑の語り部



中ノ町環境保全会
代表
小池 敏夫さん

中ノ町は、旧東海道の街道筋として栄え、古くから人の往来が盛んな邑です。

現在は国道１号バイパスが東西に通り、農地の中に住宅が増えていますが、コスモスやそばの栽培、花火大会等を通じて地域コミュニティの活性化を図っています。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

JR浜松駅－（遠鉄バス　中ノ町磐田線）－中ノ町バス停

■お車を御利用の場合

東名高速浜松ICより　約5分

新東名高速浜松浜北ICより　約30分

邑の農地／田16ha、畑55ha

主な農産物／そば



中ノ町フラワーロード

国道１号バイパスと同時に整備されたポケットパークで、「中ノ町フラワーロードとして地域住民が花を育てています。春の菜の花、秋のコスモスは見事で、道路を行き交うドライバーの目を楽しませています。



伊豆石の蔵

江戸時代、天竜の木材を江戸に船で運んだ帰りに伊豆・下田で石を積んで浜松に戻り、耐火性の高い石蔵を建てました。旧東海道と天竜川の交差する物流拠点として栄えた往時が偲ばれます。

現在はギャラリーとして展示やイベント等に活用されています。



中ノ町煙火大会

毎年8月14日、中野町煙火大会が天竜川右岸側の河川敷で開催されます。

住民で組織する実行委員会が企画・運営を行う、まさに住民手作りの花火大会です。

約4000発の花火が真夏の邑を美しく彩ります。



西部地域

浜松市西区

村櫛地区

むらくしちく

花・緑・水が調和する、美しい農村景観

村櫛は名勝浜名湖に三方を囲まれた庄内半島の南端に位置します。
先人の開拓した田園と湖の織り成す美しい景観が地域の宝です。
また、四季の花々が地域を彩る浜名湖ガーデンパークは「花の都　しずおか」のシンボルです。



花と緑と水の郷

村櫛は庄内半島南端に位置し、地域には平成16年の浜名湖花博の会場となった浜名湖ガーデンパークがあります。
周囲を浜名湖に囲まれているため、潮干狩り、釣りなどのレジャーが盛んです。また、遺跡や伝承も数多く、古くから人々が住み栄えていたことが伺えます。

三位一体の取り組み

邑では、地域の協働組織（自治会、土地改良区、ＮＰＯ法人）が三位一体となって、幅広い活動をしています。
ＮＰＯ法人むらちゃネットでは、浜名湖ガーデンパーク内の「お食事処むらちゃ」の運営や、子ども向けの自然体験イベントなどを開催しています。



花にあふれた町づくり

ＮＰＯ法人むらちゃネットの前身である、村櫛町ガーデンパーク推進協議会は、花博来場者を温かく迎えるため、住民総出で沿道の花飾りや遊休農地６ヘクタールの菜の花の種まきを行いました。
花博開催期間中は、会場内に町営の食堂「花博食堂」を出店し、来場者に浜名湖の魅力を味わってもらうとともに、地域に経済効果をもたらしました。
このような様々な協働活動を実施するうえで、任意のボランティア団体であった村櫛町ガーデンパーク推進協議会は、「花と緑と水と安心癒しを提供する事業を行い、地域に住む人を始めガーデンパーク来園者に寄与する」ことを目的にＮＰＯ法人むらちゃネットとなりました。
団体名には、村櫛の「むら」に、親しみをこめた呼称である「ちゃん」を地域の独特の言い回しにした「ちゃ」を併せるという小学生のアイデアが採用されています。
「お食事処むらちゃ」では、地産地消をコンセプトに旬の素材の使用にこだわっています。広大な敷地の浜名湖ガーデンパーク内で唯一屋内飲食ができる施設として、来園者の一休みの場になっています。テイクアウトも可能なので、天気の良い日には広場で花々を眺めながら食事をすることもできます。



邑の語り部



ＮＰＯ法人むらちゃねっと　代表
杉田　日出男さん

平成16年の浜名湖花博来訪者へのおもてなしとしての環境整備に始まり、ＮＰＯ法人の設立、耕作放棄地を活用した景観作物の栽培等々、様々な取組を進めてきました。美しい“水と緑と花の邑”をこれからも子供や孫達に引き継いでいくよう、活動を続けて行きたいと思います。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

JR浜松駅－（遠鉄バス　舘山寺経由）－浜名湖ガーデンパークバス停

■お車を御利用の場合

東名高速浜松西ICより　約25分
新東名高速浜松いなさICより　約35分

邑の農地／田5ha、畑32ha
主な農産物／菜の花油



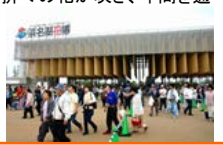
村櫛酒販売所

150年前に「村櫛村酒販売所」として創設され、現在でも珍しい自治会運営の酒屋です。安政の大地震により疲弊した村の経済を立て直すために村人が知恵を出し合って互助の精神で創り、現在まで引き継がれてきました。



浜名湖ガーデンパーク

浜名湖花博の会場から浜名湖ガーデンパークとして再整備された56ヘクタールの敷地内には、四季折々の花が咲き、年間を通じて散策を楽しむことができます。
また、高さ50メートルの展望タワーからは浜名湖とその周辺360°の絶景が望めます。



三方原農業用水

三方原農業用水は、天竜川の秋葉ダムより取水し、三方原台地及びその周辺農地へ配水するため、昭和30年代より整備されました。現在は浜松市の多彩な農芸品生産を支える用水として、その重要性がますます高まっています。



西部地域

浜松市南区

大塚地区

おおつかちく

みんなが誇れる町に、きれいな花、緑で一杯に

大塚は、安間川と天竜川の間に位置し、浜松市中心部より車で15分ほどの都市近郊型農業振興地域です。

生産した作物は祭りの際などに地域に提供し、地域の人々と一緒に味わうことで、地域の輪を作っています。



花のもてなしオープンガーデン

地区内には、飯田公園としても知られているみどり～な(浜松市緑化推進センター)があり、また、オープンガーデンが定期的に開催されるなど、地域住民の園芸への関心の高さがうかがえます。



地域一丸の取組

「みんなが誇れる町に・きれいな花、緑で一杯に・農地、水を大切に」をスローガンに、花の会及び自治会が中心となって、地域の景観形成及び耕作放棄地の解消に取り組んでいます。

花の種まきや野菜の収穫作業は、子供会や地域住民も参加する交流の場となっています。収穫した野菜は、地元住民で分け合うことで地産地消の取り組みも行っています。



遊休農地を活用に活用

大塚は、一級河川安間川と天竜川の間に位置する都市近郊の地域です。地域では主に、ゴボウ、生姜、エビ芋などが盛んに生産されています。

邑の活動組織である大塚愛郷会は、平成21年度にふじのくに美農里プロジェクトの組織として活動を開始しました。

平成22年度には、自治会ごとの水路の清掃及び草刈り活動が活発になり、遊休農地を活用した、コスモス、ひまわり、ポピーなどの景観植物の植栽も始まりました。



邑の語り部



大塚愛郷会
代表
鈴木 康允さん

みんなが誇れる大塚町をめざし、地域ぐるみで花の種まきや農業体験を行っています。

また、オープンガーデンのイベントは、多くの皆様から好評をいただいております。

きれいな花と緑で一杯の大塚町においでください。

アクセス方法

■公共交通機関を御利用の場合

JR浜松駅ー(遠鉄バス　北寺島・大塚行き)ー大塚南バス停

■お車を御利用の場合

東名高速浜松ICより　約10分

新東名高速浜松いなさICより　約30分

邑の農地／田3ha、畑16ha

主な農産物／エシャレット



エシャレット

エシャレットは、浜松南部地域で栽培されています。砂地の特性を生かし、栽培方法の改良を重ねてきました。みずみずしく、辛みとほのかな甘みのある高品質エシャレットとして全国有数の出荷量を誇ります。



みどり～な(浜松市緑化推進センター)

みどり～な(浜松市緑化推進センター)には、約500種15,000本の植物があり、庭樹・生垣等の31の見本園と植物が見せる四季折々の風景を一年を通じて楽しめます。また、芝生広場や小川もあり、遊べる・学べる植物園です。



オープンガーデン

毎年春、ガーデニングに取組む住民が、自慢の庭を開放するオープンガーデンを開催しています。大塚は西部地域のオープンガーデンコンテストに参加し、耕作放棄地を活用した景観作物の栽培で高評価を受けています。





世界に誇る静岡県の食
ふじのくに「食の都」づくり

静岡県は、日本一高い富士山や日本一深い駿河湾をはじめとする多様な風土に恵まれ、生産される農林水産物の数は全国でもトップクラスを誇るとともに、農林水産大臣賞の受賞数も常に上位を占めるなど、数・質ともに食材の宝庫、いわば「食材の王国」です。

本県では、この「食材の王国」という「場の力」を活かし、食材を生産する生産者と、これを料理し提供する料理人とを結合させ、地域で採れたものを地域で、おいしく、楽しく、美しくいただくという“ふじのくに食文化”を創造し、国内外の人々を惹きつけるふじのくに「食の都」づくりを進めています。









ふじのくに
食の都づくり仕事人

ふじのくに「食の都」づくりの一環として、静岡県産の食材を積極的に活用し、本県の農林水産業や食文化の振興に貢献している料理人や菓子職人の方々を「ふじのくに食の都づくり仕事人」として表彰しています。
仕事人の皆さんには、「食の都」づくりの推進役として、生産者と消費者の皆さんをつないで、食の大切さや素晴らしさを伝えていただくとともに、ふじのくにの“食”の魅力を広く発信していただいています。



ふじのくに「食の都」シンボルマーク

エンブレム風の外形に「食」の文字を表し、空、富士山、果実、“ふじのくに”と“フード”の頭文字の「F」、波、深い海底を盛り込むことにより、食の源が日本一深いことを表現しています。

ふじのくに食の都 検索

http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-110/syoku_miyako.html

食の都 ふじのくに 大路

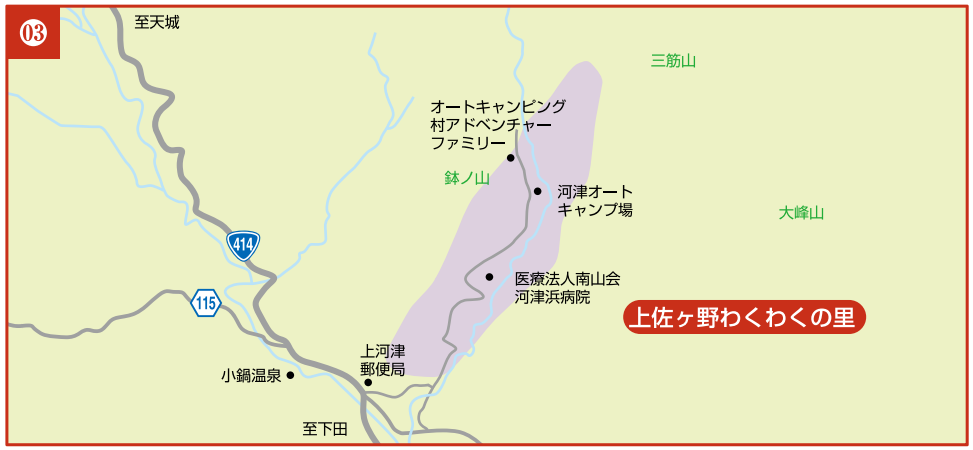
東西南北に広がる「食の都大路」から
ふじのくにの多彩な魅力を発信します




「ふじのくに 美しく品格のある邑」
平成24年度登録
45邑のアクセスマップ
伊豆地域


01
至天城
至河津
高根山
小松野山
下大沢
蓮台寺駅
伊豆急行線
相模湾
伊豆急下田駅
下田市役所
九十浜
海水浴場
下田公園
至南伊豆
414
118
135
119
117
116


02
至熱海
遠笠山
伊雄山
伊豆高原駅
天城山
万二郎岳
伊豆急行線
伊豆大川駅
相模灘
大川
伊豆北川駅
至下田
135


03
至天城
三筋山
オートキャンピング
村アドベンチャー
ファミリー
鉢ノ山
河津オート
キャンプ場
大峰山
414
115
医療法人南山会
河津浜病院
上佐ヶ野わくわくの里
上河津
郵便局
小鍋温泉
至下田


04
119
至南伊豆
136
至下田
日野 元気な百姓達の里
121
南伊豆町
役場
農産物直販所
「湯の花」
マーガレット
ライン
至南伊豆
温泉民宿
南伊豆


05
至西伊豆
松崎警察署
松崎港
室崎
松崎町役場
15
萩谷崎
136
町営総合
グラウンド
岩地温泉
重要文化財
岩科学校
121
黒崎
小杉原オート
キャンプ場
烏帽子山
石部 赤根田村百笑の里
至南伊豆


09
至修善寺
伊豆修善寺
ポマトランド
伽藍山
136
127
土肥オート
キャンプ場
伊豆月ヶ瀬梅の里
西伊豆
バイパス
136
至土肥
船原温泉
414
349
棚場山
124
伊豆市
天城湯ヶ島支所
土肥温泉
吉奈温泉
至河津


06
駿河湾
至土肥
らんの里
堂ヶ島
高島
136
西伊豆
町役場
中
大野山
至河津
松崎
警察署
松崎港
122
115
室崎
松崎町役場
15
萩谷崎
136
岩地温泉
至南伊豆
121
重要文化財
岩科学校
婆娑羅山


10
至三島
柏谷公園
至函南
大仙山
伊豆
仁田駅
138
奈古谷温泉
韮山多田
大嵐山
原木駅
韮山
運動公演
伊豆中央道
至伊豆長岡
134
至韮山
133


07
至熱海
韮崎
伊東線
日本一のだいだいの里「多賀」
伊豆多賀駅
103
伊豆
スカイライン
網代湾
山伏峠
80
網代駅
107
網代温泉
網代朝日山
公園
135
至大仁
平井農園
至伊東


11
三島他谷田
郵便局
熱海峠
伊豆
スカイライン
至熱海
東海道新幹線
函南駅
鷹ノ巣山
函南運動
公園
135
135
11
東海道本線
136
141
丹那
大場駅
函南町役場
136
玄岳
至伊豆長岡
柏谷公園
大仙山
玄岳


08
至熱海
一碧湖
十足
引手力男神社
351
135
村上康成
美術館
112
青少年
キャンプ場
伊豆
シャボテン公園
111
伊豆
グランパル
公園
至天城
大室山
至下田

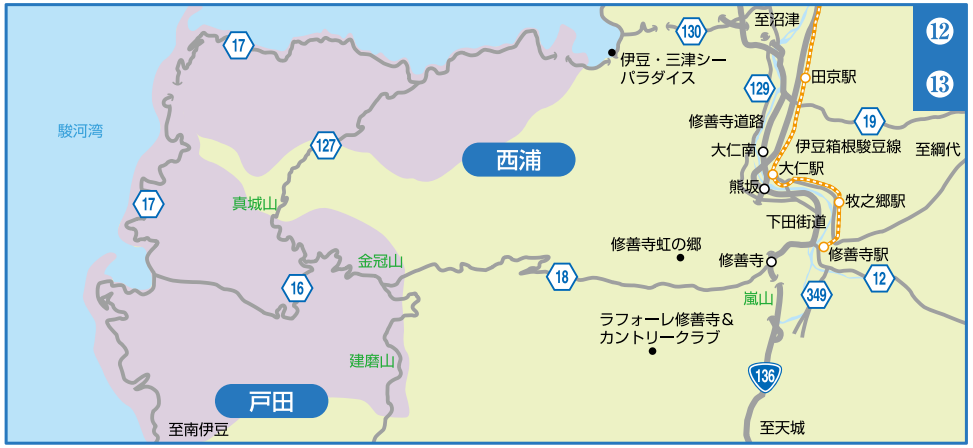
東部地域


20
16
17
21
22
14
19
15
18
12
13


15
394
至箱根
東名高速道路
三島箱根西麓
三島市立箱根の里
少年自然の家
裾野バイパス
246
三島カントリークラブ
グランフィールズカントリークラブ
山中城跡
東駿河環状道路
長泉
三島萩
1
東海道
長泉なめり駅
21
函南ゴルフ倶楽部
87
御殿場線
伊豆縦貫自動車道
三島塚原
三島市民体育館
下土狩駅
東海道新幹線
142
三島駅
東海道線
東海道
至沼津


16
151
至神奈川
至河口湖
東富士ダム
138
高根小上小林分校※
394
東名高速道路
150
足柄
246
箱根裏街道
西澤水系
裾野バイパス
78
365
469
御殿場市役所支所
御殿場警察署
足柄SA
401
至長泉
御殿場線


17
御殿場
至神奈川
裾野バイパス
155
東名高速道路
岡野山
南御殿場駅
パノラマ遊香の里
御殿場JCT
富士山こどもの国
富士サファリパーク
469
富士岡駅
ヘルシーパーク裾野
駒越PA
至富士
24
裾野市運動公園
155
愛鷹山
394
新東名高速道路
至長泉


12
13
至沼津
17
130
伊豆・三津シーパラダイス
田京駅
129
駿河湾
修善寺道路
19
127
西浦
大仁南
伊豆箱根駿豆線
至綱代
大仁駅
17
熊坂
真城山
牧之郷駅
下田街道
修善寺虹の郷
金冠山
修善寺
修善寺駅
18
12
16
嵐山
349
ラフォーレ修善寺&カントリークラブ
建磨山
136
戸田
至南伊豆
至天城

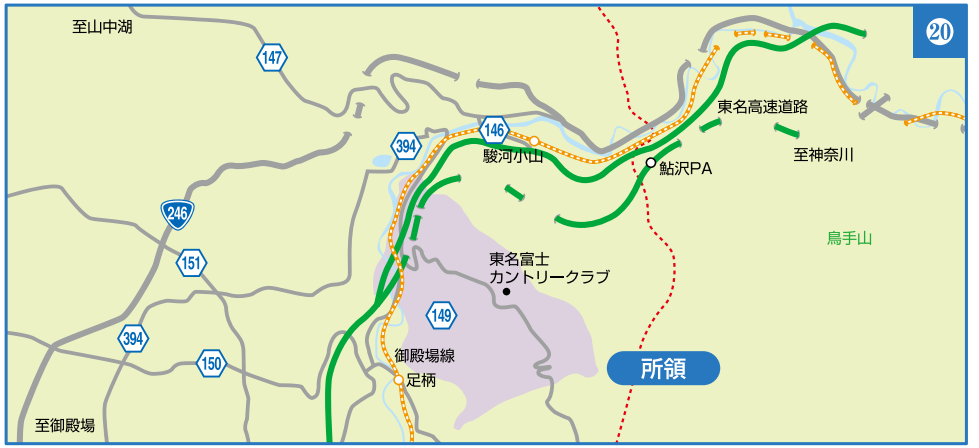

14
新富士IC
愛鷹山
至裾野
西富士道路
広見
富士IC
新東名高速道路
東名高速道路
浮島
伝法
高山
139
東海大学沼津校舎※
裾野バイパス
本吉原駅
比奈駅
須津駅
至静岡市
吉原本町駅
ジャスコ前駅
岳南富士岡駅
神谷駅
駿河湾沼津SA
363
沼津IC
長泉
新富士駅
吉原駅
167
浮島中※
浮島小
愛鷹PA
沼津岡宮
田子の浦港
沼津バイパス
166
愛鷹郵便局
246
東田子の浦駅
165
1
東海道新幹線
下土狩駅
東海道
原駅
164
22
駿河湾
片浜駅
大岡駅
東海道線

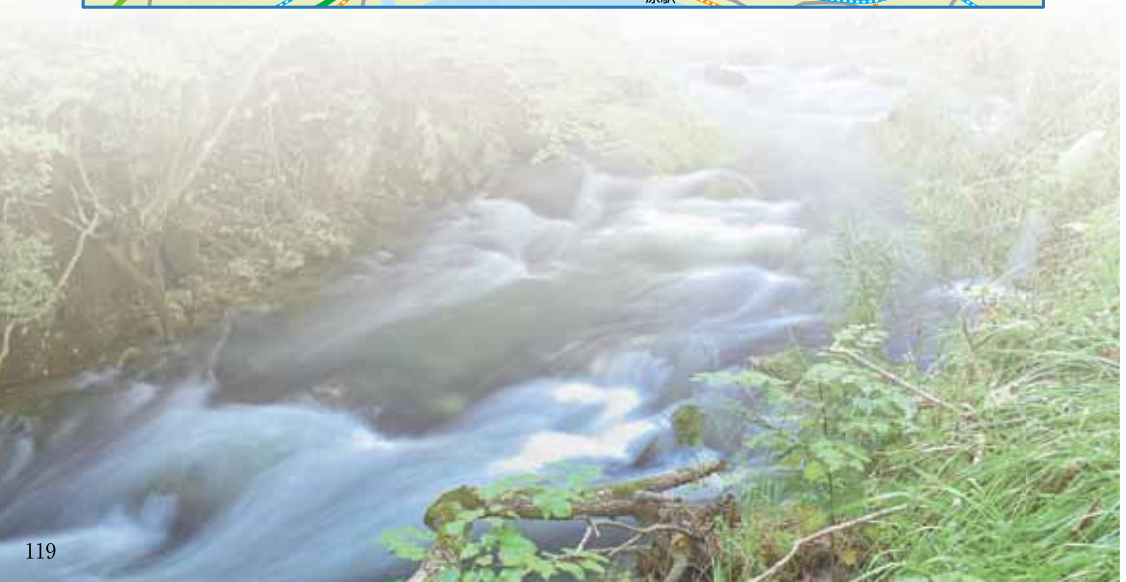

21
至身延
思親山
天子湖
内船駅
柿元ダム
寄畑駅
白水山
井出駅
南部町役場
身延道
十島駅
身延線
柚野の里
富士チサン
カントリー
クラブ
西富士宮駅
富士宮駅
源道寺
小泉
至富士
至御殿場
52
469
398
184
414
180
10
75
182
139


18
東海道新幹線
下土狩駅
三島駅
至箱根
三島広小路駅
三島田町駅
至富士
三島二日駅
東海道本線
伊豆箱根駿豆線
沼津駅
沼津
警察署
柿田川
狩野川
本城山
沼津
市役所
香貫山
下田街道
大場駅
久米田
沼津港
至伊豆の国
1
162
145
380
144
136
140
141
414

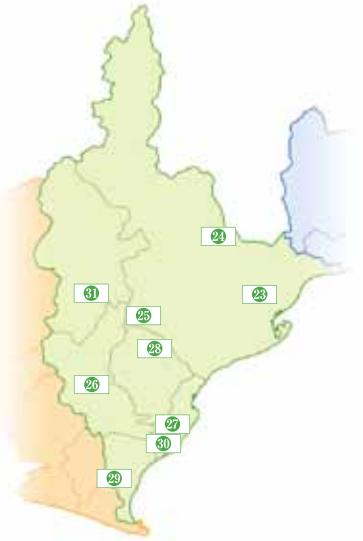

22
至山梨
ぐりんぱ
御殿場駅
至秦野
南御殿場駅
富士山
こどもの国
御殿場IC
富士岡駅
井出駅
十島駅
稲子駅
富士宮駅
小泉
岩本山とかりがね堤を守る邑
岩波駅
身延線
源道寺駅
新富士IC
富士根駅
愛鷹山
沼久保駅
御殿場線
広見
富士IC
伝法
岳南原田駅
新東名高速道路
裾野駅
神谷駅
駿河湾
沼津SA
富士川
スマートIC
ジャスコ前駅
比奈駅
沼津IC
沼津
岡宮
長泉なめり駅
新清水IC
岳南江尾駅
富士駅
愛鷹PA
下土狩駅
富士川駅
吉原駅
三島駅
清水PA
東海道新幹線
東田子の浦駅
原駅
1
180
469
807
52


19
至裾野
上長窪
県立静岡がん
センター
至富士IC
駿河湾沼津SA
東部運転免許
センター
沼津IC
87
394
長泉
なめり駅
愛鷹PA
沼津岡宮
裾野
バイパス
御殿場線
246
83
至三島
下土狩駅
東海道新幹線
405
三島駅
東海道線
沼津バイパス


20
至山中湖
147
東名高速道路
146
394
駿河小山
至神奈川
鮎沢PA
246
鳥手山
151
東名富士
カントリークラブ
149
394
御殿場線
150
足柄
所領
至御殿場



中部地域


21
31
23
25
23
26
27
30
29


26
大和田駅
八高山
473
220
81
至静岡
藤枝岡部IC
福用駅
64
高山
217
藤枝PA
福用バイパス
神尾駅
新東名高速道路
32
神座鵜網
藤枝市役所
216
大井川
藤枝市立
総合病院
81
島田金谷IC
1
東海道
藤枝駅
掛川PA
五和駅
日切駅
代官町駅
381
島田市役所
東海道本線
366
至浜松
六合駅
227
島田駅
東海道新幹線

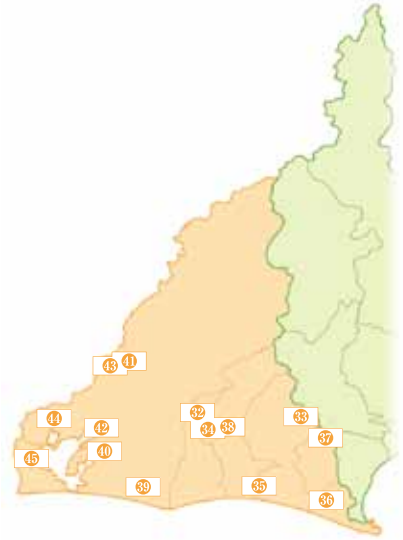

27
新東名高速道路
藤枝市役所
至静岡
静清バイパス
西焼津駅
藤枝駅
島田金谷IC
150
至掛川
藤枝平岡IC
356
33
島田市役所
六合駅
227
島田駅
342
金谷駅
大井川
355
東海道本線
航空自衛隊
静浜基地
駿河湾
富士山静岡空港
150
227
31
吉田IC
中の島
東海道新幹線
東名高速道路


28
至清水
静岡スマートIC
209
静岡SA
静岡駅
城山
静清バイパス
安倍川
高尾山
駿河区役所
玉露の里
東海道
静岡IC
至清水
1
安倍川駅
150
東海道新幹線
殿
210
宇津ノ谷
峠
東名高速道路
81
208
用宗駅
藤枝岡部IC
81
東海道本線
81
藤枝PA
209
新東名高速道路
藤枝バイパス
駿河湾
至島田
日本坂PA
焼津IC


23
24
静岡市
リバウェル井川
スキー場
至沼津
新富士IC
富士川
27
有東木
新東名高速道路
富士川
スマートIC
月見山
29
真富士山
新清水IC
富士駅
東海道本線
清水PA
東海道新幹線
新富士駅
わらび野温泉
52
身延道
76
新蒲原駅
蒲原駅
由比駅
安倍川
至川根
新清水JCT
52
由比PA
清水いはらIC
29
原・新丹谷
清水
JCT
興津駅
362
高山
27
新静岡IC
清水IC
駿河湾
東名高速道路
至焼津
清水駅


25
至富士
東海道
新幹線
新清水JCT
清水いはらIC
清水
JCT
興津駅
清水IC
東海道本線
新静岡IC
1
清水駅
新東名高速道路
御門台駅
新清水駅
362
32
静鉄清水線
草薙駅
63
県立美術館前駅
静岡
県庁
新静岡駅
日本平PA
藁科街道
静岡スマートIC
静岡SA
静清
バイパス
静岡駅
久能山
32
静岡IC
150
久能街道
63
東海道
安倍川駅
駿河湾
64
東名高速
道路
用宗駅
藤枝岡部IC
至牧之原

西部地域




32
至引佐
至川根
光明山
秋葉街道
観音山
至豊川
天竜川
新東名高速道路
天竜区役所
天竜二俣駅
西鹿島駅
上野部駅
豊岡駅
敷地駅
遠州森駅
森町PA
戸綿駅
島田金谷IC
掛川PA
フルーツパーク駅
遠州岩水寺駅
浜松
浜北IC
都田駅
富口駅
浜松大学駅
金指駅
遠州芝本駅
遠州小林駅
美薗中央公園駅
遠州小松駅
大江
一宮駅
円田駅
森掛川IC
袋井
みつかわ病院
原田駅
原谷駅
細谷駅
いこいの広場駅
天竜浜名湖線
遠州鉄道
金谷相良道路
西部地域㉜
敷地村
大尾山
至静岡
63
152
362
63
58
257
41


33
至川根
大井川本線
藤枝バイパス
至静岡
茶文字の里 東山
島田金谷IC
五和駅
日切駅
代官町駅
島田市役所
六合
東海道本線
新金谷駅
島田駅
新東名高速道路
掛川PA
栗ヶ岳
至浜松
大井川
金谷駅
富士山静岡空港
掛川バイパス
掛川城
東海道新幹線
金谷相良道路
39
1
473
234
73
233


29
掛川駅
東海道新幹線
東海道本線
掛川IC
菊川駅
菊川市役所
菊川IC
相良牧之原IC
牧之原SA
至浜松
東名高速道路
至焼津
牧之原市役所
菊川市立
総合病院
菅山原
相良バイパス
駿河湾
牧之原市役所相良庁舎
相良サンビーチ
海水浴場
遠州道路
至御前崎
150
473
245
242
37
69
244


30
富士山静岡空港
東海道新幹線
吉田IC
至焼津
坂部口谷川
大井川
大井川港
地獄峠
高根山
㈱小糸製作所
榛原工場
至菊川
牧之原SA
吉田たんぼ
牧之原
警察署
東名高速道路
至御前崎
駿河湾
79
73
34
150
342
233
31
230


31
高塚山
川根両国駅
至井川
千頭駅
362
崎平駅
徳山
青部駅
三星山
徳山浅間神社
高山
駿河徳山駅
60
大井川本線
無双連山
田野口駅
川根本町役場
362
77
32
下泉駅
至浜松
至金谷
至静岡


37
大井川本線
金谷駅
大井川
39
1
234
473
73
富士山静岡空港
東海道新幹線
至静岡
吉田IC
金谷相良道路
千框の棚田
掛川バイパス
東海道本線
掛川駅
掛川IC
菊川駅
233
79
235
小笠PA
至浜松
菊川市役所
相良
牧之原IC
牧之原SA
菊川IC
東名高速道路


34
至森町
283
58
天竜二俣駅
豊岡国際
カントリー
クラブ
至浜松
新東名高速道路
上野部駅
源氏とひまわりの里
西鹿島駅
磐田市立
豊岡東小
フルーツ
パーク駅
岩水寺駅
豊岡駅
至静岡
宮口駅
遠州
岩水寺駅
浜松
浜北IC
遠州
森駅
戸綿駅
362
遠州芝本駅
遠州
鉄道
敷地駅
遠州森町PA
森掛川IC
40
152
円田駅
遠江
一宮駅
遠州小林駅
鉄道線
天竜川
原田駅
美薗中央公園駅
袋井みつかわ病院
58
天竜浜名湖線
45
273
浜北駅
44
61
細谷駅
笠井街道
いこいの広場駅
遠州小松駅
太田川
至磐田
桜木駅


38
至森町
283
58
天竜二俣駅
豊岡国際
カントリー
クラブ
新東名高速道路
上野部駅
森町南部
西鹿島駅
磐田市立
豊岡東小
フルーツ
パーク駅
岩水寺駅
遠州
森駅
戸綿駅
豊岡駅
宮口駅
遠州
岩水寺駅
浜松
浜北IC
遠州森町PA
362
至浜松
遠州芝本駅
遠州
鉄道
敷地駅
40
152
円田駅
遠江
一宮駅
遠州小林駅
鉄道線
天竜川
袋井
みつかわ
病院
279
58
原田駅
美薗中央公園駅
天竜浜名湖線
45
273
浜北駅
44
61
細谷駅
笠井街道
いこいの広場駅
遠州小松駅
至磐田
太田川
桜木駅


35
袋井IC
菊川駅
掛川IC
小笠PA
遠州豊田PA
磐田IC
袋井市役所
菊川市役所
東名高速道路
至静岡
磐田バイパス
袋井駅
菊川IC
静岡エコパスタジアム
366
79
東海道本線
251
小笠山
至浜松
原野谷川
磐田
市役所
403
409
265
磐田駅
東海道新幹線
37
太田川
43
257
とうもんの里
横須賀城
跡公園
41
150
69
遠州灘


39
至浜松
三方原PA
さぎの宮駅
至静岡
自動車
学校前駅
浜松IC
遠州豊田PA
磐田IC
東名高速道路
庄内湖
姫街道
遠州上島駅
磐田バイパス
遠州曳馬駅
257
助信駅
天竜川
東海道
1
八幡駅
天竜駅
佐鳴湖
浜松市役所
遠州病院駅
豊田駅
磐田駅
第一通り駅
東海道本線
雄踏街道
新浜松駅
浜松駅
62
344
東海道新幹線
高塚駅
地域いきいき共生！恩地町みどり会
東海道
至湖西
1
浜松バイパス
掛塚街道
150


36
掛川駅
相良
牧之原IC
至静岡
東海道本線
愛野駅
小笠PA
掛川IC
菊川駅
牧之原
市役所
袋井駅
菊川IC
東名高速道路
79
静岡
スタジアム
エコパ
東海道新幹線
相良バイパス
150
242
駿河湾
至浜松
41
38
247
37
69
69
南遠道路
カカシ祭りの里 新野
遠州灘
御前崎
市役所
浜岡砂丘


43
三河川合駅
鳳来峠IC
三河慎原駅
柿平駅
鳳来寺山
高士山
鍵掛山
坂野山
ハサカ山
向山
城山
秋葉山
湯谷温泉駅
瀬戸山
カシ山
三河大野駅
本長篠城駅
浅間山
渋川寺野IC
光明山
長篠城駅
至豊川
大好き！渋川
秋葉街道
船明ダム湖
新東名高速道路
浜松いなさ北IC
浜松いなさIC
浜松いなさJCT
至豊川
至静岡
天竜川
天竜区役所

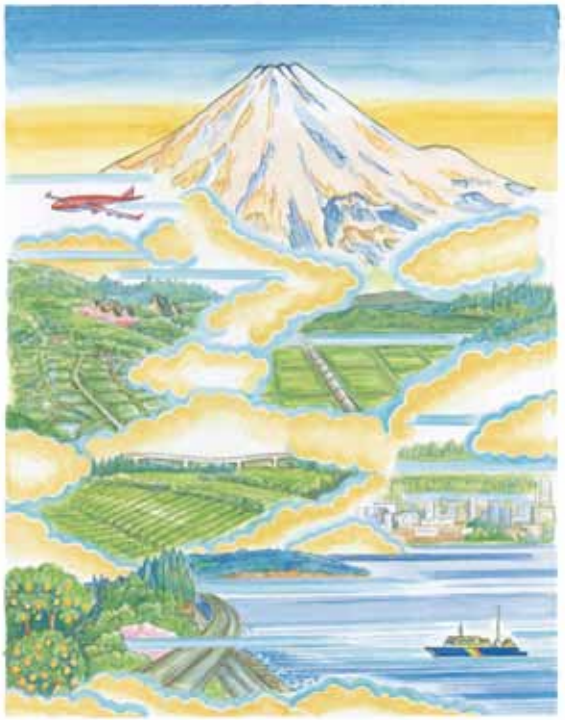

40
至引佐
都田駅
フルーツパーク駅
宮口駅
浜松大学駅
至豊川
金指駅
遠州芝本駅
気賀高校駅
東名高速道路
気賀駅
遠州小林駅
西気賀駅
三ヶ日IC
都筑駅
浜名湖佐久米駅
姫街道
美薗中央公園駅
天竜浜名湖線
寸座駅
浜北駅
浜松市浜北区役所
東都筑駅
和地ふるさと会
遠州小松駅
笠井街道
浜名湖SA
遠州西ヶ崎駅
積志駅
浜名湖バルバル
浜松西IC
遠州鉄道鉄道線
さぎの宮駅
浜名湖
三方原PA
浜松IC
庄内湖
遠州上島駅
自動車学校前駅
至静岡


44
至豊川
雨生山
至浜松
新東名高速道路
三ヶ日JCT
三ヶ日みかんの里
東名高速道路
坊ケ峰
三ヶ日駅
引佐峠
西気賀駅
気賀駅
板築山
三ヶ日IC
浜名湖佐久米駅
都築駅
天神山
奥浜名湖駅
浜名湖
寸座
尾奈駅
至湖西
浜名湖SA


41
三河川合駅
鳳来峠IC
三河慎原駅
柿平駅
鳳来寺山
高士山
鍵掛山
坂野山
ハサカ山
向山
城山
秋葉山
湯谷温泉駅
瀬戸山
カシ山
三河大野駅
渋川寺野IC
本長篠城駅
浅間山
光明山
長篠城駅
至豊川
夢未来くんま
秋葉街道
船明ダム湖
新東名高速道路
浜松いなさ北IC
浜松いなさIC
浜松いなさJCT
至豊川
至静岡
天竜川
天竜区役所


45
至三ヶ日
多米峠
豊橋市営球場
地波田駅
天竜浜名湖線
嵩山
大森駅
浜名湖
新所水とみどりのプロジェクト
至三河安城
東海道本線
湖西運動公園
新所原駅
湖西市役所
東海道新幹線
至浜松


42
銅鐸と水田のふるさと中川
至引佐
都田駅
フルーツパーク駅
宮口駅
浜松大学駅
至豊川
金指駅
遠州芝本駅
気賀高校駅
東名高速道路
気賀駅
遠州小林駅
西気賀駅
三ヶ日IC
都筑駅
浜名湖佐久米駅
姫街道
美薗中央公園駅
天竜浜名湖線
寸座駅
浜北駅
浜松市浜北区役所
東都筑駅
遠州小松駅
笠井街道
浜名湖SA
遠州西ヶ崎駅
積志駅
浜名湖バルバル
浜松西IC
遠州鉄道鉄道線
さぎの宮駅
浜名湖
三方原PA
浜松IC
至静岡
庄内湖
遠州上島駅
自動車学校前駅



［お問合せ先］

静岡県交通基盤部農地局

〒420-8601　静岡県静岡市葵区追手町9-6

TEL：054-221-2692　FAX：054-221-2809

E-mail：nouchihozen@pref.shizuoka.lg.jp

2013年2月4日発行

●本書の一部、あるいは全部を無断でコピーすることは、法律で
認められた場合を除き、著作権の侵害となりますので禁止します。



New Public Engineering for SHIZUOKA

いっしょに、未来の地域づくり。

静岡県交通基盤部